本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造 敷地内のD-1トレンチ内に認められる K断層の活動性 (令和6年6月6,7日現地調査 資料 活-2)

> 令和6年6月28日 日本原子力発電株式会社

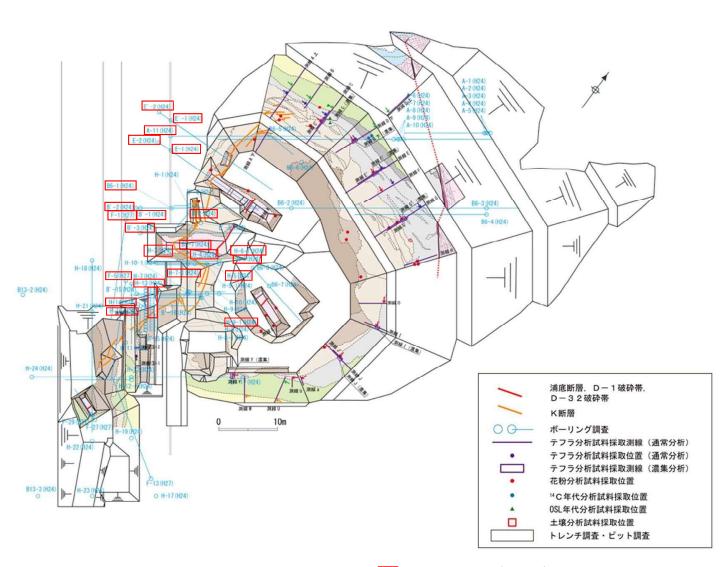
余白

- 本資料は、D-1トレンチで掘削したボーリングのうち、K断層を確認したボーリング孔の計32孔のボーリング孔を対象に取りまとめたものである。
- ボーリング柱状図は、ボーリング掘削後のボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として取りまとめたものであり、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき、コア観察カード、コア写真等に基づき作成している。
- 柱状図に記載している断層名は、観察時の所見である。また、深度については、K断層については周辺のカタクレーサイト帯を合わせた範囲の記事にK断層と記載してる。

# 目次

孔名	断面図	頁
H24-E'-2	断面B	9
H24-E'-1	断面B	14
H24-A-11	断面A	19
H24-E-2	断面C	24
H24-E-1	断面C	29
H24-B6-1	断面D	34
H27-F-1	断面l	44
H24-B'-1	断面D	49
H24-B'-2	断面D	54
H24-H-2	断面E	59
H24-B'-7	断面E	62
H24-B'-3	断面E	65
H24-H-6-1	断面F	70
H24-H-3	断面F	73
H24-H-4	断面F	76
H24-H-5	断面F	79

断面図	頁				
断面F	82				
断面I	85				
断面I	90				
断面I	94				
断面I	97				
断面G	100				
断面I	103				
断面I	106				
断面G	109				
断面I	112				
断面l	115				
断面I	118				
断面I	121				
断面I	124				
断面I	127				
断面l	130				
	断面I 断断面I 断断面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面				



□ : K断層を確認したボーリング孔

D-1トレンチ調査位置図(赤枠:対象ボーリング孔)

## ■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

#### •岩級区分

割れ目	コア		硬軟								
の状態	形状	A <sub>g</sub>	$B_g$	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>					
	Ig	в'	-	-	-	ı					
	П д	В'	C <sub>H</sub> '	-	-	-					
_	Шд	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-					
a <sub>g</sub>	$\mathbf{IV}_{\mathrm{g}}$	-	-	-	-	-					
	Vg	-	-	-	-	-					
	$VI_{\rm g}$	-	-	-	-	-					
	Ιg	в'	в'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-					
	П д	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-					
 	Шд	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-					
b <sub>g</sub>	$\mathbb{IV}_{\mathrm{g}}$	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-					
	Vg	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-					
	VIg	-	-	-	-	-					
	Ιg	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'					
	П д	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'					
	Шд	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'					
Cg	$\mathbf{IV}_{\mathrm{g}}$	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'					
	Vg	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'					
	VIg	-	-	-	D'	D'					
	Ιg	-	-	-	-	-					
	П д	-	-	-	-	-					
ا ا	Ⅲg	-	-	-	-	-					
$d_{g}$	$\mathbf{IV}_{\mathrm{g}}$	-	-	-	-	-					
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-					
	VIg	-	-	-	D'	D'					

### •硬軟

Ag	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
Dg	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

### ・コア形状

Ιg	50cm以上の長柱状
II g	20cm以上50cm未満の長柱状
Шд	10cm以上20cm未満の柱状
$\mathbf{N}_{\mathrm{g}}$	3cm以上10cm未満の岩片状~短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
$VI_{\rm g}$	1cm未満の土砂状

# -割れ目の状態

$a_g$	密着, 新鮮
$b_{g}$	酸化鉄付着
Cg	細粒物質を挟む。
$d_{\scriptscriptstyle{\mathrm{g}}}$	割れ目として認識できない。

## -風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまった くない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。 長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周 辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変 質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除 きほとんど変質し原岩組織は失われている。

## •変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの (肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。 または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く~殆ど残さないもの。

# •破砕度区分

区分	模様	詳細
Hc-1	いる。 一様混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫粒が進み軟質化している。	粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化して
Hc-2		粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化
Hb		礫質粘土状部, 粘土質礫状部, 礫質砂状部。 礫を多く含み, 基質は粘土, シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが, 礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部, 粘土混じり岩片状部, 粘土質岩片状部, 砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し, 全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いもの から, やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達 することがある。

余白

H24-E'-2

E'-2 (1 / 2)

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

車業		丁重夕
<b>**</b>	•	工事有

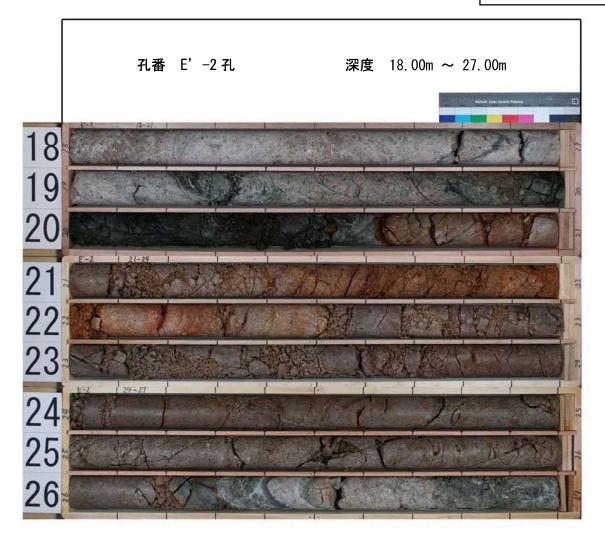
ボーリング名	E'-2 調	周査位置 X:395.945 , Y:	1131. 913		北緯	35° 45' 21.16"	
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間 2013 年 2月	2日~ 2013 年 2月17日	東 経	136° 1' 2. 59"	
調査業者名	È	上任 技 師	現 場 代 理 人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者		
孔口標高	19.85 m 角 上 方 北 上 90° 方 北	90°   盤   水平 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具			
総掘削長	27.00 m 度 下 <sub>0°</sub> 向 西 180°	東和記憶	エンジン	プジン ポンプ			

標	標	深	柱	岩	色	硬	п	割れ	風	変	記			- (	%)   <del>7</del>	1	孔内水	_	(		標準貫入 N値~深度	)試験	原位置試験	室	掘		径	コアチ			-1	差 排 水 水
尺	高	度	状	種区			ア形	目の状						<b>→</b> (	m T		☆E/測定月						試験(孔内水平載荷)	1	進月	4	/孔壁保	ューブ/ビッ	压 kN	数几	ΞĮ	· 量(L/分)
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事		0, , ,	50	100	}	É	値	o	10	20 3	0 40 5	前 荷	験	日	時	護	ŀ,	MPa	<u> </u>	<u>- ا</u> ع	
- 1	18. 67			埋土	褐						0.00~1.30m: 埋土 (磔實砂) 砂は中~粗砂が主体。碟は径5~40 mmの黒色亜角礫が主体で花崗岩質 の岩片も見られる。礫率30%程度。				400-4										2/ 2	95		ルクラ	2.0	120	1	泥 水 15
<b>–</b> 2			++++ ++++ ++++		浅黄	Dg	Vg	cg	r	2	1.30~27.00m: 花崗斑岩 (Gp) 1.91~2.63m: 土砂状を呈する。		/6 <sub>1</sub>	$\parallel$	de da	-											シング	ダブル コアチブイ シャモブイン マモン	0.5	150	, 1	泥 水 12
<b>—</b> з					明					3	●2.63~5.00m:破砕部 2.63~3.78m:粘土混じり礫状破砕 部(Hj)		( <b>0</b> )		100.4													-				
— 4					褐灰灰	Eg	VIg	dg	δ	4	上端43', 下端48'で不明瞭。灰白 色粘土が不規則に分布。 3.78~5.00m:粘土混じり砂状破砕 部 (Hb)		0		100-1											130		ダブルコアチュ				
— 5					白黄褐	Da	W.	cg	r		下端36°。 3.92~3.94m:上下端78°で波打ち、 幅10mm程度の粘土脈を挟む。 4.00~4.25m:3.92~3.94mの粘土		2 [ <b>0</b> ]		D										2/ 4		116	ューブ/ダイ	1.0	150	1	泥 水 10
— 6			‡+‡+‡ ‡+±+		140	Eg	VIg	dg	δ		脈が連続する。 4,00m, 4,18m:直線性に乏しい粘 土脈である。		1	Ш	100												ケーシング	/ダイヤモンドビ				'
— 7			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +		褐	Dg Eg Dg Eg	VI g V g	dg cg dg	r		4.50~4.56m:砂混じり粘土状破砕 部(Hc-1) 上端69',下端71"で境界は明瞭。幅 15mm。	Iŀ	1		100.4											90	9	トピット				
— 8					にぶい 黄褐 明 褐灰	Dg					5,00~8,00m:風化により大半が岩 芯まで劣化し土砂状~岩片状を呈 する。		4		100.4															+		+
— 9			+	花	灰にぶい橙	Eg		de	,		9.21~9.34m:割れ目密集部で軟質		5	₩	Н													ダブニ				
— 10			*	花崗斑岩	明褐灰	Dg Cg	V g			2	となる。 9.70~9.79m:岩盤劣化部で、上端 には幅6mmの石英脈を伴う。	lľ	7		100											95	116	ルコアチュー				
— 11			+		灰黄褐	Dg	Vg				10.58~11.20m:酸化汚染を強く受け、岩芯まで黄褐色化する。 11.20~14.87m:上位に比べ硬質で	F	( <b>b</b> )] 12												2/ 5		ケーシング	- ブ/ダイ	1.0	150	1	泥 水 12
— 12					145	Cg	₩g	cg			割れ目間隔は1~10cm程度である。 割れ目沿いの細片~細粒化が見ら れる。		10		CI											-		ューブ/ダイヤモンドビ				
— 13			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		灰褐	Dg	Vg		r		13.36m, 13.45m: 慎斜70~80°で,		12		100-4											120		ット				
— 14			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +			Cg	IVg				灰白色粘土を挟む。		12		100-4										2/ 7	100		ダブル ブアーダイン マーダモビト	1,0	150	1	泥 水 7
— 15			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		褐灰	Eg Dg		cg			●14.87~14.98m:破碎部 角礫状破砕部 (Hj) 上端48',下端52'。幅60~70mm。		[0]		100-4											100	86	ヤモンドドト	.,*	.50	1	5 .
— 16					浅黄	Eg	VIg	dg	δ	4	下端に幅2mmの灰白色粘土を伴う。 ●16.10~16.96m:破砕部 16.10~16.44m:粘土混じり砂状破 砕部(Hb)		0 (0)	$\parallel$											2/8	170		ダブル コアチ ユ <del>ー</del> ブ /ダイ	1.0	150		泥 水 10
— 17			******		緑灰灰褐	-I Dg	Vg	cg	r	3	上端40°で波打つ。下端62°で直線 的。淡褐色。 16.22m:粘土状破砕部(Hc-1)		0 [0]		cioe a Ci											80		ユーブインサドドト				5
											<ul> <li>傾斜22'、幅2mm。にぶい黄橙色。 16.44~16.96m:粘土混じり礫状破 砕部(Hj) 下端54'で凹凸あり。</li> </ul>								•		'	'										

E'-2 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	⊐	割	風	変	記		<b>⊐</b> :	ア採	取斗	石	t	孔			(			進貫力			(运		原	室	掘		孔		給	回	送	送	排
				種			ア	れ				i	最之		(% ア長		,	内水位	-		(		N	値~	深度		)	図	位置試	   	進	進速		アチュ		転	水	水	水
尺	高	度	状					目の					R	⊸ Q	cm			(m)		1									験			度	괴	   ブ	圧	数		量	量
				区			形	状				ľ			[%	ᅵᅜ		測定	,										(孔内水	試	月		壁保	/ビッ	kN	rpm	MPa	/୮)	<u>L</u>
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事		,	50		分		定月日	値	直		10		20	3	0	40	5	水平載荷)	験	B	時	護	۴	MPa	_	)	分)	分
			#:::#			Dg	Vg	cg	γ	3	●18.24~19.45m:破砕部(K断層	0		ШΪ	Щ	CL.				T				Ī			Ï												П
19					灰褐	Eg	VIg	dg		3	) (変質作用による岩盤劣化も見られる)	Ī	0]	Ш	Щ	D,																		ダブルコアチ				泥	
			XI: +1X	1	`~			Ш			18.24~18.43m:粘土・礫混じり砂 状破砕部 (Hb)	14	1	Ш	110		4														2/8	80		コーデングインドビー	1,0	150		泥 水 15	10
_ 20			<u>+</u> +++		緑	Dg	1	- 1		3	上端32°, 下端22°。上部(18.24 m付近)は粘土分に富む。下位のHj	H	0]	₩	₩	H						+					_							1					1 4
			<u> </u>		黒橙	Dg	Vg	dg	<i>'</i>	4	との境界は不明瞭。灰褐色を呈す る。	H	01	Н	+++	*															H	╁	1	3,					Н
- 21			+‡+‡+		褐灰	Cg	IVg	H			18.43~18.86m: 粘土混じり礫状破 砕部(Hi)	Н	,	Ш	₩	Ha.						+		+			$\dashv$							タブルコアチ					-
			#####		にぶい		Vg	cg			上端22° (不明瞭) 下端64°。 一部に原岩の組織が認められる。	đ	)	Ш	119	*																		7				汇	iΙ
			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩	明赤灰	1	Πg		δ		不規則に灰白粘土を伴う。灰褐色 を呈する。幅30cm。		1	Ш								$^{\dagger}$									2/ 9	55	86	ブ/ダイヤモ	1.5	120		泥 水 10	0-
_ 23			#####	斑岩			Vg				18.86~18.87m:砂混じり粘土状破 砕部 (Hc-2)	Ц	Ц	[22]	II I	Π																	"	カキンドル					
-			‡+++ ++++		褐		VIg	dg		2	上下端とも64°。不規則に湾曲するが連続している。オリーブ黒色	4	9]	Ш	110	D.																		2					Ш
- 24			‡+ <u>+</u> +		炭		ΙVg				を呈する。幅5~10mm程度。 18.87~19.10m:礫混じり砂状破砕	н	13	┪╢	₩	+						+					+							ダブルコアチ					1 1
			#####				IV g		r		部 (Hb) 上端64°, 下端61°。下部 (19.10		Ì	35	1 4	*																							H
─ 25			#####		100	Cg		cg			m付近)は幅4mm程度にわたり灰白 色粘土に富む。明褐色を呈する。		10	T	Ħ,	HCL.													1		2/10	50		7 /2	1.0	180		泥水7	٥٦
_ 26			#####		灰褐		IV g				幅10cm程度。 19.10~19.45m:角礫状破砕部(Hj		[10]	1		1						_												ューブ/ダイヤモンドビ					1 4
			<b>⋣</b> ‡‡‡ <b>‡</b> 81:+18		緑灰	Eg Dg	VIg V E	dg	#	Ħ	, 下端59°で直線的。明赤灰色~暗	Į.	1	Ш	110	₩ D.	1																	14					iΙ
	<b>-4</b> . 62	27,00	Mi:+iR	_	火	Eg	VIg	dg		3	緑灰色を呈する。幅20cm。 19.45~20.63m:変質により緑黒色	ľ	Y'	Ш	Ш	Щ,	-	-	+	Ш									-		2/11	60		)  -	1.0	150		泥水	0
											を呈する。土砂~砂礫状を呈する。 ●26.30~27.00m:破砕部																												H
											26.30~26.40m: 粘土質礫状破砕部 (Hj)																												l
											上下端48°。幅60~70mm。黄鉄鉱や																												
											雲母類を伴う。 26.40~26.41m:砂混じり粘土状破																												
											砕部 (Hc=1) 上下端48°で両端とも波打つ。幅10																												iΙ
											~15mm。灰色。 26.41~26.48m:粘土混じり砂状破																												iΙ
											砕部 (Hb) 下端50°で明瞭。幅50mm程度。下端																												iΙ
											は変質し緑灰色を呈する。																												iΙ
											26.48~26.67m: 健岩部が残る。 26.67~27.00m: 粘土混じり角礫状																												iΙ
											破砕部 (Hj) 上端56°。黄鉄鉱、雲母類を伴う。																												





H24-E'-1

E'-1 (1/2)

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.											1	
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

事業		工事名
<b>*</b> *	-	<b></b>

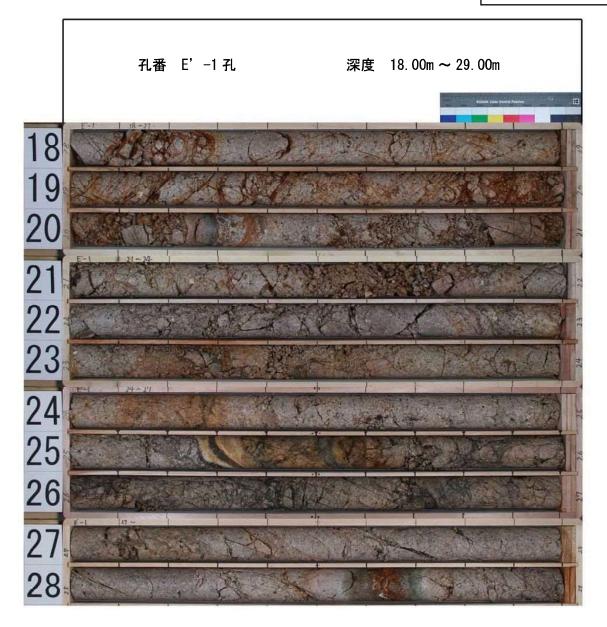
ボーリング名	E' –1	調査位置 X:397.883 , Y:	1130. 584		北緯	35° 45′ 21.17″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 1月13日~ 2013 年 1月26日	東 経	136° 1′ 2.68″
調査業者名		主任技師	現 場代理人	コア鉄定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	20.79 m 角 上 方 方 上 90° 方 270° /	/   \ 90°   雖   小丁 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	29.00 m 度 下 向 西寸		エンジン	ポンプ		

総	掘り	<b>小</b>	25	9.00 r	n 度	Ŧ	°.	$\times$	5.0°	向	西 180 南 87.0 配 60	様 2 ブ   ポ 2 ブ	_				
標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割れ	風	変	旨	ア採取率 → (%) 大コア長 級	コアチ	給	回対転の		
₹	高	度	状	種区			ア形	目の状					ューブ/ビ	€N	数点	五量	
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状		化	質	事	N		MPa ·	rpm M	Pa 分	3   5
- 1				埋土	明褐灰						0.00~2.36m: 構造物および埋土 0.00~1.65m: コンクリート 1.65~1.90m: 砕石	1/13 44 116	ダブル ファーダ マニーダ マニーダ ヤモピッ		180	泥 水 20	E k 0
- 2	19. 12	2.36		_	黒褐						径30〜50mm。硬質な砂岩。 1.90〜2.36m:砂礫 マサ土からなる緩い埋土。	1/14 80	タフル コアナ コープ メカラ		180	泥 水 15	5
3			++++ ++++ ++++ ++++		明黄褐		VI g			2	2.36~29.00m: 花崗斑岩 (Gp) 斑晶は径1~5mmの石英、長石。 2.36~8.22m: 全体に軟質で、コア は土砂~岩片状を呈する。部分的 に岩組織と割れ目は不明瞭となる。	130 <u>7</u>	#37 #37 #37 #37	1,0		泥 水 18	E 1
4			++++ ++++ ++++ ++++ ++++						δ		3.46m:マンガン脈を切る白色粘土 脈が認められる。傾斜55。 ●6.90~6.95m:破砕部 6.90~6.92m:礫混じり岩片状破砕	1/15	チューフノダイヤ		150	泥 水 15	E 1
5 6			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		黄褐明	Eg	VIg	dg		2	部(Hj) 上端50°で波打つ,下端は35°で直 線的。暗灰黄色。径最大2cmの礫あ り。	000 T T T T T T T T T T T T T T T T T T	ナンドビット			15	j .
7			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		明黄褐	D	Vg			4	6.92~6.95m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上下端35°でほぼ直線的。幅10~35 mm。灰黄色。石英粒を含み軟質。 上下端はマンガン汚染が見られる。	110 116	フ				
8			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		明褐	Cg		cg	r	2	6.95〜8.22m: 傾斜10〜40'と, これに斜交する傾斜60〜80'の割れ目が分布し, マンガン汚染が見られる。	7 100-101 V 100-	ルコアチューブ				
9			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		灰	Dg	Vg				8.43~10.16m: 割れ目に沿ってマンガン汚染が見られ、コアは岩片 状を呈するものが多い。 10.16~10.31m: 角碟状を呈する。 ●10.31~14.05m: 破砕部(低断層	1/15 264	ブ/ダイヤモンドビ	1,0	150	泥 水 15	EK 5
11				花崗斑岩	灰黄					3	) 10.31~10.57m:粘土混じり礫状破 砕部(Hj) 上端45°, 下端40°, いずれも不	100.	ンドビット				
12				岩	灰褐	Eg	VIg	dg	δ	3	明瞭。明裙灰色を呈する。幅20cm 程度。 10.57~10.72m: 礫質粘土状破砕部 (旧) 上端40°, 下端18°。灰黄褐色を	D. D				+	1
13					橙					3	呈する。幅10~15cm程度。 10.72~10.74m: 砂湿じり粘土状破砕部(Hc-2) 上端18°, 下端18°。灰黄褐色を		ダブルコ				
14			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +								呈する。幅15~20mm程度。 10.74~11.45m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端18°, 下端74°。灰黄色を呈	95	ルコアチューブ	1.0	150	泥水15	E
16			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		明褐灰		Vg				する。幅50cm程度。 11.45~12.74m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端74°, 下端18°。明褐灰~灰褐色を呈する。幅80cm(推定)。	86	/ダイヤモンドビ		130	15	š
17			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +			Dg		cg	r	2	12.74~12.76m: 砂混じり粘土状破砕部 (Hc-2) にぷい黄橙色を呈する。幅5~15mm。	CL. 175	トピット				
18			+++++		褐灰		Ns				12.76~12.94m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端18°,下端22°。主として変 質作用によって岩盤が劣化し、灰 白色を呈する粘土を主体とする基	1/09-1	ダブル コアチブ ノダイ ヤビン	1.0	150	泥 水 10	E
			‡+‡+ ++++				Vg				盤となる。灰褐色を呈する。幅20c m程度。 12.94~14.05m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)	+++++++++++++++++++++++++++++++++++++++	ヤモン ドピッ ト		4	10	)
											1. "#22" 下端26" 上下位に比べて酸化汚染を強く受け、褐色化 が見られる。初生的な割れ目の大 半は汚滅する。岩芯まで岩盤が会 化し軟質(硬色) となる。橙色を 呈する。幅(100m程度。 13.94m: 指土状破砕部 ((ho-1)) 傾斜22" で湾曲する。軟質である。 黄色を呈する。幅4mm。 14.05-25.18m: 主として風化作用 による岩盤劣化部、工規則に敷細 な割れ目が分布する。割れ日沿い						
											に細片〜細粒化がみられる。 16.65m, 16.66m; 8m0.5mmの灰白色 お土を挟む。 17.80m; 青灰色に変質し、 420mm程度の灰白色松土を挟む。 傾斜30。褐色汚染が見られる。 18.09~18.30m; 割れ目が密集し、 角碟~岩片状を呈する。						

E'-1 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	変	雪		コア採取率 岩	孔		(		標準貫入	)試験	原	室	掘	掘	孔	_	給		送送	差 排
								n					<u>→</u> (%)	内水	^	(		N値~深度	) 図	原位置試			進	径	アチ				k 水
尺	高	<u>_</u>	445	種			ア	目					取入コ/玉  級	位	N					試験	内	進	速度		고				計量
		度	状 	区			形	の					R Q D 🗵	/						1	試	月	ć (m	孔	71	$\neg$		~ -	
								状					7_ [%]	測定月	_   <del>+</del>					(孔内水平載荷)		-	/	壁保護		kN MPa	rpm W	IPa 名	分分
(m)	(m)	(m)	図	分	l			態			事		分 50 100	Ħ	値	0	10	20 30	40 50	載荷	験	日	時)	護		wir a	-		ت اد
			++++ ++++ ++++		褐灰	Dg Eg	V g	cg	r	2	20.27~20.30m:変質により、暗青 灰色を呈する。		5 (100)4												5				
— 21			++++		明褐灰						●20.30~20.38m:破砕部 20.30~20.37m:砂礫質粘土状破砕		[0]										160		ダブルコアチ				-
			++++			Dg	Vg	cg	r	2	部 (Hb) 上端23', 下端25'でいずれも直線		[0] (100) CL.																
- 22			<u> </u>		灰褐		_				的。幅50mm程度。変質した岩片を 含む。 20.37~20.38m: 粘土状破砕部(Ho		8												1,		450	if	₽ .
_ 23			₽₽₽			F.,	IV g			4	-1) 下端25 で直線的。幅10mm。橙色。		[D]				_					1/22			ューブ/ダイヤモンドビ	1.0	150	л л 1	0 8
			I++++		灰黄	Eg	Vig	dg	δ		●22.77~23.01m:破砕部 粘土混じり砂状破砕部(Hb)		(b) (100) a										120		ヤモン				
- 24			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑		Dα	v	cg	r	2	上端17', 下端19'。褐灰〜明黄褐 色。強く変質している。22.83mに		4				+												-
_ 25			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	斑岩	灰褐	J. S.		l os	ľ		幅2~5mmの赤褐色粘土脈を挟む。 ●25.18~25.36m:破砕部(G断層 、		[0] (100) a											86	ット				
			<b>□</b> + + <b>□</b> + + + +			Eg	VIz	dix	δ	4	, 25.18~25.27m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj)		3 (100)-4												ダブル		T	T	
<b>—</b> 26			  -  -  -		にぶい						上端45°で不明瞭、下端60°で湾曲 する。		5 CL'										100		ルコアチ				-
_ 27			++++		黄橙						25.27~25.29m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)		01 (100) 1 <sup>(1</sup>												Ţ			if	€ _
			<u> </u>			Dg	Vg	cg	r	2	下端56°。幅15~20mm。 25.29~25.31m:砂混じり粘土状破		6 (100)-									1/23			ユーブ/ダイヤモンドビ	1.0	150	ガ カ 1	Ř 5-
_ 28			<u> </u>		明褐灰						砕部(Ho−2) 下端56 で波打つ。幅10mm程度。黒 褐色。	ļ	(b)							-			135		ヤモン				-
	0.29	29,00	<u></u>		灰白						25.31~25.32m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)		[]1]												トビッ				
	0, 20	23,00	.+.+.								上端56°。下端56°。やや波打って 連続。幅5mm程度。								l								╅	$\top$	
											25.32~25.36m: 粘土混じり砂礫状 破砕部 (Hb)																		
											下端43°。幅30~40mm。 25.36~29.00m:割れ目間隔は1~3																		
											cm程度で、一部に割れ目が密集する。 28.55~28.71m: 青灰色に変質する																		
											28.61~28.66m: 灰白色粘土混じり																		
											礫状を呈する。																	$\perp$	





H24-A-11

A - 1 1 ( 1 / 2 )

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業	工事名

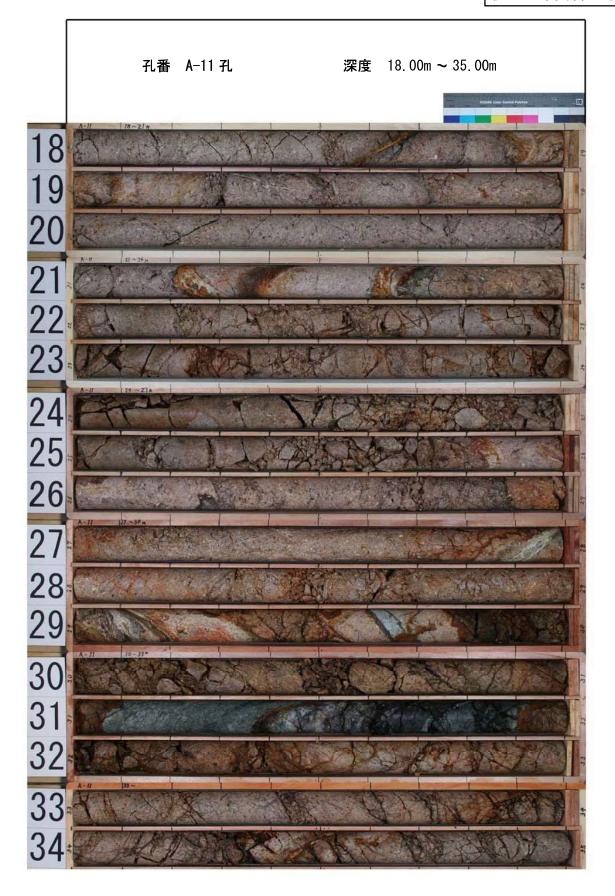
	<u> </u>					
ボーリング名	A-11	調査位置 X:397.839 , Y:	1128.000		北緯	35° 45′ 21.10″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 2月 1日~ 2013 年 2月19日	東 経	136° 1' 2. 74"
調査業者名		主任技師	現 場 代 理 人	コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	20.58 m 角 上 方 <sub>270</sub> 。	北 0° 地 使 用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	35.00 m 度 下 <sub>0°</sub> A5.0° 向 西	東 勾 鉛 値 0.0 機種	エンジン	ポンプ		
標標深	柱岩色硬匀割風変	記コア採	取率岩	孔 (標準貫入 )試験 原原	室掘掘	孔马給回送送排
1 1 1		_ <del></del>	( N )	一一十 / N店.源库 )図 一片	l I	

総 :							0, .	$X_{\underline{4}}$	15.0°	向	南 53.00 配 90.	0.0	0°	種			シ																							
漂	標	深	柱	岩	色	硬	-	割	風	変	記		٦7	ア採		- 1	岩		孔		(				集實,			) 試		原	室	掘	掘	ŦL	_	給	回	送	送	<u> </u>
				種			ア	れ				i	最え	ナコ		<b>=</b>	級		内水位	_		(		N	値~	深度		)	図	位置試	内	推	進速		ーナ		転	水	水	< z
ᄝ	高	度	状					目の					R	⊸ Q		m D			(m)	N										験			度	71	J		数	圧	量	1 1
				区			形	状							. [ 9		区		測定月	<u>_</u>										(孔内水平	試	月 	/	壁保			rpn	MPa		1/
m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事		0	50	)	100	分		H	値	o		10		20		30	40	Ę	前	験	B	時	100	ŀ	MPa	_	_	分	
				埋土	褐灰						0.00〜1.77m:構造物及び盛土 0.00〜1.50m:コンクリート 1.50〜1.77m:礫混じり組砂		H			(100)																2/	40	1/4	ダブル コアチェ ンダイ ヤモン	2,0	100	0.1	泥水10	1
	19. 33	1.77	/								1.77~1.95m:砂礫(3)層) 径10~80mmの花崗斑岩の亜円~亜 角礫と締まった砂質土からなる。	0	<u> </u>		+	(100)-																	_	ググ	FE's	_		L	10	1
2	19. 20	1.95	6 · 0 · 0 + + + + + + + +	少维	ı			dg			1.95~35.00m: 花崗斑岩(Gp) 1.95~5.58m: 著しく軟化する。 3.32m: 白色粘土挟在。傾斜45°, 幅	142	<b>(</b>			100			_															100/ ケージ ング	925					
3			++++		明黄褐						20~30mm。薄く赤紫色粘土を伴う。 5.58~10.20m: 傾斜40~70°の割れ	l H	, W.)		$\parallel$			1	7 2,80 2.4		ŀ		+									2/	<sup>2</sup> 60		コュノヤモビト	2.0	100	0.1	泥水 10	1
4			#####			Eg	VIg		δ		目が交差する。一部で幅1~5mmの 白色粘土が網状に分布し、割れ目沿 いの細粒化やマンガン汚染がみられる	[0	0]		$\blacksquare$	H	D'				$\ \cdot\ $		+							-										
5			‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ † ‡ † ‡			1				2	0	10	(0)			100:4																								
			‡‡‡‡‡ ‡+‡+‡	花							●10.20~12.76m:破砕部(K断層) <スライム含む> 10.20~10.58m:礫質粘土状破砕部	3 (0	3 ( <b>0</b> )			100:4																	95		ダブルコ					
6			##### ######	崗斑岩				cg			(Hb) 上下端の境界角度は不明(上端は 礫状コア、下端はスライムのため		6		H	(100)																			ルコアチュ					
7			‡+++ ++++	_	IS.	Dg	Vg			3	)。径1~5mmの石英粒と径5~10mm の一部粘土化. 一部岩組織が残留 する岩片を含む。白~にぶい橙色		5		H		CL'															2/	<u>.</u>	100	12	1,0	100	0.1	泥水10	1
8			##### #####		にぶい黄					2	を呈する。幅21cm以上。 10.42~10.58m:スライム 10.58~11.17m:粘土混じり礫状破	1	( <b>0</b> )]		$\frac{1}{1}$	H					-		+							-				ケーシング	ダイヤモンドビ				"	
9			+++++		橙	Eg	VIg		r	3	砕部(Hj) 上端不明(スライムのため),下	10	(0)			100-4	D'						1										125		ンドビッ					
10			‡+‡+‡ ‡+‡+‡			Dg	Vg			2	端15°で,直線的でシャープに連 続。コア全体が変質により軟化。 上位側の10.95m以浅では厚さ1~4m	4	4 (0)	Н	$\parallel$	(100)-	OL'	- 11	7 9,30 2/7 7 9,70 2/8																ット					
10	13, 21 13, 10	10, 42 10, 58		コア欠				dg		4	m. 傾斜60°~80°の白色軟弱粘土 脈が多く分布。にぶい黄橙~灰褐 色を呈する。幅約58cm。	4	4		$\blacksquare$	(100)																		1	ダブルニアチ					
11						Ee	VIg				11.17m: 粘土状破砕部(Hc-1) 上・下端15°でいずれも直線的で シャープに連続。径1mm前後の石英		5			100	D.													1					7 3 3				泥	
12								dg			粒をわずかに含む。灰赤色を呈する。幅0~5mm。 11.17~11.19m:礫混じり粘土状破	1 #	2		$\frac{1}{1}$						-		+							-		2/	5 75		/ダイヤモンド:	1.0	100	0.1	泥水 10	5 1
13			8+;+8 ++++							3	砕部(Hc−2) 上端15°,下端10~40°で,上端	Ī	(0)					Ž	7 12 50 2/0				1											86	-					
14			# # # # # # # # # # #		灰						は直線的でシャープ. 下端は大き く波打って連続。径1~2mmの石英 粒と径5mmの粘土化した岩片を含む	. (d	3			000																2/	6 65	86	ダブルコアチュージ	1.0	150	0.1	泥水10	1
14			++++ ++++		褐				δ		。明赤灰色を呈する。幅7~15mm。 11.19~11.66m:粘土混じり礫状破 砕部(Hj)	1	(0)	Н	$\blacksquare$	(00)-																			97/					$\perp$
15			‡+‡+‡ ‡+‡+‡	花崗斑						Н	下端35°で波打つ。岩片の軟化は 著しい硬さ「E」であるが、割れ目 の一部が残留している。灰褐色 を	4	4			100					l		+									2/	7 80	86	コューダーング	1.0	100	0.1	泥 水 10	1
16			‡	岩		Dg	Vg	cg		2	呈する。11.44mの55~70°の割れ 目は直線的でシャープなせん断性 割れ目で、厚さ1~2mmの赤褐色の	3	3		+	Н	OL'				ŀ		+							-					* 7	1				
17			+ + + + + + + + + +			1					軟弱粘土脈を挟む。 11.66~11.68m:礫質粘土状破砕部	[0	(0)			100:4														-					ルコアチ					
18			##### ################################							3	(Hb) 上端・下端ともに35°で波打って 連続。径1~2mmの石英粒と径5~10	10 10	3		Ħ	(100)-																2/	8 100	86	コーブノゼ	1.0	100	0.1	泥水10	1
10			<u> </u>		明褐灰				r	2	mmの粘土化した岩片を多く含む。 淡黄橙〜灰赤色を呈する。幅18〜2 5mm。	10	5		$\blacksquare$	100		2	7 18 60 2 17	4															ーブ/ダイヤモンドビッ				"	
19			<b>\$</b> ‡‡‡ <b>\$</b>		"	Eg	VIg	dg		3	11.68~11.78m:角礫状破砕部(Hj ) 上端35°,下端45°で両者とも波					100:4	D'						$\dagger$											-	ドピット					
$\dashv$			#####							Н	打って連続。径5~10mmの岩片の集 合で岩片間は粘土化する。割れ目	[0	9]			Щ		+			Ш									+		H	90					$\vdash$		+
											は分布しない。灰褐色を呈する。 幅7cm程度。 11.78~11.81m:礫混じり粘土状破																													
											砕部(Hc−2) 上端・下端とも45°で波打って連 続。径2~3mmの石英粒を含む。淡																													
											黄橙~灰白色を呈する。幅20~25mm。 11.81~11.83m:粘土状破砕部(Hc																													
											-1) 上端・下端とも45°で波打って連																													
											続。中央部には厚さ8mmで,下端部 がマンガン鉱染を受けた石英脈を 含む。浅黄橙~灰白色を呈する。																										1			

A - 1 1 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	П		風	変	記			₹ 採	取四(%		岩	7			(	(		準罪 N値	【入 ~深』	ŧ	)	試験)図	原位	室	扱	- 1	孔径		給	回	送	送	排
		_		種			ア	相目				:		t ⊐ —		Ę á	級	力位	k Z			`		_		_		<i>,</i> L	置試験	内	i		(mm)	チュ	_	転			水
尺	高	度	状 	区			形	စ					R	Q		>   <u>.</u>	포	(r / /	/ I :	١											F		21	1/	圧 (kN	_	圧	_	_
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	状態	化	質	事			∼	E %		分		1   「	直									(孔内水平載荷)	験	E	/	一层		MPa	Irom	MPa	(上/分)	分分
			######################################		明	Eg	VIg	dg	r	3 2	11.83~12.12m: 礫状破砕部 (Hj) 上端45°, 下端60~70°。不明瞭	0	Ш	50	Щ	100	).	1			0	1	0	20		30		40	50 19		2/		+	ダフルチブイン・ヤドン	1.0	100	0.1	泥水 10	10
- 21			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		褐灰	Dg	Vg	cg	_	3	な20°前後の割れ目や低密着割れ 目が多い。灰褐色を呈する。 12.12~12.16m:礫質粘土状破砕部	10	()] 5		Н	C	Ľ'							_							L		1	F		-		10	
_ 22			<b>2</b> +++ <b>2</b> +++++ +++++		灰褐	Eg Dg	VIg	dg	δ	2 3	(Hb) 上端60~75°, 下端40~60°で両 者とも波打ちながら連続。径1~3m m石英粒と粘土化した径5~10mm岩	Ì	0] 12	+	Н`		D,																	ップルコアチュー					
23			*		明褐灰		Vg		0		石英松と右工化した住5~10	7	[] 2]		H	-															2/	9 10	86	ーブ/ダイヤモンドピ	1,0	100	0.1	泥 水 10	10_
_ 24					にぶい	Cg	IVg	cg	r	2	体部 (Hj) 下端不明瞭。一部で割れ目が残留 するが、概ね割れ目は消滅してい	Ñ	91 <b>M</b> 1,4	$\parallel$	H	C	£'															15		モンドビ					
_ 25			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		褐灰	Rø	V g		δ	1 1	る。20~25°で白~にぶい橙~明 赤灰色,厚さ1~5mmの軟弱粘土を 挟む。		014	1	H	100;-		<u>∨ 2</u>	5.20												2/	$\top$	1	ド グファーダイン ヤドブイン	1,0	100	0.1	泥 水 10	0-
_ 26			+		明褐灰	Cg		dg	r		18.62m: 黄橙色粘土挟在。傾斜60°、幅3~5mm。周縁約20mmが淡緑色化 し、黄鉄鉱が晶出。	1	0]	#	Н	100-1	)'		210												L	-		マドトダブルコアエ		-		10	$\vdash$
_ 27			\$\frac{1}{2}\tau_{\text{-1}}\t	·	灰黄褐	Dg	_	cg	δ		●18.80~19.30m:破砕部 粘土混り碟状破砕部(Hj) 上端25°でやや波打ち,下端10°。幅 1~3mmの白色粘土を多く含む。	[0	0]		Н	100																		1 4				泥	
_ 28			+	花崗斑岩	褐灰に	Dg	Va	cg	r	3	21.20~21.27m: 変質により,灰白 ~にぶい黄橙色,土砂状となる。 ●21.40~21.65m: 破砕部	3 [0	9 0]		<del>    (</del>	C C	L'														2/	13 80	86	<b>■</b> ブ/ダイヤモンドビ	1.5	100	0.1	泥水 10	0
29			‡+‡+‡		ぷい橙	Eg					21.40~21.61m:粘土混り礫状破砕 部(Hj) 上端は60°で直線的。下端20°で波	2 [0	9 0]	+	+		) <sup>'</sup>	<u>∇ 2</u>	8. 60 718													-	-	F 24		L			Н
			<b>]</b> 		にぶ	Dg	T/F o	dg	δ	3	打つ。上端に幅1~2mmの明黄褐色 粘土を伴う。 21.61~21.65m: 礫混り粘土状破砕 部(Hb)	10	5 0]	$\parallel$	+	100:															2/	14 11	86	ダブル コア・ブ エーダイン ヤビ	1.0	100	0.1	泥水10	0
30			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		が黄橙	Eg Dg		cg		3	市 (101) 下端55°で直線的。幅30~50mm。に ぶい掲~灰白色。 ●25.83~26.38m:破砕部	3	9		+	100:-															L	+	+	ダブ		L			$\square$
31					青灰	Eg Cg	W <sub>A</sub>	de	r	4	25.83~25.86m: 礫混り粘土状破砕 部(Hc-2) 上端53°,下端50°で両端とも直線的	3	3 0)		H.	100;-																		ルコア					
32			+ + + + + + + + + + + + + + +			Dg Cg					。幅20mm。径1~5mmの石英、礫を少量含む。 25.86~26.38m:粘土混り碟状破砕	4	4		#	C	Ľ														2/	10		チューブ		150	0.1	泥	
— 33			*		におい		Vg	cg	δ	3	部(Hj) 下端30 で直線的。径10~20mmの岩 片主体で、白色粘土脈が分布する。	3			+	100:-															2/	"	86	ューブ/ダイヤモンドビ	1,0	150	0.1	泥 水 10	
— 34			+		黄橙	Dg					27.92m:58°で幅1~5mm, 27.96m:5 2°で幅1~3mmのいずれも軟弱な白 色粘土脈が膨縮しながら概ね直線 的でシャープに連続する。また、		6	Ħ	Щ	100																10		Fンドビ a					
	<b>-4.</b> 17	35.00	+1+1+								両粘土脈から派生した幅0.5~1mm の同質の粘土脈も分布する。 ●29.00~29.35m:破砕部(D-1破砕	[0	<b>þ</b> ]	Ш	Ш			-														10	+	ット					$\vdash$
											帯) 29.00~29.05m:粘土状破砕部(Ho- 1)																												
											上端56',下端58'で両端とも直線的。幅10~20mm,灰利-7'色。 29.05~29.15m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																												
											(16) 下端62°で概ね直線的。幅55mm。や や硬質。 29.15~29.18m:粘土状破砕部(Hc-																												
											1) 下端68°で直線的。幅10~15mm。暗 褐色。石英, 細碟を若干含む。																												
											29.18~29.35m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端65~80°で波打つ。径5mm以下																												
											の礫を含む。 29.63m, 29.67m: 石英脈。各々幅5 mm, 3mm。暗灰色を莫する。 21.07m。傾倒70.7m。網2-27mmの表																												
											31.07m: 傾斜70°で,幅2~3mmの青 灰色粘土を挟む。 31.07~31.90m: 変質により青灰色 化する。一部礫質粘土状を呈する。																												
											31.41m:割れ目の周縁幅20mm程度 が褐色化し,下端側の幅5~10mmが 径2~5mmに細片化する。																												
											34.46m:傾斜65°で、幅2~4mmの白 色粘土を挟む。																												





H24-E-2

E-2 (1 / 2)

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.						1

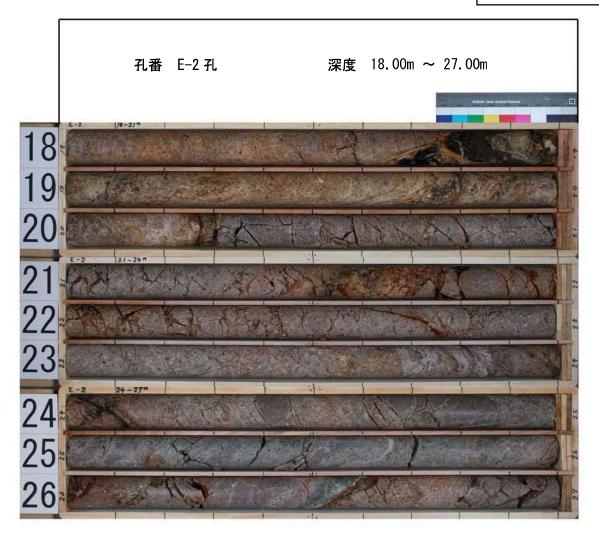
事業 • 工事名

12 _	・リン	H A		F.	<u>-</u> 2						調査位置 X∶395.8	262	٧.	112	6 96	a									北		緯		0E° /	<b>1</b> 5' 2	1 02	,,,	$\neg$
	注機		H a		~ 子力	辛*	雷杉	<del>‡ ;</del> ;	· 会	·+	M E E E 7.000.0			Г	上期間	Т	20	113	在 2	日 2:	3 日 ~ 2	013 年	: 3 目 7	В	東		経			ı' 2 <u>.</u>		'	$\dashv$
	注 18		"	-141	. //	76	·=1/	,,(	1	_	主任技師			現代		_			- <sup>2</sup>		コア 発定者		3 A 1		ボ・		ᆉ	- 1		. 4-	, ,		-
	口標		10	.86 r	角	1	180°	_	T	方	北 1 0°   18th		使		理 人 錐 機	$^{+}$					塩 疋 者		ハンマ		2:	責任	百						$\dashv$
	掘削			.00 r	-		k	$\rightarrow$	90°	向	四 東 知	0°	用機種	-	ソジン	+							落下用										
440	эда 13	, ,			"  ^~		0, 1	, 2	5.0°	11.3	180° 中南 87.0° 配 90°	0.0	. 1里										14. 2										_
標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	変	55		コア採		石		孔		(		標準貫入		試験	原位	室	掘	掘				送	送	排
				種			ア	ħ				i	長大コ	( ,0			内水位		(		N値~深	度	)図	置試験	内	進		: ا <sub>ن</sub> تا	アーチー	転	水	水	水
尺	高	度	状					目の				ı,	⊸ RQ	cm D			(m)	N									度		Į l	数	圧	量	量
				区			形	状						. E %	쯔		測定月日	<u>_</u>						(孔内水立	試		cm	壁口	ž ki	rpn	1 MPa		〔 L 分
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	0	50	1	分 100		í	値	o o	10	20	30	40 5	水平載荷)	験	日	時	蒦	۳.	'a	_	分	分 ()
				埋土	にぶい黄褐						0.00~1.18m: 埋土 細礫混じり粗砂からなる。	Н		+++	•														ヌ ブルコアチ				
- 1	18. 79	1.18	,,,,,, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	砂礫	(福) にぶい 黄檀 明黄福					ł	1.18~1.84m:砂礫(③層) 礫は径10~20mmでクサリ礫化した花崗		Ш	14	*		▽ 1,20 = 2/24										-	00	ア チ ユ ブ				
— 2	18. 19	1.84	+++++	床	明黄福 にぶい 黄橙	Eg	-	$\overline{}$			斑岩の亜円~亜角礫。基質は中砂。 1.18~1.47m:花崗斑岩礫。	0 [9	9	Ш	${}^{+}$											2/23				100	0,1	泥 水 10	10-
— 3			*		明黄褐	Dg Eg	V g VI g	cg dg			1.84~27.00m: 花崗斑岩(Gp) 斑晶は径1~5mmの石英,長石。 1.84~5.85m: 風化により部分的に		1	$\prod$	D'					-								ر ا ا	ダイヤモンドニ				-
			#####		褐_	Dg	Vg	cg	δ		土砂状となる。一部に粘土が挟在 する。	10	]	#	<del></del>												$\Box$	_L	<u>ر</u>				
			++++ ++++ ++++			Eg Dg	VI g V g	dg cg	-		●9.47~9.60m:破砕部 9.47~9.51m:粘土混り角礫状破砕 部(Hj)	4	1	#	OL.														グ ブルコフチ				
<b>—</b> 5			+ + + + + + + + + + + + + + +			Eg		dg	-	3	上端52'で不明瞭,下端60'で直線的でシャーフ'。幅25mm。 9.51m: 粘土状破砕部(Hc-1)			Ш	æ, . D'											2/24	150		į	0 100	0.1	泥水 10	10
<b>—</b> 6		-	+		ا ا					1	傾斜60°で直線的でシャープ。幅2~5m mでにぶい黄橙色。	H	9	$^{\rm HI}$	Н														カイナモンド1			10	-
_ 7			*		にぶい黄橙						9.51~9.55m:礫質粘土状破砕部(H b) 下端57 で凹凸している。幅30mm。	Ī	0	П	**														2				Ц
			+		橙	Dg	Vg	cg			径10mm以下の石英粒等を含む。 9.55~9.60m:粘土混り礫状破砕部 (Hi)	10	]	+	CL.																		
F 8		-	++++								下端70°で凹凸して不明瞭。幅30~ 60mm。径10mm以下の岩片主体。		8	14													110						
- 9			+ + + + + + + + + + + + + + +				We	4.			12.39~13.23m:割れ目に灰白~淡 黄橙色粘土脈が網目状に分布する。	/	,															00 ケ ケ	ダブ				-
<b>—</b> 10			•+		灰黄褐	Eg					●13.23~15.82m:破砕部(K断層)	10	1	Ш	D'									-				シング	フルコアチ				-
_ 11			++++ ++++	花崗斑		Dg	Vg	cg			13.23~13.42m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端64°, 下端30°で両者とも直	į	1		*													1	F 1				
			+ + + + + + + + + + + + +	岩		Eg. Dg				3	線的でシャープに連続。径1~3mm の石英粒と粘土化した径5~20mmの 花崗斑岩岩片を多く含む。粘土は	5	1	110	<del>oc.</del> ₄CL′		<u>V 11,40</u> - 3/1									2/25	125		7 7 1	100	0.1	泥 水 10	10
— 12		-	+		明						上端付近10mmは軟弱であるがこの 他はやや固結している。一部の石	2		10														1	/ ダイヤモンドニ				
— 13					明褐灰				δ	4	英粒と岩片はマンガン鉱染により 黒色化する。白〜明褐灰色を呈す る。幅17〜19cm。	1	9		$\parallel$														ピット				-
— 14			**			Eg	VIg	dg		3	13.42~13.46m:礫混じり粘土状破 砕部(Hc-2) 上端30°, 下端30°で両者とも直	Į0	]	$\prod_{i=1}^{n}$	D'					_													-
— 15			**							4	線的でシャープに連続。径1~2mm の石英粒と若干の粘土化した径5mm	Ĺ	1	11	**												120						
			**		灰褐						程度の岩片を含む。明褐灰色を呈 する。幅30mm。 13.46~13.62m:礫質粘土状破砕部	1 [0	1	<del>       </del>	9 <b>0</b> ; 4													00 7					
— 16			**************************************		にない	Dg	Vg	cg			(Hb) 上端30°, 下端70°で両者とも直 線的でシャープに連続。形態は上	4		1	*													ケーシング	ダブルニアチ				
— 17		-	+ + + + + + + + + + + +		極	Eg	VIg	dg			記13.23~13.42mのHbと同様である 。灰白色を呈する。幅8~14cmと膨 縮する。	2	9	Ш	L CL'					+						2/26	_ H	٦:	Ì	100	0.1	泥 水 10	10
<b>—</b> 18			*		褐	Dg Eg	Vg	cg		3	13.62~14.80m:粘土混じり岩片状 破砕部 (Hj)	Ţ	1	Щ	+														/ダイヤモンドビ			10	
19			;		明黄褐	Dg Cg	Н				上端70°, 下端57°で、両者とも 直線的でシャープに連続。径10〜3 0mmの軟化著しい岩片からなり、岩	2 [0	9	11	D'											L		°°	?	-			
_ i9			X+ ++X X+ ++X		にぶい	Eg	VIg	dg			片間を幅0.5~3mmの白色軟弱粘土 脈が一部網状に分布する。明褐灰 ~にぶい黄橙色を呈する。幅約40c	1	1		<b>,</b>											2/28	100	ダコユヘヤド	アチブ ダイン モニッ	5 100	0.1	泥 水 10	10
		ļ į	OL±10								m(60°)。 14.80~15.28m: 礫賞粘土状破砕部 (Hb)	_ []	11111	Ш	Н												$\dashv$	+	-				
											上端57°, 下端25°で両者とも直 線的でシャーブに連続。径1~3mm																						
											の石英粒と径10~20mmの粘土化し た岩組織が消滅している花崗斑岩 岩片を多く含む。明褐灰~にぶい																						
											黄橙色を呈する。幅24cm(60°)。 15.28~15.82m:角礫状破砕部 (Hj																						
											上端25°,下端52°で、両者とも 直線的でシャープに連続。20~30																						
											<ul><li>とこれに交差する50~60°割れ 目と低密着割れ目が多く、割れ目 に幅1~3mmの白色軟弱粘土脈を挟</li></ul>																						
											むことが多い。灰褐色を呈する。 幅33cm(50°)~40cm(25°)。																						

E-2 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬		割	凲	変	記	=	J 7	ア採〕	取率	岩	孔		(		標準貫入	)試験	原	室	掘	掘	孔	_	給	回:	送 ;	送	排
128	128	"	1-	1	_	, A	_	n h	/_114	^	40				(%)	~	内	_	,	(	N値~深度	) 図	益	_	,,,,,,		忽	アチ					
				種			ア	目				ħ	良丿	<b>大コ</b> :	ア長	級	水位						位置試	内	進			고		転			水
尺	高	度	状					の				١,	_	~	cm		(m)	١	1				験			度	孔	ノー	圧	数	王 :	量	量
				区			形	が状					₹	Q	D [%]	区	測						孔内	試	月	cm	壁	/	kN			<u>ا</u> رَ	Ĺ
l.,	l , ,	l.,	I SOUT		===	##	416		114	FF	*			_	L // J		定月	Ιū	<u> </u>				(孔内水平載荷)	F-A	L	時	壁保護	7	MPa	rpm	IPa :	分	分
(m)	(m)		図	分		軟					事	0		50	100	分	日		0	1	10 20 30	40 50	覆	験	日	-	護	۱ '	$\smile$	$\sim$		$\sim$	$\overline{}$
			<b>≱</b> ;†; <b>¥</b> †;†;†		にぶい 黄檀	Eg	VIg	dg	δ	3	15.82~18.71m:部分的に著しく軟 化し、粘土脈を伴う。	4	Ш	Ш	(100)	D.												ダブル				_	
_ 21			#####			Cg	νg	cg	γ	2	●18.71~20.27m:破砕部 18.71~18.73m:粘土状破砕部(Hc-	4	]	Ш	Ш										2/28	100	3	ダブル ファーダモビト ドド・	1,5	100	0.1	泥 水 10	10_
			#####			Dg Eg	VIg	dg	δ	H	1) 上下端70°で直線的でシャープ。幅4~	H	10	Н	(100)	CL.												1.50					
- 22			<u></u>		明	Cg					5mm。黄橙色。 18.73~18.75m:粘土質礫状破砕部	A		Н														_					-
			#####		明褐灰		Vg	cg			(Hb) 下端15 で不連続。幅15mm。マンガン	10	]	Ш	(100)	1										80		ダブル					
- 23			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗		Dg			δ	3	により黒色化した岩片を含む。 18.75~18.76m: 粘土状破砕部(Hc-	6	Ħ	Ш	100	D.							1				86	ルコアチ					٦
24			₽₽₽	花崗斑岩		Eg	VIg	dg			1) 下端70~80°で湾曲凹凸。幅3~10mm	101	]			Щ											00	7					
-			<u> </u>			Dg	Vg				。黄橙色。石英を少量含む。 18.76~18.81m:礫質粘土状破砕部	6	Ш	Ш	(100)	CL'									3/ 1			ブノガ	1,5	100	0.1	泥 水 10	8
_ 25			++++			Cg	vs				(Hb) 下端70°で湾曲。幅10~20mm。径5m	4	1	Ш									-					ューブ/ダイヤモンドビット				10	-
			++++		灰褐			cg	r	2	m前後の黒褐色岩片を含む。 18.81~18.86m:角礫状破砕部(Hj)	Н	12 [12]	Н	(100)											75		モンピ					
— 26	1		++++		196)	Bg	ΙVg				下端68°で湾曲。幅30mm。径5~10mm の角礫状。	H	H	Н		CM'							1					ピッ					-
	4 61	27 00	‡ <u>‡</u> ‡‡‡		明褐灰	Dg	Vg		δ	3	18.86~19.08m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)	īđi	)		100	CL'												١,					
	,,,,,					عا			ĺ		下端62°で不明瞭。 19.08~20.17m:粘土混り碟状破砕	T				П										П							
											部(Hj) 下端50~75°で不明瞭。白色粘土を																						
											網目状に伴う。 20.17~20.27m: 礫質粘土状破砕部																						
											(Hb) 下端45°で直線的。膨縮し,径30mm																						
											以下の岩片多い。 ●23.68~23.87m:破砕部																						
											23.68~23.82m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																						
											下端42°で直線的。径30mm以下の岩 片多い。																						
											23.82~23.83m: 粘土状破砕部(Hc- 2)																						
											上端42°、下端40°で直線的。幅10~ 15mm。																						
											23.83~23.87m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)。																						
											26.55m:幅1~2mmの緑灰色粘土を 挟む。傾斜60。																						





# H24-E-1

E-1 (1/2)

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.						1
, , , , ,						П

事業	工事名

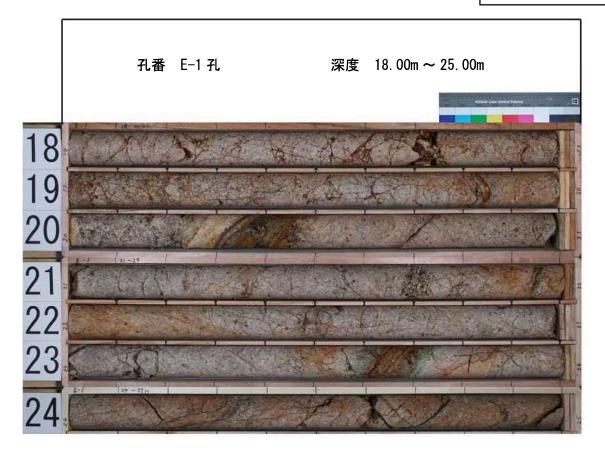
	事未 <b>『</b> 上事石				
ボーリング名	E-1 調査位置	X:397.883 , Y:1125.584	ļ	北緯	35° 45′ 21.04″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013 年 1月14日~ 2013 年 1	1月26日 東 経	136° 1′ 2.80″
調査業者名	主任技師	現 場代 理 人	コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	20.72 m 角 l80° 方 北 0° 1	地盤 水平 。 使用 試 錐 機	が落	ハンマー 客下用具	
総掘削長	25.00 m 度 下 <sub>0</sub> 45.0 向 西東 東 前 81.0 前	気	才	<b>ミンプ</b>	
標標深	柱岩色硬コ割風変記	コア採取率 一 (%) 最大コア長 級	ft		

									45.01		180° 一南 87.0° 配 90°	0.0-1	種			<b>ジン</b>											ポン												_
標	標	深	柱	岩	色	硬	٦	割	1	変	記	<b>_</b>		采取		岩		孔内		(	(	1	標準I	貫入	变	)	試験)図	原位	至	2	- 1		礼 圣	コアチ	合	回 ;	送	送	排
尺	高	度	状	種			ア	¤					-		cm	級		水位 (m)	N									電話度	は	9 3	進	速に	m)	그		転   ; 数   J			
				区		+4	形	状		1646	*	R	7	_ [		区		測定月	) 値									(子ロス) 車布/	1 1	t .			建工	ŹΈν Μ	(N) Pa	pm N	∩ IPa	(L/分	(L/分
(m)	(m)	(m)	図 //	分	調	軟	17	態	16	頁	事 0.00~1.73m:構造物及び埋土	-	П	50	100	分		日		0	1	10	20	0	30		40	50	影		月!	→ F	隻	F	ا	<b>∠</b>  ·	<u> </u>	_	
- 1	19, 50	1 70		埋土	褐灰						0.00~1.65m: コンクリート 1.65~1.73m:砂 砕石を含む中~粗砂。				(100)															1	/15	70	0/2 9 13/2	ファーダモビト リテブインッ	.0 1	00 0	).1	泥水10	10
- 2		1.73	.00000	礫混りな							1.73~2.65m:細礫混じり粗砂(③層) 径2~5mmの石英を含む。 2.24~2.57m:径70~160mmの礫を				(100)		200	1/15 1/15 1/20 1/20 2/20										1				10	<u>v</u>	7					-
- 3	18, 85	2.65	####	1 砂	黄褐	Dg	Vg	cg		2	<u>含む。</u> 2.65~25.00m: 花崗斑岩(Gp) 斑晶は径2~5mmの石英, 長石。	3 [0] 4	$\parallel$	$\prod$	100,			7777										+		Γ				ダブルコア					_
- 4			‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡			Eg					2.65~8.41m: 風化による軟化が著 しく、土砂状~岩片状を呈する。 3.91~3.92m: 褐色粘土挟在。傾斜	[0]			(100)4	D'	Ž	4,10 1/21													1	20		チ				æ	_
<b>–</b> 5					明	Dg	VIg	dg dg		3	15〜25°で湾曲する。幅10〜13mm。 ●8.41〜9.70m:破砕部(K断層) 8.41〜8.43m:粘土混じり礫状破砕	[0]			(100)													4		1	/16	4		ユーブ/ダイヤモンドビ	.0 1	00 0	0.1	泥 水 10	10
- 6			++++		黄褐	Dg			δ	2	部 (Hj) 上端5~20°, 下端30°で前者は湾 曲.後者は波打ちながら連続。区	( <b>0</b> )	$\parallel$		(100)	CL.																90		モンドビッ					_
_ 7			++++			Ee	VIg	cg		3	間全体のコアが粘土化し軟化している。赤褐色を呈する。幅20~25m	6			(100)	D'														F			۰ ا	1					_
			++++		褐灰	Dg		1		2	8.43~8.44m: 粘土状破砕部 (Hc-1) ) 上端下端ともに30°で、前者は波 打ち、後者は直線的でシャーブに	4 [0]				CL.																	ケーシップ						
- 8			#### 8###8	1		H			r	3	打ち、後者は巨線的でシャープに 連続。径1mmの石英粒をわずかに含 む。上位側は白色、下位側は淡褐 色を呈する。幅10mm。	2 [0]	H		(100)	-																		ダブルコアチ					
- 9					明褐灰					4	8.44~9.68m: 粘土混じり礫状破砕 部(Hj) コア全体が粘土化し軟化している	2	Ħ		(100)4																ŀ	$\perp$		チュー					-
- 10			÷ ; ; ; ; ;		灰				δ		ものが多いが、8.75m(=40° 幅2mm の白色粘土脈、8.94m(=54° 幅2~7 mmの灰赤色粘土脈、9.10m(=53° 幅	2			(100)																/17			ユーブ/ダイヤモンドビ	.0	00 0	0.1	泥 水 10	8 -
- 11			##### #####	花崗斑岩	明黄褐					3	1~4mmの褐色粘土脈、9.18mに54° の暗褐色風化割れ目など直線的で シャープなせん断割れ目が残留し	3			400													1			1	40		ヤモンド					-
- 12			+++++	岩	明	Ee	VIg	dg		4	ている。 9.68~9.70m:粘土質礫状破砕部( Hb)	[ <b>0</b> ]																+				_		ピット					-
<b>—</b> 13			+ + + + +	-	褐灰に				r		上端25°で直線的にシャーブに連続,下端30°で直線的であるが幅が膨縮して連続。径1~2mmの石英	[ <b>0</b> ]			100	D'															1	60							-
- 14			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		にぶい黄橙明褐灰				δ	3	粒のみを含む。橙色を呈する。幅1 ~2cm。 9.70~10.35m:幅1~5mmの白色粘	(0)	Ħ		100:4															H			F	ダブル					_
<b>—</b> 15					1				r	4	土が網状に分布する。 ●11.67~11.98m:破砕部 11.67~11.81m:粘土混り礫状破砕 部(Hj)	(0)			(100)-																			9ブルコアチュ <b>ー</b>					
- 16			++++		褐				δ		上端28°で波打ち,下端58°で直線的。 11.81~11.83m: 礫混り粘土状破砕	3 [0]			(100)-															1	/21 1			ラ/ダイ.	.0	00 0	),1	泥 水 10	0_
- 17			‡ + † + † † † † † † † † † † † † † † † †			Dg	V g	cg dg		3	部(Hc-2) 下端58°で比較的直線的。幅5~20m m。	[0]			(100)-																	ľ	36	ューブ/ダイヤモンドビ					
			++++		明		Vε	1	r		11.83〜11.98m:粘土混り礫状破砕 部(Hj) 下端55°で比較的直線的。岩片間を	3 [0]			(100)															ŀ	+	1	H	ÿ  -					_
— 18			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		褐灰	Dg		cg		2	白色粘土が充填。 11.98~13.28m: 軟化が著しく,土 砂状~岩片状を呈する。	4	Ħ		(100)	CL'															/22 1	15	911	ブル アデブインッ モビト	.5	00 0	0.1	泥 水 10	0
— 19			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +				Vg		δ	3	●13.28~13.32m:破砕部 礫混り粘土状破砕部(Hc-2) 上下端とも大きく湾曲。幅5~35mm	4			(100)																		17	100				10	-
-			+T+T+			H		H		2	と膨縮する。白〜橙色。石英や岩 片を多く含み, 軟質である。 13.32〜14.30m: 土砂状を呈する。 ●13.97〜14.00m: 破砕部	[0]	Ш	Ш	Щ	+	$\dashv$											$\dagger$		+	+	+	$\dagger$	$\dagger$	+	+	+	$\dashv$	_
											礫混り粘土状破砕部(Hc-2) 上端10〜35°,下端15°で波打つよう に連続する。幅27mm。																												
											●15.00~15.30m:破砕部 15.00~15.10m:礫混り粘土状破砕 部(Hc-2)																												
											上端70°、下端50°でともに波打つ。 幅30〜100mm。 15.10m:粘土状破砕部(Hc=1)																												
											50°で直線的に連続する。幅2〜5mm 。 15,10〜15,30m:礫質粘土状破砕部																												
											(Hb) 下端50~90°で大きく湾曲。 15.64m:傾斜30°で,幅1~2mmの褐 色粘土挟在。																												

E-1 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	п		風	変	記	:		7採	取率	岩	孔内		(		標準貫入 N値~深度	) 試験 ) 図	原位	室	掘		孔径	コア	給	回違	ž i	送 排
_	_	_		種			ア	れ 目				i	最大	= 7	ア長 cm	級	水位的	ĺ.	Ì			, –	原位置試験	内	進		(mm)	チュ		転力		
尺	高	度	状	区			形	の状					R	a L	D [ % ]	区	<u></u>	N						試	月		/ 孔壁保護	<b>ー</b> ブ/ビッ	€N	数日	\ (i	単しし
(m)	(m)		図	分	調	軟	状		化	質	事	0		50	16	分	定月日	値	0	10	20 30	0 40 5	(孔内水平載荷)	験	日	n±	保護	ット	MPa ·	rpm MF	5	分分
						Eg	VIg	dg	δ	3	●16.78~16.80m:破砕部 粘土状破砕部(Hc-1)	4		П		$\Gamma$										115	П	ダブル				
_ 21			+								日 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		)]	H		7												ルコアチュ				-
			Ŧ <u></u> ‡Ŧ‡Ŧ		盟						17.06~17.10m:明ポリーフ 灰粘土挟	10	)]	+	100	+									1/22	155		<b>ブ</b> /ダ	1,5	100 0.	.1 2	尼 水 0 10
- 22			++++ ++++ ++++ ++++	花崗斑岩	明褐灰					3	在。傾斜10~15°,幅35~40mm。 19.84m:黄褐色粘土挟在。傾斜35° で直線的。幅2~10mm。	4		#	400	GL.											86	ユーブ/ダイヤモンドピット			'	"
_ 23			<u></u>	岩岩		Dg	Vg	cg	r		●20,00~20,44m:破砕部(D-1破砕	10	)]	+	Ш	-				_			-					P 2				
			<u> </u>								帯) 20.00~20.02m: 礫混り粘土状破砕	2 (0	)]	+	100	+												ダブル			Ι.	_
- 24			#####		にぶい黄橙					2	部(Ho-1) 上下端15°。幅10mm。にぶい黄橙色	M	8	$\dagger$	Ш					+			1		1/23	155		ダブル ブアーダイン グモビト	1,0	100 0.	.1 2	尼 化 10
	3. 04	25.00	++++		黄橙						。上端は直線的でシャープ。下端はや や波打つ。	Ĭ	)]	T	100													۲				
											20.02~20.24m: 粘土混り礫状破砕 部(Hj)																					
											下端43°で湾曲。幅2~5mmの白色粘 土が網状に分布。																					
											20.24~20.32m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																					
											下端50゚で直線的でシャープ。幅60~7																					
											Omm。 20.32~20.34m: 粘土状破砕部(Hc-																					
											1) 下端52°で直線的。幅15~20mm。暗																					
											褐色,にぶい黄橙色を呈する。 20.34~20.44m:粘土混り礫状破砕																					
											部(Hj) 下端35*で直線的。																					
											23.58~23.74m:変質により,緑灰 色を呈する。																					





H24-B6-1

B6-1 ( 1 / 4 )

#### ボーリング柱状図

調査名

ポーリングNo. 1

車	坐	т	重	夕

ボーリング名	B6-1	調査位置 X:398.000 , Y:	1116.097		北緯	35° 45′ 20. 79″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2012 年 6月12日~ 2012 年 7月10日	東 経	136° 1′ 3.03″
調査業者名		主任技師	現 場代理人	コア鉄定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	20.59 m 角 上 方 方 270° /	/	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	81.00 m 度 下 <sub>0</sub> 45.0 向 西 18		エンジン	ポンプ		

## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	総	掘削	<b>人</b>	8	1.00 1	n 度	T	· 0° -	X 4	5.0°	向	西 東 西 這 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回	0.0		租	Í	I	ンジ	ン											7	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	プ					_							
展	標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	変	記		<b>_</b>				- 12	≒				(	(								原位	室	<u> </u>				コア	給	回	送	iġ	<u> </u>	非
R			_		種			ア	1 1				:	最;			ア县	ŧ á	及		水位	^		(		14	E	床段		,		置記	山大	ì	進 i	東	mm)	チュ	_					
13.44   1.06   1.07	7	局	度	状 	区			形						R				,	≖		/	N										孔内		t J		m F	壁	//	_	_	_	1		~
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	(m)	(m)	(m)	図		調	軟	状	1 1	化		•	0	_	_	50	_		7		月日	値	o.		10		20	3	80	4	0	年 載荷)	験	įξ	<b>=</b> (	侍員	凩	ツー	MPa	rpm	MPa	5	3	分
- 5	_ 1				ンクリ							0.00∼1.63m:コンクリートである。	╠		+		-	*					_											6	/18	70					0.0	+	_	0
- 5	_ 2	19. 44	1.63	0,0,0	シルト	にぶい 黄褐						る。			t		-	-					_											_	4	4,	16				0.0	派 水 5		5
- 5	_ 3	18, 47	3,00	%; ; ; ; ; ;	沙礫	黄褐					_	る。 礫は角〜亜角礫(径2〜10mm)を主 体とし、基質はシルト〜粗粒砂か	2		t		-	00-4					_													1	ケーシー			130				-
- 5	- 4					百	Eg	VIg	dg	δ	4	<u>らなる。締りは悪い。</u> 3.00〜81.00m: 花崗斑岩である。 石英及び長石の斑晶 (径2〜5mm)	[0 2	)]	+		1	***					_											6	/19 1	10	ング							-
日	- 5			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +		浅	Dg	Vg	cg	ε	3	●3.00~4.00m:破砕部 境界は、上端は第四系との不整合。 下端は変質で不明瞭。ただし下端	[0 2	)]						Ž	5,23 6/22		_									_		L	+	4			40.0					-
1	- 6					橙	Fø	VIe	de		4	の一部が分布する。岩組織は残留 するが割れ目の大半は消滅してい る。径5~20mmの角礫状岩片と岩片	1	)]	-		-	•	y.				_													RO L	-				0.0	) 水		1_
2	7			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +		にぶ				Ī		岩片は変質で軟化著しいが、岩組 織は残留することが多い。風化は 上下に比べ弱い。灰白色を呈する。	2	)]	+		-0	00.		2	7,27 6/23 7,57 6/24													6										-
10   10   10   10   10   10   10   10				+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		橙	Dg	Vg	cg			灰白色を呈する。   3.11~3.17m:粘土混じり角礫状破   砕部(Hj)	2	)]	t			•																		1								-
11				++++	-	いふい黄疸	Eg	VIg	dg		3	3.17~3.54m:割れ目密集部(Hj) 3.54~3.67m:粘土混じり角礫状破	3	)]	Ť		-	00-4																	_ ,	90								
12   13   10   10   10   10   10   10   10				++++		短			cg			3.67~3.84m:割れ目密集部 (Hj) 3.84~4.00m:粘土混じり角礫状破	2	)]	l		H																					ダブル						
15   15   16   17   17   17   17   17   17   17				##### ##### ##########################		にぶい	_		dg		4	灰白色を呈する。 ●6.40~6.78m:礫質粘土状破砕部 (Hb)		)]	ļ		-	c	L'																ŀ	1		コアチュー						_
15   15   16   17   17   17   17   17   17   17	_ 13			++++	-	黄	Dg	Vg	cg	δ		浅黄橙色の粘土を含む角礫状を呈 する。上端境界の傾斜は30°, 下端 境界の傾斜は38°である。		)]	+		+0	<del>00. 1</del>																		00		<b>フ/ダイヤ</b>						_
15	_ 14			+++++	花崗斑	ESSL					3	を呈する。傾斜50°程度である。 7.91~16.00m:全体に軟質である。 岩組織は一部に認められる。	2	)]	+		+	**-					_		_									6	(21			モンドビッ						-
- 16	- 15				:1	暗褐	-	VIg	dg	-	4	5mm) を呈する。傾斜は45°程度である。 13,34~14,76m:変質しており、コ	10	)]			1	00-1	,																		/ I	+		120				_
11	<u> </u>			++++		にぶい						認められる。 ●14.76~15.58m:破砕部 (D-1破	Į.	)]	I		T'						_												8	30	泥水							-
18	<u> </u>			+++++			Dg		cg		•	14.76~14.90m:礫質砂状破砕部( Hb)		)] 6																					+	1			30.0		0.1	派水		1
19	— 18			# # # # # # # # # # # # # # # # # # # #		明褐灰	Cg				3	する。傾斜は40°である。 14.90~14.91m:粘土状破砕部(Hc -1)		) 6	+		-	00-4																	1	40								-
1				++++			_		dg			土状部からなり、幅は4mmである。 14.91~15.06m:礫・砂混じり粘土 状破砕部(Hc-2)	Ü	8	t		-	•																		1								-
1				++++	-	灰	C.,	Vg		r	2	15.06~15.58m: 礫質砂状破砕部( Hb) 15.06~15.52m: 暗褐色~灰白色の	I H	8			H	c	L'															6	-/22									
- 23     1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 +				+++++	-	首	OR			,	_	15.52~15.53m: 傾斜30°, 幅5~30   mmの黄色粘土を挟む。   15.56m: 傾斜48°, 幅1~3mmのマン	1	9																						90								
- 24				++++		Ę			cg			ガン脈を挟む。 16.00~18.33m:割れ目が多い。コ		)]																														
1				++++	-	かい黄橙				δ	3	24.85~25.03m:灰白色細粒部が細		)]	+		H	+							1																			-
				++++			Eg	VIε	de			目状に分布する。原岩組織あり。	Į Į	)]			H	•		+														6	/23 1	10	4	$\dashv$					+	-

B6-1 (2/4)

標	標	深	柱	岩	色	硬	⊐	割	風	変	記		⊐	ア採		石	孔		(	(		準算			) 試態		原位	室	掘		孔	コマ	給	回	送	送	排
				種			ア	れ 目					最	大コ	(% ア長		内水位	_		(		NŒ	~深度	Ę	) [	싀	位置試	内	進	進速	径 (mm)	アチュ		転	水	水	水
尺	高	度	状	区			形	りの					R	⊸ Q	cm D	- 1	(m)	N									験	討	月	度(	孔	リブ	圧	数	$\neg$	$\sim$	
								状	l		_			~	[%	]	測定月	値									(孔内水平載荷)			(m/時	保	<u>ا</u> ر	kN MPa	rpm	MPa	L 分	L 分
(m)	(m)	(m)	図 !::::::	分	IC SILV	軟 Dg		態		質 3	事 24.98m: 褐色に酸化した部分(幅2	, c	0	50		分 100	日		0		10	20		30	40	50	荷	験	日	-	護	٢		~	$\overline{}$	ű	=
_ 26			##### ##### ##########################		明		V g	cg			Omm)が帯状に分布する。傾斜は50 程度である。	Ī	9	Ш		CL.																					
			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		褐灰	U <sub>B</sub>	V g			2			8 (D)		++	1														110						泥	
<u> </u>			+ + + + + + + + + + + + +		灰褐	Dg Eg	VIg	dg			27.14~27.35m: 割れ目が密集し、 マンガン脈と砂状部を挟む。	-	8		1																				0.1	泥水 1	17
- 28			***** *****		14					3	27.85~28.26m:網目状に黄灰色の 細粒部を挟む。		6	Ш	#	#													6/23								1
- 29			‡ <u>+</u> ‡+‡			Dg	Vg			Н		H	(O) 6		Н	$\mathbb{H}$	V 29.2 = 6/2	2												90				-	_	$\dashv$	ᅥ
_ 30			‡+‡+‡ ‡+‡+‡			Cg Dg							0)		П																				0.0	泥水	0-
_ 31			*			Cg	IV g					Û	0]	Ш																						4	_
_ 32			+				IV g			2	31.15m:傾斜55°, 幅2〜3mmのマン ガン脈を挟む。	-(	8		+0	•														100					0.1	泥水	0_
_ 32			<u> </u>				IVg Vs					-	8	+	-																					1	
- 33			##### ################################		明褐灰	Cg	IVg						7																					Ī		T	
- 34			‡+‡+‡ ‡+‡+‡				Vg		r	3	34.00~34.14m:コアの表面は粗く , やや軟質である。	H	8			$\parallel$													6/24								-
— 35			*			Cg Dg				3	35.08~35.57m: 割れ目が網目状(	1	(0) R		Н	Ħ														80			30_0				-
_ 36			+				IV g V g			Ť	1〜3cm間隔)に分布する。コアは やや軟質である。	[	(D)	Ш	11	+																ダブルコアチ					4
_ 37			;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;				IVg			2			6 [0]	Ш	#	•																			0.1	泥水	
			*	花崗斑:								-	8 [0]																	120	86 / 泥水	ユーブ/ダイヤモンドビット		120		1	
38			†++++ <b>+</b> +++	岩	15	Dg	vg			3	●38.35~38.40m: 破砕部 破砕幅は3.5cmである。 38.35~38.39m: 礫混じり粘土状破		3		14		<del>▽ 38,5</del>	4													,,,	イヤモン					1
- 39			*		ぶい黄	Cg Dg	1			3	砕部(Hc-2) 上端45″で直線的。淡赤橙色。	3	3	Ш	Ш	CL.																ドビット					1
- 40					黄橙 灰褐	Cg	IVg			2	38.39~38.40m:粘土状破砕部(Hc -1) 下端50で凹凸。幅3mm。軟質であ	1	(0) 6	+	Н	H																					1
<u> </u>			+		にぶ	Dg Cg	N.5.			3	る。オリーブ灰色。 39.11〜40.00m:割れ目が網目状を 呈して密に発達する。		0]	Ш	Щ		V 41.2 = 6/2.	2											6/25					ŀ	1	+	4
_ 42			++++ ++++		い	Dg Cg Dg				3	39.40~39.65m: マンガン脈を挟む。 40.73~41.68m: 所々割れ目が網目		0]	Ш																100							
40			##### ################################		橙		V g			2	状に分布する。基質は砂状を呈す る。		6 0]		+	*																					
43					にぶい 黄檀	Dg	Vg		δ	H	43.16~44.09m: 割れ目が網目状に 分布する。傾斜60 程度の割れ目に		4	$\blacksquare$	-																						1
44			 		にぶい橙	Cg	IVg		r	3	マンガン脈と黄褐色砂状部を挟む。 所々礫状を呈する。全体に緻密で ある。		5	Щ	#																						1
<b>—</b> 45			+		い 橙 にぶい 黄橙	Dg			δ	3	44.73~45.01m: 傾斜55~80°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いは角礫状を呈する。		4	Ш	$\coprod$	$\coprod$			1																0.1	泥水ー	0
- 46					I:	Eg Dg		-ac	r	2	45.01~45.87m: 網目状に割れ目が 発達する。 45.87~46.33m: 割れ目が1~3cm間	l II				Ħ			1			+								80						1	
47						Eg Dg Cg			8	3	43.67~46.33m: 割れ目が1~35mm 隔で発達する。割れ目沿いは角礫 状を呈する。 46.33~46.47m: 粘土混じり礫状を			Ш	#	+																					
_ 48			   +		ぶい	Cg Dg		cg		2	40.33~40.4/m: 枯工渡しり保状を 呈する。上端部には幅20~30mmの 礫泥じりマンガン脈、下端部には 幅0~4mmの黄緑色粘土を伴う。上	1	-	Ш	$\coprod$														6/28				40.0				
					循		IVg Vg		r	3	端境界は傾斜55°, 下端境界は傾斜40°である。		10 [1		#															100							
- 49					灰褐	Cg	IVg	1		2	46.47~46.83m: 割れ目が網目状に 発達する。やや変質している。 49.82~49.90m: 傾斜60 程度の割		8		-																						1
			:+:+:			Dg Cg	W:				れ目が密集し、一部礫状を呈する。	H	ľ	Ш	Ш	+		t																		$\exists$	$\dashv$

B6-1 ( 3 / 4 )

標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	变	后		コア採取率 岩	ī	i.		(			貫入		)	試験	原	室	掘	掘	孔						
				種			ア	n					最大コア長級		Ŋ ĸ	^	(		ΝÍ	直~深	度		) 図	位置試	内	進	進速	径 (mm)	アチュ		転	水	水	水
尺	高	度	状	区			形	目の					P Q D ⊠	(1	ין (יי	N								験	試		度	/ 孔	ーブ	圧	数	圧	量(	量
1						+4		状	,,,		+		7_ [%]	1月1月1日	E	一直								(孔内水平載荷)			7	壁保	´ビッ-	kN MPa	rpm	MPa	レ/分	レ/分
(m)	(m)	(m)	図 #####	分	制			態	15)	質	事		分 0 50 100	+	1	_	0	10	- 2	20	30		40 5	0 巻	験	Н		護	7	$\overline{}$	_			
_ 51			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +			Cg Dg						Ľ	QL'	<u>⊽</u> 5	1.05 728											6/28				40.0	120			
_ 52					灰褐				r	2	51.30m: 割れ目が密集する。コア はやや脆い。		[12]														-							
_ 53					196)	Cg	Шg				50.05 50.70 074100 451 -441		12 (100; 10M)														100							
_ 54						Dg Ca	IV g	cg			53.65~53.73m: 傾斜30~45°の割 れ目が0.1~2cm間隔で発達する。 コアは脆い。		[24]																					
			++++		ı=	Dg				3	54.05〜54.85m: 割れ目が網目状に 発達する。 54.64〜54.66m: 礫混じりシルト状		[0]													6/27	,			30.0	130			
- 55			++++		にぶい黄褐	Cg Dg	Vg	1	lF	3	(幅20~30mm) を呈する。上端境 界の傾斜は45'、下端境界の傾斜は 60'程度である。		4 (100).	⊽ : <b>∑\</b>	5, 25 7 29 5, 40 7 30																			1
F 56			‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡		褐	Cg Dg	ΙVg	1		2	55.67~55.85m:高角度の割れ目(傾斜60'程度)沿いは脆弱である。 56.20~56.38m:割れ目が密集して		12 (100)																					1
— 57			++++		にぶい	Cg		1		2	いる。 57.75~58.10m:コアの表面は粗く 、軟質である。		12 CM'														80							. 1
— 58			++++		橙明	Dg Eg Dg Cg	V g V g V g			2	58.00~58.10m: 粘土混じり礫状 (幅10cm程度) を呈する。下端境界 面の傾斜は60 <sup>1</sup> 程度である。		/6 (100).4														$\vdash$							. 1
<b>—</b> 59			++++		明黄褐にぶい黄橙	Cg Dg Cg Dg	Vg		δ	3	58.41~58.52m:コアは褐色に変色 しており、やや脆い。 59.39~59.59m:黄白色を呈する粘 土脈(幅1~3mm)が網目状に分布		g (100)																					
- 60			##### ################################			Cg	Vε		r	2	する。 60.45~60.87m:割れ目が密集し、 砂礫状を呈する。		[0]											-					,					
- 61			‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡ ‡		明褐灰	Dg Cg Dg	NA.	_	r	3 2 3	61.36~61.58m: コアは割れ目に沿		[6] (100: + D.																ダブルコアチ					
- 62			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花	褐灰	Cg	┨	cg	-	2	って褐色に変色している。 ●62.50~62.66m:破砕部		1001 (1000-1CL)													6/28		86		40.0			ie.	
— 63			##### ##### \$###\$ ####################	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	にぶし 黄橙		Vg	-	r	3	62.50~62.53m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端不明瞭。		[0] (100) + D.															泥水	ユーブ/ダイヤモンドビ			0,1	泥水 1	0_
64			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +			Cg Eg	Vs We	og	δ	2	62,53m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 傾斜65°でほぼ直線的。幅2mmの赤 灰色粘土。		14 (100:-														100		5カンエン					
— 65			#####		橙	Cg Dg			δ	3	62.53~62.66m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) 下端傾斜50°~80°で湾曲。		10]																リシト					
			# + # + # # # + # + #				_				63.78~63.79m: 粘土脈 上下端不明瞭。熱水変質部。 64.13~64.56m: 割れ目に沿って褐		7 (0)																					
66			* + * + * * * * * * * * * * * * * * * *		にぷい	Cg	IVg			2	色に変色している。 64.50m:礫混じり粘土(幅2~8mm )を挟む。傾斜75~85。		6 (100).																		120			1
67			* + * + * * * * * * * * * * * * * * * *		がし橙	Da	V g IV g V g	1	r	3 2 3	67.13~67.35m: コアの表面は褐色を帯びる。		4 (100°.101°																					1
- 68			*		明耀	Cg	IV e	cg		2	67.63~67.91m: 全体的に変質して おり、所々軟質な部分を含む。		6 (100)-4																					. 1
- 69					褐灰灰		Vg IVg			3			8 (100.4													6/29								-
<del>- 70</del>					褐	Dg	IV g	-	0				[0] [4]											-		0/29				30.0				-
F 71					にぷい	Cg	_		r	2	71.09〜71.57m:傾斜20〜40°と傾 斜70°程度の割れ目が交わりながら 発達しており、割れ目の交差部の		6								$\perp$													
_ 72					褐		IVg			$\dashv$	<ul><li>一部は脆弱である。</li><li>●71.87~73.91m:破砕部 (浦底断層)</li></ul>		101											-			90							
_ 73					褐灰	Dg	VIg	dg		3	71.87~73.72m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端15 で直線的。下端不明瞭。		D'								_													
_ 74						Eg Cg Dg	V×	dg.		4	73.72~73.79m: 礫混じり粘土状破砕部 (Hc-2) 上端不明瞭。淡黄褐色。 73.79~73.80m: 粘土状破砕部 (Hc		(d) (100).													8/20	100							
			+ + + + + + + + + + + + + + +		浅黄	Cg Dg	ΙVg		ΙГ	2	73.79~73.80m: 柏工状破解部 (nc -1) 上下端45°。上端は波打つ。下端は ほぼ直線的。幅10mm。淡黄灰色。	H	[0] (0) CL.													0/30	100							
											73.80~73.91m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) 下端不明瞭。																							
											74.88~75.21m: 黄灰色のシルト状 挟在物(幅2~8mm) が分布する。 シルト状挟在物の傾斜は45~60 <sup>°</sup> 程																							
L						_	L				度である。	Ш															Щ							$\Box$

## 第1239回審査会合 机上配布資料1 再掲

B6-1 (4/4)

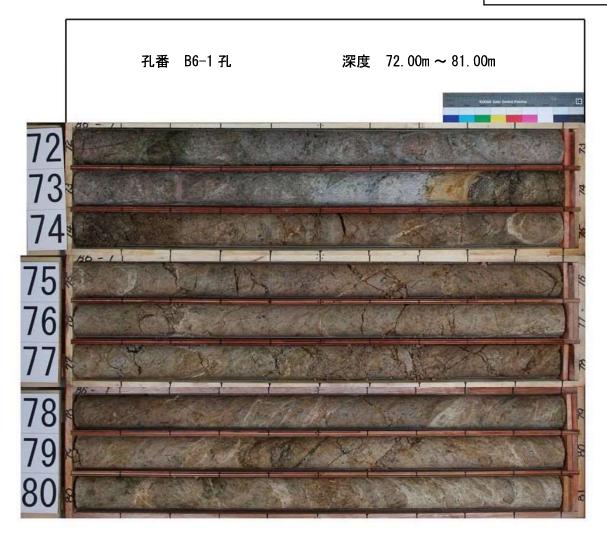
標	標	深	柱	岩	色	硬	П	割	風	変	記	П	コア採取率	Ħ	孔内		(	標準貫入 N値~深度	) 試験	原位	室	掘	掘進	孔径	コアチ	給	回 j	送	送	排
	_		al b	種			ア	れ 目					最大コア長 → cm	及	水位 彩	N			, <b>-</b>	原位置試験	内	進		(mm)	귀		転数り			水量
尺	高	度	状	区			形	の状						≖	沙測定月	ľ	']			(孔内	試	月		71.	/	ŔÑ		~ .	里   . L <sub>.</sub>	里 ( L
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事			<b>÷</b>	月日	値	0 10	20 30	40 5	水平載荷)	験	F	時	壁保護	゛ビット	MPa	rpm M 	:		分
— 76 — 77 — 78 — 79				花崗斑岩	浅黄	Cg Dg Cg Cg	Vg IVg	dg	γ	2 2 2 2	75.75~76.30m:コアの表面は粗く、やや軟質である。  77.42~77.71m:割れ目に沿って細片状を呈する。 78.75~78.94m:熱水変質部 粘土脈が調目状に分布する。上下 端の検熱が異なる。岩片の定向配 列は見られない。		0 50 100 100 100 100 100 100 100 100 100	<u>'</u>			0 10	20 30	40 5			6/3	100	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット		120 0			- 0
	-36, 69	81.00	<del>!</del> ‡!‡			Dg	VIg	dg		3			[0]														$\pm$			_











H27-F-1

F-1 ( 1 / 2 )

#### ボーリング柱状図

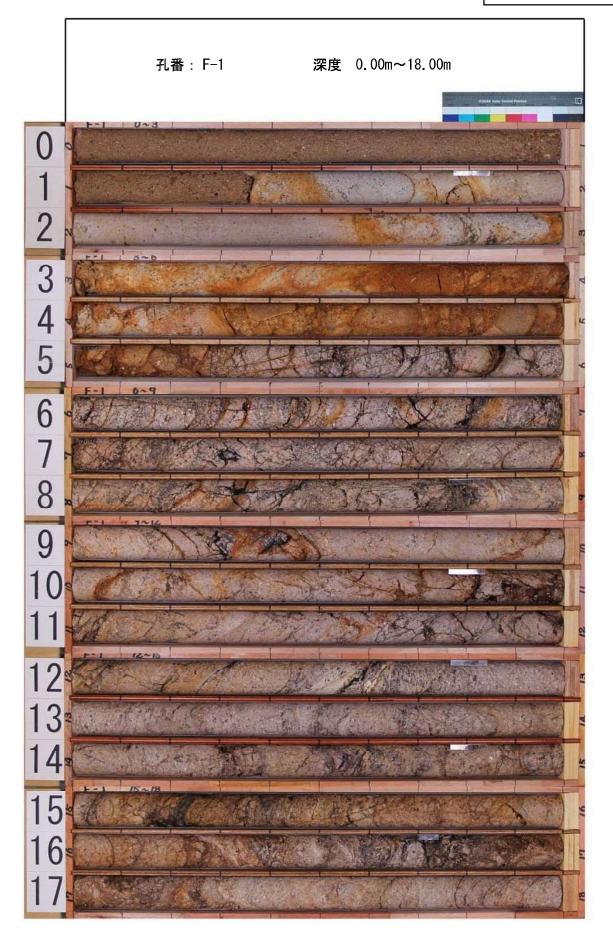
調査名

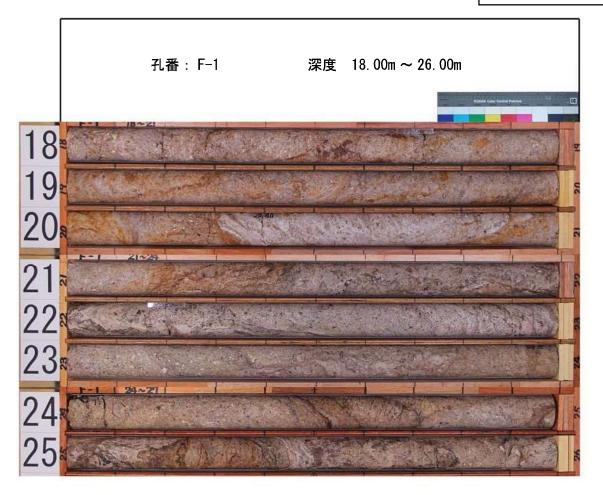
事業 - 工事名

ボー 発 酒 孔 瓜 紙	主機		-	F-	-1						調査位置	ŧΙχ	: 390	450	). Y	/ : ˈ	1114	1. 190	1									п.				35° 4	E' 0	0 60	"	
調査		. 関	1									- '				_												北		緯		,,,	5 Z	0.00		
孔口	業も		"	本原-	子力	発	電材	た#	会	社						刮	周査 :	_	20	15	年	5月:	21日		015 年	5月30	日	東		経	13	36° 1	' 2.	83"		
		者 名									主任技師					<b>玛</b>	見 七 理	場人					盤に	ア 定 者				ボ グ:	責任	者						
総振	コ 標	高	1:	9.83 m	角	Ŀ	80° E	$\overline{\lambda}$	90°	方	270° 10° 90°	地盤勾配	水平	7 0°	使用	5	式 錐	機								ハンマ 落下用	具									
	屈削	<b>人</b>	2	6.00 m	度	下	· .	$X_{_{4}}$	0.0°	向	西 東 南 151.3	配	100   100	/ 0.0°	機種	]	こン:	ジン								ポン	プ									
		, m	15			,,,		-thu			=-			Π=	ア:	採取	! 座				(		標準	質入		試験	Τ	_		<u>.</u>			T	T,,,,	T.,,	
標	標	深	柱	岩	色	便	П	割れ	風	変	記				-	- (	%)	岩	孔   内   水			(	N.	値~深		) 図	原位置試験			掘	圣 7	コ   給 P   F				は 排
尺	高	度	状	種			ア	目						剪	· 大	コ <i>ア</i> ∽	長 cm	級	位 (m)	N							試験	内	進	速度		1		圧		
$ \hat{\ } $	10)			区			形	ر س						F		Q L[	D « 1	区	測定月									試	月	cm i		7   ~   (kN	. _	_	î	1
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	状態	化	質	事				•		.0 ]	分	月	値							(孔内水平載荷)	験	日	/ 時間	壁保護	MP:	rpm a	MPa	分	分分
				埋						-	D.00~1.36m:埋土 細碟混じり粗粒砂か	らなる		Ů	Ш	50	100				0	10	<u> </u>	20	30	40 5	0 10				0/試掘	-		0.0	117	+
- i	18, 79	1,36		±	褐									$\parallel$	Н	+											-				掘 薪	it i	Ť	10.0	0	Ť
_ 2			9999	1 化 1	明養福 浅灰 白					- 18	1.36~5.27m:上部は3 礫、下部は砂礫主体の 1.36~3.57m:シルト混	第四系	である。	I	Ш	Ħ	(100)-													160						
_ 3				混じり	灰黄						径5~650mmの硬質~ した花崗斑岩 アプ 礫と径2~5mmの石英	半クサ ライト	リ礫化 の亜角		₩	#	100												5/22	120						
	17, 10 16, 92	3.57 3.80	0.000	砂礫湿じ	にぶい 黄橙						~50%である。基質に の中粒~粗粒砂で締	tシル まる。	ト混じり		$\prod$	$\blacksquare$	(100)														00 7					
4		l í		1 砂 1	黄褐						<ol> <li>3.30m以深ではクサリる。下位層との境界る。</li> </ol>	は傾斜	±140とな 50°であ		Ш	Ħ	(100).													160	シング					
- 5	15, 79	l i	0:0:0	礫	176)					_ ;	<ol> <li>57~3.80m: 礫混じり 礫は径2~3mmの石英 斜45~50°で配列する</li> </ol>	粒が主	体で傾		$\parallel \parallel$	+					$\vdash$	-					-		$\dashv$	$\dashv$						
_ 6			+							1	3.80~5.27m:砂礫 礫率は50~60%で、カ る。基質はよく締ま	つまきった中	匐汰であ ○〜細粒	[0]			(100)-	1									-		5/23	172						
			‡+‡+‡ ‡+‡+‡			Dσ	Vg	оп		3	砂からなる。 5.27~26.00m: 花崗斑 5.33~12.51m: 軟質	岩 (Gp	)	3 [0]	Н	+	(100)													ŀ	-					
ΓΊ			+		灰褐	DE	* 5	U.S.			れ目が多い。部分的 灰白色の軟質な粘土	に幅1・ 脈が分	~10mmの ·布する。	3 [0]			(100)-																			
- 8			++++ ++++								12.06〜12.46m: 傾余 れ目が直線的で平行	120~8	する。	4	Ш	Ħ	(100).													155	5	₹ .				
- 9			‡+‡+‡ +±+±+			Eg	VIg	dg	ŀ	4				9	Н	+		CL.			$\vdash$										タラルニアラニーランタイヤモントビ	7 				
<b>—</b> 10			‡÷‡‡‡ ‡÷‡‡‡											[6]	П	I	100.										-			172	]	F				
_ 11			+			Dg	Vg	cg	δ	3				[0]	Ш		(100)														5	10.0	140	0.2	泥水1	. 1
			 		明									5 [0]	Н	+	(100)-													172	4	E .				
- 12			+	花崗斑	灰褐			de		4	●12.51~12.73m:砬	ta es		8			(100)														Ė	=				
— 13			9+++5 ++++ ++++	岩岩							破砕幅は16.1cmであ 12.51~12.54m:礫泥	る。	名土状破	3	Н	+													5/25		86					
<u> </u>			+				VIg				砕部 (Hb) にぶい橙色を呈する 状部からなり. 幅は	3. 2cm	である。	[ <b>0</b> ]	Н	$\blacksquare$					-									160	水					
— 15			‡+‡+‡ ‡+‡+‡		にぶい 黄 黄	Eg		cg			上端境界の傾斜は60 粒が残留する。 12.54m:粘土状破砕			[0]		Ħ	(100)	D'																		
			‡‡‡‡‡ ‡÷‡‡		褐		Vg				にぶい橙色を呈する で幅は1~2mmである 境界の傾斜はともに	,軟質 。上蜡	な粘土 , 下端	3 [0]	Н	+	(100)-													172						
— 16					にぶいま		177.0	da		3	連続する。 12.54~12.57m: 磔犯 砕部 (Hb)			3	П	H	(100)																			
— 17					黄 桃		VIg	dg	ε		FTD (FD) にぶい橙色の軟質な なり、幅は10~20mm 12.57~12.62m:礫質	である		2	Ш	$\parallel$		Н			-						1									
- 18			*+*+* ****		灰	Dg	Vg	cg			(Hb) にぶい橙色の軟質な	榮状部	からな	[0] 2	Н	+		CL'									-			172						
— 19			‡‡‡‡‡ ‡‡‡‡		黄褐	Eg	VIg	dg	δ		る。上端境界の傾斜 界の傾斜は40°である 12.62~12.73m: 粘土	,		[0]	Щ	I	(100).	D'											Н							
			++++					-0			砕部 (Hj) にぶい橙色のやや軟 らなる。下端境界の	質な磔 傾斜は	状部か  40°であ	[0]	Н	+	(100)												5/26	163						
											る。全体に岩片の粘 ●16.23~16.65m: 研 破砕幅は30.3cmであ	土化が な砕部																								
											16.23~16.30m: 粘土 砕部 (Hj)	:混じ																								
											にぶい黄橙色の軟質 なる。上端境界の傾 境界の傾斜は53~70	斜は35 であ	3、下端 る。																							
											16.30~16.31m: 粘± -1) にぶい橙色を呈する	,軟質	な粘土																							
											状部からなり、幅は 傾斜は53~70°である 16.31~16.33m:礫量	).5cm⁻	である。																							
											(Hb) 灰白色を呈する。下 は50°である。																									
											16.33~16.65m:粘土 砕部 (Hj)																									
											にぶい黄橙色のやや からなる。下端境界 ある。	<b>皮質な</b> の傾斜	・陳:大部 は45°で										_													

F-1 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	変	記		コア採取率 岩	孔		(		標準貫入	)	試験	原	室	掘	掘	孔					送	
""	,,,,					~		n					→ (%)	内水	(	(		N値~深度	ŧ	) 図	位置			進	径	アチ		転		.	.
尺	高	度	状	種			ア	目					→ cm	位的	N						試験	内	進 	速度	(mm)	ューブ	圧	数	圧	量	量
				区			形	の状					R Q D 区	測定	)						(孔内)	試	月	cm	孔壁	/	$\widehat{kN}$	$\overline{}$		<u>Ĺ</u>	ĵ
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状		化		事		分 0 50 100	測定月日	値	0	10	20	30	40 5	(孔内水平載荷)	験	日	時)	保護	1	MPa )	rpm _			分
					明				δ	4	●20.29~20.88m:破砕部 20.29~20.31m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)		1 (100)-											163							
21					褐灰						上端はシャープで直線的で17°, 下端は湾曲〜波打って30〜45°で 連続。土砂状〜粘土化し著しく軟	ļ	1 (100)-4											150		ダブルコ					1
- 22					にぶい橙						化。白色粘土脈が多く分布。上端 のせん断面はゆ着割れ目や風化割 れ目を切っている(変位量不明)。	ł	2				-									ルコアチュ					+
_ 23				花崗斑	明褐灰	Eg	VIg	dg		3	にぶい黄褐色を呈する。幅15~30m m。	I	[0] D'				-						5/26	170	86 /泥	ューブ/ギ	10.0	140	0.2	泥水1	1-
_ 24			*	岩					δ		20.31~20.34m: 礫混じり粘土状破 砕部 (Ho-2) 上端は湾曲~波打って30~45°,	ľ	(d) (100) a												水	/ダイヤモンドビ					1
			+		明黄褐						下端は波打って45°で連続。径2〜 3mmの石英粒を10%程度含む。一部 で風化により褐色化する。灰白〜	ı	2 [\$\psi\$]											150		/ドビット					
— 25		26.00			褐					3	黄褐色を呈する。幅20~25mm。 20.34~20.35m: 粘土状破砕部 (Hc -1)	ļ	2 (100)-											100		1					1
	-0.09	26.00	74747								上端は波打って45°, 下端は45° で直線的に連続。石英粒、岩片は ほとんど含まない。にぶい黄橙色	1												170					1		┪
											を呈する。幅2mm。 20.35~20.88m:粘土混じり礫状破 砕部 (Hj)																				
											上端45°, 下端65°でいずれも直 線的に連続。径5~10mmの粘土化し た花崗斑岩岩片と幅1~5mm, 白色																				
											の軟質な脈状~レンズ状の粘土か らなる。岩組織は残留するが、割																				
											れ目は消滅するものが多い。灰~ にぶい黄橙色を呈する。 20.88m:粘土状破砕部(Hc-1)																				
											上端65°, 下端68°でいずれも直線的に連続。径1~2mm石英粒を2~ 3%とわずかに含む。灰白色を呈す																				
											る。幅1~7mm。 ●21.20~22.99m:破砕部 21.20~22.92m:粘土混じり礫状破																				
											砕部 (Hj) 明褐灰色~にぶい橙色を呈する。 全体にやや軟質~硬質。上端50°で																				
											やや不明瞭、下端68°で明瞭。21.2 0~22.35m間は、径30mm以下の岩片 とその間を充填する灰白~赤灰色																				
											粘土からなり、マンガン汚染を伴 う。一部に引きずり構造やせん断																				
											面が見られる。22.08mには傾斜80で幅1~3mmの灰黄褐色粘土を不連続に伴い、その周辺は灰白色粘土																				
											化が著しい。22.35~22.72m間は灰 白色粘土を伴う微細な割れ目が発 達しているが、原岩組織は残る。																				
											上端には傾斜50~80°で湾曲した幅 1~2mmのにぶい橙色の軟質な粘土 を伴う。22.72~22.92m間は全体に																				
											変質し、灰白色~赤灰色粘土が網 目状に分布する。 22.92~22.93m: 礫質粘土状破砕部																				
											(Hb) 明褐灰色のやや軟質な礫質粘土状 部からなる。下端境界の傾斜は68																				
											である。 22.93m: 粘土状破砕部(Hc-1) にぶい黄褐色を呈する。軟質な粘																				
											土状部からなり、幅は0.5cmである。 下端境界の傾斜は68°である。 22.93~22.99m: 粘土混じり礫状破																				
											砕部(Hj) 明褐灰色のやや軟質な礫状部から																				
											なる。下端境界の傾斜は57°である。。 ●24.95~25,78m:破砕部																				
											24.95〜25.08m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) にぷい黄橙色のやや軟質な礫状部																				
											からなる。上端境界の傾斜は58°で ある。 25.08m: 礫質粘土状破砕部(Hb)																				
											灰白色を呈する。軟質な粘土状部 からなり、幅は0.6cmである。傾斜 は58°である。																				
											25.08~25.45m: 粘土混じり礫状破 砕部(Hj) 明黄褐色の硬質な礫状部からなる。																				
											下端境界の傾斜は34°である。 25.45m: 粘土状破砕部(Hc-1) にぶい黄橙色を呈する。軟質な粘																				
											土で、幅は0.6cmである。下端境界 の傾斜は30°である。																				
											25.45~25.50m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端34', 下端41'で波打って連続																				
											する。幅60mm。にぶい黄橙~にぷ い赤褐色。 25.50~25.78m:粘土混じり礫状破																				
											砕部(Hj) 上端41', 下端68'で波打つ。岩片 を主体とし、岩片間に幅1~2mmの																				
											白色粘土を伴う。																				$\Box$





H24-B'-1

B'-1 ( 1 / 2 )

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.						1	

								_		•		—													-	ボ	ーリン	グNo.		!	1		H			- 4	i
					3	事業	€ •	Į.	事名	<u>.</u>															_					Ш		Ш	Ш	Ш	Ш		J
ボー	・リン	グ名		B'	<u>-1</u>						調査位置 X:392.8	852	: , Y:	1116	. 09	7												北		緯		35	45	' 20.	69"		
発	注 槻	. 関	日2	▼原·	子力	発'	電材	左#	会	社	·			調査	期間		20	13	年	1月	9	∃ ~	2	013	年	1月2	5 日	東		経		136	' 1'	2. 86	6"		
調1	1 業 3	者名									主任技師			現代理	場し						鉛	定	ア者					ボグ	責任	リン 壬者							
孔	口標	高	19	9.89 r	n 角	L	180°	\	90°	方	北 0° 地 270° 盤 水平	. 0°	使用	試錐	1 機											ハンマ落下用	_ 具										
総	掘削	<b>.</b> 長	25	5.00 r	n 度	T	· .	$\overrightarrow{\lambda}_{_{4}}$	5.0°	向	四 90° 盤 水平	 	機 種	ェン	ジン											ポン	プ										
												$\overline{}$	コア採	町 玆		П			(		-	票準買	٦.		) :	試験	Т	T .	Т	$\overline{}$	$\overline{}$	$\overline{}$		$\overline{}$	$\neg$	1	$\neg$
標	標	深	柱	岩	色	硬	⊐	割れ	風	変	記		-	(%)	岩		孔内	_		(		N値·		隻		) 図	原位	室	掘	掘進	孔径	ア		回	-		
_	_	#	a to	種			ア	目					最大コ ⊸ー	ア長 cm	級		水 位 m	N									置試験	内	進	速度		_		転数			水量
尺	高	度	状	区			形	၈					R Q	D	区		/	IN										試	月		孔	ーブ/	KN	*X	$\neg$	里 (L	<u>*</u>
(m)	(m)	(m)	図	分	調	郝	状	状能	11-	胚	事		~	[%]	分		定月	値									(孔内水平載荷)	験		1/	一位	/ ビット	MPa	rpm		/	分分
(m)	(m)	(m)		//	G/9]	**	11/	,E	16		サ 0.00~2.48m:埋土及び構造物	<u> </u>	50	10	رر		日		0	1	10	20		30		40	50 荷	母欠	+-	Ľ	一	Ľ	$\sim$	$\stackrel{\sim}{+}$	$\stackrel{\smile}{+}$	$\overline{}$	_
L				+#	にぶい						0.00~2.05m: 細礫混じりシルト質 砂 埋土。砂は細~中砂。径2~10mmの	t		(100)	1																	ダブル・コアチ				;p	
				埋土	黄						細礫を含む。礫種は多様。 2.05~2.28m: コンクリート (擁壁	ŀ		100	$\mid \mid$														1/ 9	50		ダブル ファーダアー グモビト ド	2.0	100	0.1	泥水 5	5
	18. 14	2.48	0:0:0		<u>灰</u> 黒 褐						, 2.28~2.48m:砕石 径5~30mm,最大径180mmの安山岩	þ		100																			Ш				
<b>-</b> 3	17, 46	3, 43	6 : 0 : 0 0 : 0 : 0	砂礫	明褐灰						<u>の岩片からなる。</u> 2.48~3.43m:砂礫(③層) 礫は径2~30mm, 最大径200mmの亜	ŀ																									-
_ 4			: ::::::		nn nn	Eg Dg	VI g	dg cg		3	角~亜円礫。基質は細~粗砂。礫率 60%。 3.43~25.00m:花崗斑岩 (Gp)	ů			D'															170							
_ 5			<del>!                                    </del>		明黄褐	Eg	VIg	dg			斑晶は径2~5mmの石英、長石。 3.43~4.81m: 風化部で主砂~岩片	) (	<b>9</b> <b>0</b> ]	100	▙																115	ダブル					
_ ,											状を呈する。岩組織は一部残留し. 褐色化した割れ目が残存する。 4.81~7.50m:風化により土砂状に	ļ	b	(100)																$\vdash$	ケーシング	ダブルコアチューブ					1
- 6			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花	にぶい	Dg	Vg	cg	δ	2	崩せることが多い。傾斜10~40°と 傾斜50~70°の割れ目が多く認めら れる。	ſ	5		CL.														1/10	,	7	<del> </del>	2.0	100	0.1	泥水5	5
L 7			<u> </u>	花崗斑岩	明黄褐						●7.50~10.93m:破砕部(K断層) 7.50~7.90m:粘土混じり礫状破砕	H	<b>d</b> ]		-												-			195		/ダイヤモンドビット				5	
_ 8				石							部 (Hj) 上端傾斜不明, 下端45°。径2~20m mの岩片多いが, 岩組織はほぼ消滅	ľ	0)	100	H																	ンドビ					
ا ا			#:#		浅黄焓					3	している。岩片間を縫うように幅1 ~3mmの白色粘土脈が分布する。7.	2	91	1	↓ │																1	ット					

######################################		明黄褐 浅黄橙	E	Da da	g VIg	g VIg dg	g VIg dg —	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 筋(H) 上端傾斜不明. 下端45。径2~20~ mの岩片多いが、岩組織はほ消滅 している。岩片間を借うように幅 っるmmの白色粘土脈が分布する。7. 70m以戻ではマンガン能発分着しい	上端橋斜不明 下端45: 径2-20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 2 ている。岩片間を確うように帽 2 ~3mmの白色粘土脈が分布する。7 70m以変ではマンガン鉱条が著しい (6)	7.50~7.90m: 粘土湿じり磔状破砕 筋(川) 上端傾斜不明.下端45。径2~20m mの岩片多いが、岩組線はほぼ消滅 している。岩片間を積うように幅1 2 mmの白色粘土脈が分布する。7.7 70m以深ではマンガン線染が着しし。[6]	7,50~7,90m: 粘土湿じり磔状破砕 係 (H) 上端幡斜不明,下端45、径2~20m 向の岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を組みように幅 3 ~3mmの白色粘土脈が分布する。7,7mu以深ではマンガン能を放着しい	7,50~7,90m: 粘土混じり磔状破砕 6 (H) 上端傾斜不明. 下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほ洋海滅 している。岩片間を組みように幅 3 ~3mmの白色粘土脈が分布する。7, 70m以深ではマンガン能を外着しい	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 筋 (H) 上端傾斜不明. 下端45。 径2~20m mの岩片多いが、岩橋織はほぼ消滅 している。岩片間を借うように幅 3 ~ 3mmの白色粘土脈が分布する。7. 70m以変ではマンガン線を分着しい。	7,50~7,90m: 粘土湿じり際状破砕 筋 (相) 上端傾斜不明、下端45。径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を縫うように幅1 3 ~2mmの白色粘工脈が分布する。7. 70m以変ではマンガン磁染が着しい。	7,50~7,90m: 粘土湿じり様状破砕 筋(H) 上端傾斜不明、下端45°。径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を纏うように幅1 2 ~ mmの白色私上脈が分布する。7. 70m以変ではマンガン組金が蓄しい (0)	7,50~7,90m: 粘土湿じり飛状破砕 筋(H) 上端傾斜不明、下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を縫うように幅1 2	7,50~7,90m: 粘土湿じり飛伏破砕 筋(H) 上端傾斜不明、下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を確うように幅1 2 Z Wz dz - 70muの白色私上脈が分布する。7. 70muの白色私上脈が分布する。7.	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 筋 (H) 上端傾斜不明. 下端45'。 径2~20m mの岩片多いが、岩橋臓はほぼ消滅 している。岩片間を借うように幅 3 3 7の回の色粒土脈が分布する。7. 7の回収字ではマンガン能数分響しい	7,50~7,90m: 粘土混じり環状破砕 第 (H) 上端傾斜不明. 下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほ洋海滅 している。岩片間を組みように幅 3 ~3mmの白色粘土脈が分布する。7, 70m以深ではマンガル塩を分落しい	7,50~7,90m: 粘土湿じり磔状破砕 6 (相) 上端傾斜不明、下端45。径2~20m mの岩片多いが、岩結織はほぼ消滅 している。岩片間を値うように幅1 2 ~mmの白色粘上脈が分布する。7. 70m以変ではマンガン組象が蓄しい	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 8 (H) 上端傾斜不明、下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅している。岩片間を起ように幅1 2 つmの白色粘土脈が分布する。7,70m以定ではマンガン総乗分着とい	7,50~7,90m: 粘土混じり環状破砕 第 (H) 上端傾斜不明. 下端45。 径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を貼るように幅 2 3 ~ 3mmの白色転上脈が分布する。7,7 70m以家ではマンガン能を外着しい	7,50~7,90m: 粘土選じり磔状破砕 筋(付) 上端傾斜不明、下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩相線はほぼ消滅 している。岩片間を縫うように幅1 2 ~1mmの白色粘上脈が分布する。7,70m以変ではマンガン船乗が着しい	7,50~7,90m: 粘土混じり飛伏破砕 筋 (H) 上端横斜不明. 下端45。径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を能力。5 に幅 2 2 Nmの白色粒上脈が分布する。7. 70m以変ではマンガン組金が着しい	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 8 (H) 上端横斜不明、下端45、径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を思えまうに幅 2 つるmの白色粘土脈が分布する。7.70m以及ではマンガン総乗分落しい (0)	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 4 107 mの岩片多いが、岩地線はほぼ消滅している。岩片間を踏みように幅している。岩片間を踏みように幅して、3 mの白色転上脈が分布する。7,7 mの以家ではマンガン鉱を対策しい。	7,50~7,90m: 粘土混じり環状破砕 第 (H) 上端傾斜不明. 下端45。 径2~20m mの岩片多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を組みように幅 3 へ3mmの白色転上脈が分布する。7,7 70m以深ではマンガン能数を対着しい	7,50~7,90m: 粘土混じり磔状破砕 4 10mm	7,50~7,90m: 粘土混じり磔状破砕 4 10mm	7,50~7,90m: 粘土湿じり凝状破砕 4 10mm 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7,50~7,90m: 粘土混じり磔状破砕 第 (H) 上端傾斜不明、下端45、径2~20m mの岩方多いが、岩組織はほ洋海滅 している。岩片間を掘るように幅 3 ~ 3mmの白色粘土脈が分布する。7,7 70m以深ではマンガル能を分着しい	7,50~7,90m: 粘土混じり磔状破砕 第 (H) 上端傾斜不明、下端45、径2~20m mの岩方多いが、岩組織はほ洋海滅 している。岩片間を組みように幅 3 ~ 3mmの白色粘土脈が分布する。7,7 70m以深ではマンガル能を分着しい	7,50~7,90m: 粘土混じり環状破砕 第 (H) 上端傾斜不明、下端45。径2~20m mの岩片多いが、岩柏順はほぼ消滅 している。岩片間を踏みように幅 2 3 ~ 3mmの白色転上脈が分布する。7,7 70m以家ではマンガン能を対策しい	7,50~7,90m: 粘土湿じり環状破砕 第 (H) 上端傾斜不明、下端45。 径2~20m mの岩方多いが、岩組織はほぼ消滅 している。岩片間を組みように幅 3 ~ 3mmの白色粘土脈が分布する。7,7 70m以家ではマンガン能を分着しい。	7,50~7,90m: 粘土混じり磔状破砕 4 100 100 100 100 100 100 100 100 100 1
明黄海	(にぶい 黄檀 明		r	r	r s		。明黄褐〜黒褐色を呈する。幅28 7,90〜7,91m:粘土状破砕部(Ho-I ) 上端45',下端45'。径1mm前後の石	[0]			-(10	, o	,														145		ダブルコアチ					_	
コア欠 期 Eg	明Eg	Eg		VIg	-	. [	英粒が点在する。にぶい黄橙色を 呈する。幅6~10mm。 7.91~9.48m:粘土混じり礫状破砕	Ιψι	#	Ш	196															1/11	180			2,0	100	0.1	泥水 5	5_	
花 調 Dg 、						3	部 (Hj) 上端45', 下端71'。径10~20mmの 岩片主体で、岩組織はほぼ消滅し	1 14			-(10	CI.	_													1/12	90	86	グフル コアチ ユーブイ グモン	2.0	100	0.1	泥 水 5	5	
							インエル・スー 名 date Mate Mark Alba Mark	î																					FED						

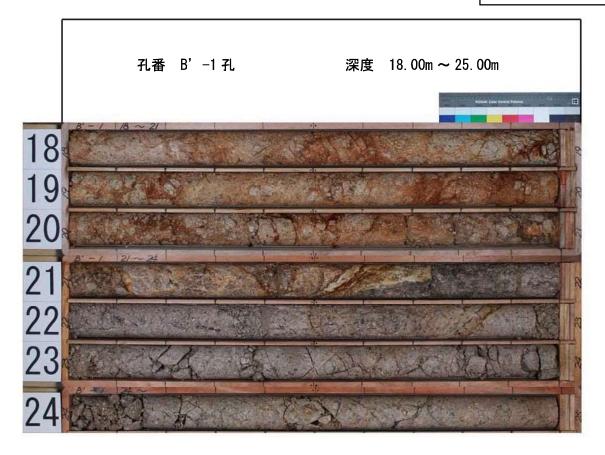
- 11

	7大田し、割れ日月近の2つ5回間に			1						- 1				1	
	径0.5mmの微小な黄鉄鉱が晶出して														
	いる。9.30m以深に, 径1~5mmのマ														
	ンガン粒が点在する。浅黄橙~明													1	
	黄橙~にぶい黄橙色を呈する。幅5														
	6~110cm <sub>o</sub>														
	9.48~9.58m: 礫混じり粘土状破砕													1	
	部 (Hc-2)														
	上端70°,下端60°。白~淡黄褐色														
	軟弱粘土と、岩組織が消滅した径5														
	~10mmの花崗斑岩岩片2%程度含む														
	。岩片も粘土化し軟質上下端は幅1														
	~5mmで風化により褐色化する。浅														
	黄橙色を呈する。幅35~80mm。														
	9.58~10.93m: 粘土混じり礫状破														
	砕部 (Hj)														
	上端60°,下端70°。10.36~10.3														
	8m スライム (コアの供回りによる)														
	もの)。10.43~10.61mに岩組織明														
	瞭で割れ目も残留する花崗斑岩が														
	中石として分布する以外は、ほぼ														
	岩組織と割れ目が消滅した岩片と														
	岩片間の粘土化部からなる。10.61														
	m以深では、60 <sup>-</sup> 前後の風化褐色割														
	れ目の─部が残留している。10.93														
	m, 幅1~2mmで70°でやや波打つ褐														
	色粘土が分布する(コア全区間に														
	連続しない)。にぶい黄橙~明黄														
	褐色を呈する。幅51~67cm。														
	10.93~11.93m:傾斜10~40°の割				1						i I		- 1	1	
	れ目主体で、白色粘土を伴う。														
_			_		-		_	_	_		_	_		_	-

B'-1 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	П	割れ	風	変	后	コア採取率	)   7	岩	孔内北	_	(		標準貫入 N値~深度	)試験 )図	原盤	室	掘			コアチ	給			排
尺	高	度	状	種区			ア形	日の状				最大コア長 → m R Q D ~ [%	֓֞֞֜֞֜֜֜֜֜֓֓֓֓֜֜֜֜֜֟֜֜֜֓֓֓֓֓֜֜֜֜֜֜֜֜֜֜֜	級区	水位 E/測定	N					原位置試験(私内が	内試	進月	速度(50~	∭ ∕孔壁保	ューブ	圧 kN	転力数 日	量	量
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	50	100	分	定月日	値	0	10	20 3	30 40 5	(孔内水平載荷)	験	В	/時)	保 護		MPa	pm MF	5	分)
— 13			#++++ ++++ ++++ ++++ ++++ ++++		明褐灰	Eg Dg	VIg V g	dg cg		)))	●12.10~12.20m: 破砕部 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端45,下端60。明褐灰色。上 下端境界は凹凸がある。 12.20~16.31m:土砂状~岩片状を	)] (10											1/12	90		ダブル コアデブイン マモビト	2.0	100 0.	1 派	5
— 14 — 15			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		明黄褐	Eg	VIg	dg	δ	3	呈する。 13.52~13.70m: 黄褐色粘土脈がほ ぼ平行に分布。傾斜55~65', 幅1 ~10mm。	))												85		ダブル				
— 16			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		明褐灰	Dg	Vg	cg	r	2		n											1/13			ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	2.0	100 0.	1 派	- 5
17			+			Eg	VIg	dg			16.71〜21.11m: 土砂状を呈する。 径10〜20mmの岩片と砂状〜粘土化 した基質からなる。	5 (10	,,,,	D.									.,,,,			ダイヤモ	2,0	0.	5	-
— 18 — 19				花崗斑岩	にぶい#	Dg	Vg	cg		3		))												125	86	ンドビット				-
— 20 — 21			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		黄  橙	Eg	VIg	dg	δ			91											1/14	60		タブル コアチ ユーダイン ヤモン ドピッ	2.0	100		
_ 22			8+++8 ++++ ++++ ++++							4	●21.11~21.74m:破砕部(G断層) 21.11~21.46m:粘土混じり岩片状 破砕部(Hj) 上端25、下端23。明褐灰色。境	01	•								_		1/17	80		ダブル ファデブイン・ ヤモビト	2.0	100	1 水 5	0_
— 23 — 24					明褐灰	Dg	Vg	cg	r	3	界面は凹凸がある。21.36mまでは 網目状に白色粘土が分布する。 21.46~21.54m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端55 で波打ち湾曲する。浅黄色 。 躁は石英と、10mm前後の軟化し た岩片。	7	C	aL'									1/18	110		ダフル プア・ブイン・ ディン・ ドド・	2.0	100 0.	1 派	-
	2. 21	25.00	<u> </u>								21.54~21.57m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 上下端55、幅13~20mm。灰白色。 下端はやや波打つ。 21.57~21.74m: 礫湿じり粘土状破 件部 (Ho-2) 下端10~855、幅30~70mm以上。灰白一環褐色、径1~5mmの石変と径1 0mm前後のお土化した岩片を10~20 %含む。 21.74~22.77m: 角隙状〜岩片状を呈する。部分的1で機斜10~30 ~3m 上旬 (May 10~30 ~3m 10~3m 10~	<u> </u>														F				





H24-B'-2

B'-2 (1 / 2)

#### ボーリング柱状図

調査名

ポーリングNo. 1

事業		工事名
尹木	-	エザヤ

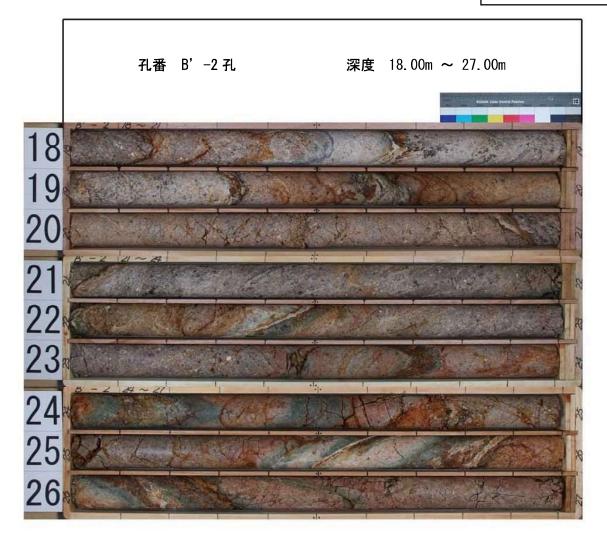
ボーリング名	B' -2	調査位置 X:392.142 , Y:	1116. 097		北緯	35° 45' 20 <sub>-</sub> 68"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 1月31日~ 2013 年 3月 7日	東 経	136° 1′ 2.86″
調査業者名		主任技師	現 場 代 理 人	コア鉄定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	19.87 m 角 <sup>180°</sup> 方 :	比 0°   地   使   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	27.00 m 度 下 <sub>0°</sub> 向 西寸	東 勾 鉛 機種	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬	٦	割れ	風	変	記		コア採取率	岩	孔内水	_	(		標準貫入 N値~深度	)試験	原位置	室	掘	進	ター	コアチ		回対転り		送排
尺	高	度	状	種区			ア形	目の状					最大コア長 → cm R Q D	級区	位的测	N					試	内試	進月	速度(㎝/	/mm) / 孔 壁	ューブ/ビ	Œ	数 E	E d	量量
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状		化	質	事			分	定月日	値	0	10	20 30	) 40 5	(孔内水平載荷)	験	В	17. 1	保護		¶Pa ∪	pm M	Pa 3	
_ 1				埋土	オリーブロ						0.00~2.46m: 埋土 0.00~1.50m: 沙礫 最大径10mm程度の砂礫。		(100						20 30	, 40					115	ダブルコアチュ				
<b>—</b> 2	47.50			±	<u>褐</u>						1.50~2.10m:コンクリート 2.10~2.46m:砕石	F	400	*									1/31	105	ケーシング	ブ/ダイ	2.0	100 0	.1	泥水 5
<b>—</b> 3	17, 56 16, 59	3 49	· · · · · ·	砂礫	褐灰 赤褐						2.46~3.49m: 砂礫 (③層) 礫は径110mm程度以下の花筒斑岩の 礫主体。基質はシルト質砂。	F	400	1											7	ューブ/ダイヤモンドビット				
— 4			\$			Eg		dg	ε		3.49~27.00m: 花崗斑岩 (Gp) 3.49~5.73m: 風化が著しく、軟質 となる。 5.03m: 傾斜50°の割れ目沿いに砂	0 4	0) (100											60		ダブルコアチ				
— 5			*		橙		IVg	cg			状化する。 5.89m:褐色砂状部を挟む。傾斜25 ', 幅5~6mm。 5.91~5.94m:空隙に流入粘土を挟	0	93 (100	D.									2/ 1			1,	2.0	100 0	.1	泥水 5
— 6 _			*		1c	_	VIg	-	δ ε δ	2	む。 6.40~6.55m: 傾斜30~45°の割れ 目が密集する。 7.68~9.35m:割れ目沿いの褐色化	0	01	-										115	115 7	ヤモンドビ				
— 7 — 8			***** ***** *****		にぶい橙	Dg		dg	ε		が著しく、斜長石は淡黄色を呈する。 8.23~8.25m:幅10~15mmで砂状化する。傾斜65°の割れ目に灰白色粘	0	<b>(100</b>												ケーシング	ットダブ				+
— °			; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ;		明褐灰		Vg	cg	δ		土を挟む。幅2~5mm。周縁幅2~3c m間は緑色化する。 9.35~9.66m:礫状~土砂状を呈する。	1	9 (100	a.										90		ルコアチ				
— 10			*	#	炭	Eg Dg		dg		3	●10.49~11.37m: 破砕部 粘土混じり岩片状破砕部 (Hj) 上端50',下端58'。浅黄灰色を呈 する礫質シルト状部と、黒・柴・赤	į.	0] (100	-									2/ 2			ユーブ/ダイヤモンドビット	2.0	100 0	.1	泥水 5
— 11				花崗斑岩	浅黄	Eg	VIg	dg	ε	4	褐色を呈するシルト混じり礫状部 からなる。 10.69m:粘土状破砕部(Hc-1)	į.	0]	D'										110		ヤモンドビ				
— 12			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +			1	IVg Vg	cg	r	2	傾斜25、幅5mm。灰赤色粘土。や や凹凸するが直線的。 12.20~12.42m:割れ目が密集。 12.32m以深は珪化変質し雲母が晶	[1 2	90	CL.											ケー				1	+
— 13					明褐灰	Eg	VIg	dg		3	出。岩片間を粘土が充填する。 ●12.42~13.27m:破砕部 12.42~12.43m:粘土状破砕部(Ho -1)	Ţ	7 (100	D'				+							ーシング	ダブルコアチューブ				泥
— 14			*		灰	Dg	IVg	cg	r	2	傾斜52°。灰白色を呈する。幅1~5 mm。 12.43~12.68m:礫質粘土状破砕部 (Hb)		7 (100	CL.									2/ 4	105		ユーブ/ダイヤモンドピット	2,0	100 0	.1 :	泥 水 5
— 15			;				Vg				上端・下端は52°でほぼ直線的でシャープに連続。白色の幅1〜5mmの 粘土脈が分布。両粘土脈に囲まれ て径10mm前後の粘土化した岩片と		9											H			+	+	+	+
— 16 — 17					灰白	Eg	VIg	dg	ô	3	網状の粘土脈が発達し全体として やや軟質である。珪化変質し、黄 鉄鉱が晶出。風化による赤褐色部 を含む暗緑灰色を呈する。幅16cm。	1	0]	D'									2/ 6	85	86	グブル コア・ブイ マモン ドドト	2.0	100 0	.1	泥水 5
_ '/					褐 灰 灰白	Dg Eg	1	1			12.68~13.27m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) 上端52°下端30°で上端は直線的 に、下端はやや不明瞭に連続。割	2 [1	0]	D'									2/ 7	90		マフル コアチューブ イダン	2.0	100 0	.1	泥水 5
											に、下端はでかり間に達成。野れ目や岩組織はほぼ消滅している。 変質で全体が軟化著しくなっている。明褐灰色を呈する。 15.63~83m:全体に軟質となる。 割れ目は不明瞭なものが多く、部分的に土砂状~角礫状を呈する。														L	F 7				

B'-2 ( 2 / 2 )

+#6	.57		44	ч	4.	ræ.	_	фıl		785	ēn	-	コフ	ア採	取率	ш		71		(		ŧ	準貫	入		) [	式験	E	-	+122	462	71		<b>«Δ</b>		٠,μ	۰.4	+41-
保	į iž	K	<sup>†±</sup>	石	ш	(関	-		1	変	āC			-	(%)	石		内	_	(			N値~	~深度	Ę	)	図	位	羊	加			ア	布	.			
				種			ア	1				i	最け	大コ		級		位										崑	内	進		(mm)	ュ					
高	厚	ŧ	状	_			π,	 က					R	Q				/	Ν									1		_	度	孔	ヺ		- 1	- 1		量
				ᅜ			形		1									測	$\cup$									九内水	元	月	cm		ビ	kN			L	Ĺ
(m)	(n	n)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	0		50	16	分		뷤	値	0	10	0	20		30	4	0 5	平載荷)	験	日	時	護	ット	MPa ∵	<u></u>	_	分)	分
		† ; (4)	+ # # # # # # # # # # # # # # # # # # #		灰	Fø	VIe	de		3	18.17m:傾斜60'の割れ目に褐鉄鉱 が付着する。	1	1	Щ	400	, D.					Ï		Ī										ダブル					
			‡‡		=					3	18.17m~19.80m: 褐色化が所々に 見られる。	2		₩	Ш	Ĺ															90		チ					1 -
		+ 1	###		1-						18.39~18.52m:粘土混じり礫状破	ΙŌ	9]	Ш	100	<u></u>																	ゴーブ		100		泥	
		+ +	+++		ぶい	Ug	Vg	cg		Z	上端不明瞭,下端60 で凹凸して湾	3	1	Щ	100	, uL														2/ /			ダイ	2.0	100	0.1	5	5
			1		黄橙		VIg	dg	ε	4	下部は珪化変質を伴う。下端に幅2 ~4mmの灰色粘土を挟む。	3	Н	₩	+++	Ħ					$\dashv$										85		ヤモンに					-
		8	1	<i>"</i>		Eg	Vg	cg	δ	3	(Hb)	[0	9]		100	D.															00		トビッ					
		Į.	##	当	浅黄		VIg	dg	ε	4	片を多く含む。	2	Ш	Щ	100																	86	+					П
		+	+++	岩	褐	Dg				2	0°。上下端とも波打ち膨縮する。 幅5mm。	19	ľ		Ш													-					ダブルコアチュ				泥	1 -
		+	###	-		Cg	Vg	cg	δ		18.67~19.22m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj)	•	)]	Ш	(100	dı.														2/8	75		フダイ ヤモン ドピッ	2.0	100	0.1	水 5	5
		++	+++	1	オリーブ灰	Dg				3	に粘土化進む。	3		Ш	100																							
		Ŧ	###		明褐瓜	Eg	VIg			2	(Hb) 。	H		₩	Ш	-					-		+		+													-
		1	+++	İ		Dg	Ve	da	δ		土脈を伴う。 ●20.87~22.43m:破砕部	io	)]	Ш	100	D.														2/ 9	95		タフルコアチブイ	2,0	100	0.1	泥水	5
		<u> </u>	###		かい棒						砕部 (Hc-2)	4		Ш	100	Ĺ																	150				5	
-5, 5	0 27.	00 +	+++	-	行豆	Cg		cg	γ	2	灰白色。	119	ľШ	Ш	Ш	CL'	H	$\dashv$		_																		H
											-1) 下端48°で直線的。幅10mm。明褐色																											
											。 20.92~21.08m:碟質粘土状部(Hb																											
											) 下端50°。下端に幅3mm以下の褐色																											
											21.08~22.00m:粘土混じり岩片状																											
											上端50°, 下端不明瞭。にぶい黄橙 色。																											
											22,00~22,43m:粘土質礫状破砕部(Hb)																											
											割れ目が発達し、下端に膨縮する																											
											22.43m:傾斜65°,幅5~15mmの石																											
											24.67~24.82m: 粘土質砂状を呈する。																											
											密集する。基質は粘土質砂状を呈																											
	(m)	高 盾	高 (m) +	高 度 状	度 (m)	唐	(m) (m)   (m)	(m) (m)   図	(m) (m)   図	(m) (m)   (m)	(m) (m)   図   次   所   次   の   次   版   次   の   次   版   次   の   次   版   次   の   次   版   次   の   次   成   次   の   次   成   次   の   次   成   次   の   次   成   次   の   次   成   次   の   次   成   次   の   の	(m) (m)   図	(m) (m)   図	(m) (m)   図	(m) (m)   図   対	(m) (m)   図   分   調   軟   状   態   化   質   事	(m) (m)   図   分	(m) (m)   図   分	(m) (m)   (m)	(m) (m) (m) (m)   (m	(m) (m) (m)   (m)	(水)   (x)   (x	標	標	(m) (m)   (m)	(m)	(m) (m) (m)   図		様	展 度 状	展	接	展	展 次 技 音 色 使 フ 月 日	接	接	横	横   横   横   下   下   下   下   下   下   下





H24-H-2

H-2 (1/1)

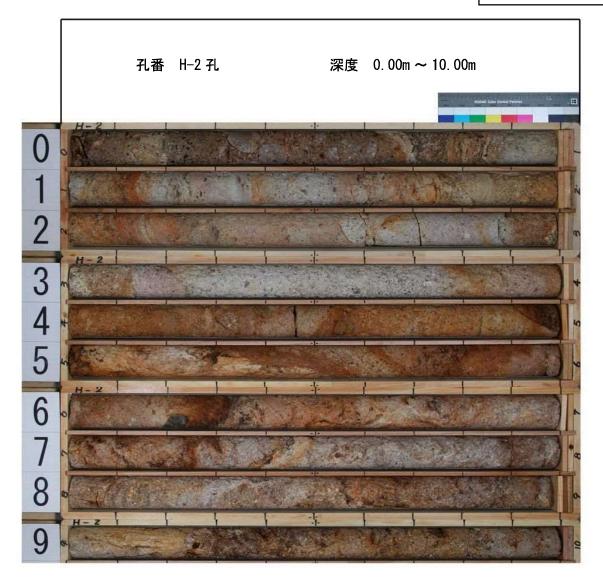
#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.											1	
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

					事	業	• 1	:事:	各														_										Ш	<u>"</u>
ボー	-リン	グ名		H-:	2					1	調査位置	X:400.	78	4 , Y:	1115.	376										北		緯		35°	45'	20.83	3"	
発	注 柞	幾関	日本	原子	<b>一力</b>	笔電	株:	式会	社						調査其	月間	20	)13	年 2	月 17	日~	2013	年 2	月 19	日	東		経	1	36°	1' 3	3. 13"		
調1	査 業	者名								:	主任技師	i			現代 理	場人				<u>-</u>	监定:	ア 音				ボグ	一リ責任	ン者						
孔	口 柞	票高	23.0	00 m	角	180 上	<u></u>	90°	方	270°	0° 90°	地盤水	平 0°	使用	試錐							1	ハ落	ンマ・ 下用!	Į.									
総	掘削	削 長	10.0	00 m	度	下。	$\nabla$	20.0°	向	西女	東東	盤勾配鉛直	ヹ゙	機種	エンシ	シン							ポ	ン:	ĵ									
$\equiv$						_	_			•	22.07.00																				$\overline{}$	$\equiv$	_	$\equiv$
標	標	深	柱	岩	色	更 =	書	」 風	変		記			コア採		岩	孔内	Н	(		標準貫力		) 試	験 図	原位	室	掘	掘	孔	コアチ	給回	回送	送	排
				種		-	7   X							最大コ	ア長	級	水位	(	(		1416	<b> </b> 本 文	,		原位置試験	内	進	速	(mm)	ှ.		运 水 	1	
尺	高	度	状	区		Ħ	<sub></sub> σ							R Q		区	測	N								試	月	度(m	ты	乙L	_   .	数 圧	量	量
(m)	(m)	(m)	図	分	調	飲出	り 大 包	制化	質		事			ユ	[%]	分	測定月日	) 値							(孔内水平載荷)	験	日	。             	孔壁保護	/ビット ドット	Ni rp ∥Pa	om MPa	分分	
	22 41	0.63		埋土	灰黄	$^{+}$	+	+		0.00~0.6	3m: 埋土 少碟からなる			0 50	100		+-		0	10	20	30	40	.50	) <sup>10</sup>				+	+	+	+	Ť	H
- 1	22.41	0.00	00000	埋土礫混じい	灰黄褐が橙灰黄に					0.63~5.0 礫 (③層) 0.63~2.1	2m:組礫混し 5m:組礫混し	り中砂及び砂			(100)-															_				

尺 (m)	高 (m)	度 (m)	状     図	区分	調	軟	形状	の状態	化	質	事	F	Q L	D [%]	区分	E/測定月日	N )値						駅 (孔内水平載荷)	試験		度 (㎝/時)	/ 孔壁保護	ノビ	ŔN	数 rpm		(L/分	量(L/分
— 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6	22. 41 20. 98 20. 59 19. 96 19. 03 18. 28 17. 94	0.63 2.15 2.56 3.23 4.22 5.02 5.38	0000000	埋土礫混じり砂震シトの環 湿り 砂礫 繭岩 砂油	灰黄橋ぶ巻灰黄 にぶい黄巻 内に麦朗 灰に麦 明			dg			0.00~0.63m: 埋土 粗砂~砂礫からなる。 0.63~5.02m: 種種選じり中砂及び砂 線(3)層) 0.63~2.15m: 結確課選じり中砂 上部で程2~5mmの石葉が傾斜10~1 5'の配列をなす。 1.16~2.56m: 路確選じりシルト 若干の砂分を含む。 5.66~3.23m: 砂礫 磯は径50~160mmの亜円~亜角礫で 花崗斑岩のナケリ保砂、42~5.02m。 3.23~4.22m: 砂礫 経2~5.5mmの石英が20%程選じる。 4.22~5.02m: 砂礫 機性径10~100mmの左崗斑岩の亜円 一亜角線で、半クリリの単の・ ・ 22~5.02m: 水砂線 ・ 22~5.20m: 水砂線 ・ 22~5.20m: 水砂線 ・ 22~5.20m: 水砂線 ・ 22~5.20m: 水砂線 ・ 22~5.20m: 水砂線 ・ 5.02~5.38m: 水砂線 ・ 5.02~5.38m: 水砂線 ・ 5.02~5.38m: 水砂砂路 (Hj	0	50	(100)	D'	I		-	10	20	30 4	0 50	) (有)	۸	2/17	100	86	ダブルコアチューブ		100	0.1	記水-	)
— 7 — 8 — 9	13. 60	10.00		花崗斑岩	原明黄福明褐灰ぶ権にぶい黄褐	Eg	VIg Vg	dg	δ	3	)上端は第四系との不整合で20~30 、下端80~90°で下端は湾曲しなが らシャーブに連続、径5~10mの格 土化した花崗斑岩岩片と砂質土の 基質からなる。黄色色を呈する。 網36m以上。5,04~5,25m: 深質粘土状破砕部( 1bb) 上端60~90°、下端80~90°で上端 は湾曲しながら、下端は波打ちながら、いずれもシャーブに連続。 と後1~3mの五数社とした花崗斑岩岩片と、基質の粘 性土からなる。 サイルでは、14mでは、15mの には、14mでは、15mの にいる。 は、14mに横線打0~80°でやや波打ちながら連続するせん断面も分布し ている(上部面と同方向)。上位制 は明黄褐色、下始側に流費複色と	(0) (0) (0) (0) (0)		(100)	D'										2/18	85	86	ダフル・チブインマー マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マ	2,0	100	00.1	泥水1	1 -
											せん断面をはさんで変化する。幅4 0~50mm (推定値)。 5.26~5.38m: 発土状破砕節 (Ho-1) 上端80~90'、下端70~90'で上端 は波打ち、下端170~90'で上端 は波打ち、下端184、240~3mmの石英粒 と径5~10mmの粘土化した当片をか ずかに含む。上位側は白色、下位 側は風化により研究機管を呈する。 幅210~2mmと整備する。 5.38~6.59m: 砂罐 機は石英と径5~10mmので簡別岩 の亜円~亜角機、蓋質は中~現砂。 6.59~10.00m で施附近当(59~10.40m) 6.59~10.42m: 花開斑当(59~10.40m, 石灰 7.42~7.47m: 粘土資課状破砕節( 川)上下端50 で波打つ。幅20mm, 石灰 、粘土化した岩片多多(50mm, 石灰 、粘土化した岩片多多(50mm, 石灰 、粘土化した岩片多多(50mm, 石灰 、粘土化した岩片多多(50mm, 石灰 、木土化した岩片多多(50mm, 石灰																						
											nD)																						



H24-B'-7

B'-7 (1/1)

#### ボーリング柱状図

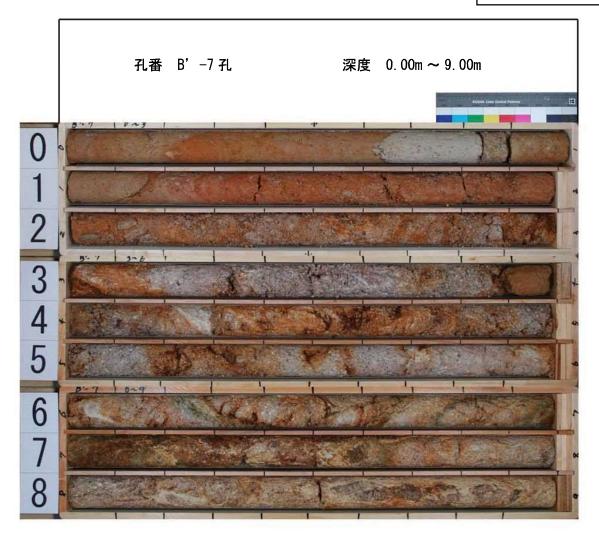
調査名

ボーリングNo. 1

事業・エ	事名
------	----

ボーリング名	B' -7	調査位置 X:401.266 , Y:	1112. 572		北緯	35° 45' 20. 76"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 1月27日~ 2013 年 1月31日	東 経	136° 1′ 3. 22″
調査業者名		主任技師	現 場 代 理 人	コア鉄定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	20.20 m 角 上 方 :	L   0°   地   使   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	9.00 m 度 下。 向 西寸	東知道。	エンジン	ポンプ		

Γ	Τ		_						Τ		Τ.		Τ.		7 ‡	平田	平	Τ.,		Τ			(		ŧ	票準	貫入		-	試	験	T_	Ī	Τ.,	Τ.,	.T	П				Ι.,,	Τ.,
標		標	深	柱	岩	色	硬	=	害	風	変	記		•	, ,, 		(%)	岩	1	孔内	H	Т	. (			NI (iii	[~沒	e nie			図	┤烷	室	振		孔	コア	給	回	送	送	排
					種			ア	わ 目	1			i	長っ	大 =		'長	級	ž	水位						14	E - 121	· / X		,		原位置試験	内	道	追速	(mm)	チュ					水
尺		高	度	状					1				١,	R		3	cm D			(m)	١	1											1		度	71	<b> </b>	圧	数	l	1	1
					区			形	    状	1			'		7		[%]		<u> </u>	測定	l.											(孔内水平載荷)	試		i cr	量	ľ	kN	$\cap$	^	<u>C</u>	Ĺ
Ι, ,		, ,	, ,	ाज्य		<b>=</b> (E)	± <i>h</i> r	ىد	1 "		FF	事				_ `		١,		定月日	値	Í										平載	F4	L	16	壁保護	゛ビッ	MPa	rpm	MPa	分	分
(m)	1	(m)	(m)	図	分	調	<b>#X</b>	17	思	化	頁		0			50	10	分	١.	H	"		)	1	0	2	0	30	0	40	Ę	o	験	E	1 0	護	۱	~	\ <u> </u>	~	-	
	Т				砂混じり	にぶい 黄橙						0.00~2.37m:砂混じり粘土主体(② 層)			П	$\prod$																						0.4	60	Δ 1	泥水 5	0
L,	ا,				粘	灰白	1					0.00~1.20m:砂混じり粘土 締まった粘土。礫を少量含む。																							15	,		V.4	00	0.1	5	Ľ
	Ή	19. 00	1.20				1					●0.62m: せん断面 (K断層)																							'	1						
L,	,			;;;°°	礫湿じ り砂質 粘土	明赤褐						傾斜60°でシャープに連続(K断層 )。マンガン鉱染部に沿って発達。																						1/2	,,			0.6	70			
<b>–</b> '		17. 83	2.37	+ + + +	10.1	_	-		╀	+	-	1.20~2.37m: 礫混じり砂質粘土 傾斜40 <sup>°</sup> 程度で基盤岩と接する。	12		Ш	Ш	Ш	╚	4															1"						0.1	泥水 6	0
L	3			++++		にぶい 黄橙	1				3	2.37~9.00m: 花崗斑岩 (Gp)	10	]	Ш	Ш	Ш																		17	,	ダブ			"	6	ľ
`				######		明灰					4	2.37~8.15m:径5~20mmの岩片と	1		Ш	Ш	Ш																		'		ルコ	0.7	75			
L	4			‡+‡+‡		_褐_	1					一部粘土化した砂状の基質からな る。割れ目は大半が消滅する。	[0	]	Ш	Ш	Ш	Ц																L		_	ファチ					L
	Ί			++++	-	明黄						3.03m:傾斜60°で幅8~10mmの明黄 褐色粘土を挟む。	1		Ш	Ш	Ш																			86	ī	0,7	70			
L,	5			#####		褐	1					4.25m: 白色粘土を挟む。傾斜50' 程度で波打つ。幅7~10mm。	Į	]	Ш	Ш	Ш																			"	1/					
`	1			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	蓝	明灰褐					3	6.04~6.07m:傾斜70~75°,幅10	2																						15		メタル					
L,	6			++++	花崗斑岩		Eg	VIs	dg	8		~35mmの白色粘土を挟む。 6,31m:傾斜50~70°,幅1~2mmの	[q	)	Ш	Ш	Ш	D,																			ルクラウン					
l `	1			#####	岩	にぶい						白色粘土を挟む。上端側幅30~50m mが緑色化する。	2		Ш	Ш	Ш																	1/2	,, L		3			0.1	泥水6	١,
L.	,			++++	1	黄橙						6.87m:傾斜70、幅2~4mmの明黄	Į.	]	Ш	Щ	Ш																	["				0.7	85	".	6	ľ
'				++++		にぶい	1				4	- 褐色粘土を挟む。	1		Ш	Ш	Ш																					"	] "			
L	8			#####			1				3	●8.15~9.00m:破砕部 粘土混じり礫状破砕部(Hj)	Į	]	Ш	Ш	Ш																		15							
Ι '					1	浅黄橙					$\vdash$	上端70°で著しく湾曲し連続性が悪	1		Ш	Щ	Ш																									
	1	11, 20	9,00	<b>X</b> ###	1	橙					4	い。全体に粘土化が著しく、径10m m前後の岩片主体。岩片間を白色~	Ĩd	]	Ш	Ш	Ш				L													L								L
												淡黄色の粘土が充填する。																														



H24-B'-3

B'-3 (1 / 2 )

#### ボーリング柱状図

ボーリング名

<u>調査名</u> : ボーリングNo. ボーリングNo. ボーリングNo.

事業•工事名										
3' –3	調査位置	X:392.852 , Y:	1112.000					北	緯	35° 45′ 20.59″
子力発電株式会社			調査期間	2013 年 1月	14日~ 2	2013 年	1月26日	東	経	136° 1' 2. 96"
			現 堤		7 7			ボーリ	レン	

発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013 年 1月14日~ 2013 年 1月26日	東 経 136°1′2.96″
調査業者名	主任技師	現 場代理人	コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者
孔口標高	19.88 m 角 180° 方 北 0° 地 使用	試 錐 機	ハンマー 落下用具	
総 掘 削 長	25.00 m 度 下 勾配 数	エンジン	ポンプ	

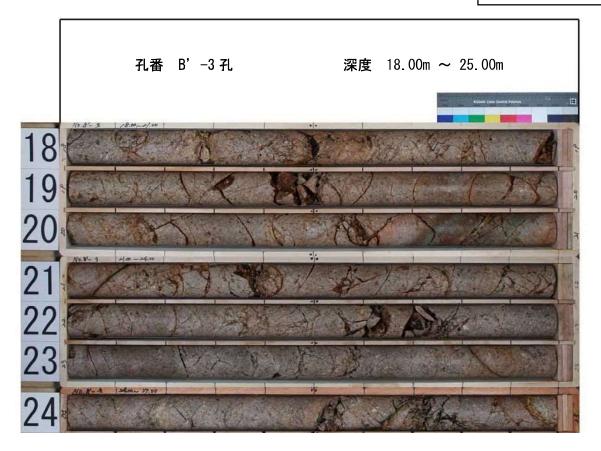
						·   '	0-	۲,	45.0°	[P]	180° 中 53.0° 配 90°	0.0	.0° I	梩	_																		_	_	_	_			
標	標	深	柱	岩	色	硬	<u></u>	割	」風	変	記	П	⊐.	ア拐	取	率	岩	孔		(			標準	隼貫.	λ		)試	験	原	室	掘	掘	孔	_	給	回	送	送	排
								ħ					最	大=	- ( 1 ア		級	内水	_		(		Ν	値~	·深度		)	図	位置試			進	径	アチ			水		
尺	高	度	状	種			ア						R	-		cm		位 (m)	N										験	内		度	71	ューブ	压	数		量	量
				区			形	状					IX.		. [	D %]	区	測定月日											(孔内水平載荷)	試	月 	/	壁保	Ľ	kN •	rpm	MPa	Į,	L /5.
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	<u> </u>	0	. 5	с	100	分	日	値	0		10		20		30	40	51	載荷	験	B	時	護		MPa ·	_	J	分	5.
					にぶい						0.00〜2.76m:埋土 0.00〜1.70m:礫混じり粗砂 砕石やコンクリート片を含む。			$^{+}$	Н	(100)																	114	ダブルコアチ					
- '				埋土	黄褐						1.70∼2.23m: コンクリート			Ħ		(100)															1/14	70	ケーシ	1 7 1	1,5	110	0.1	泥水 21	2
- 2	17. 93	2.76			褐灰						2.23~2.76m:砕石			Ħ		100																	ング	ブ/メタルクラウ					
- 3	17. 76 17. 66	3.00	0.000	砂礫コア欠加	に扱い						2.76~4.29m: 砂礫(③層) 礫は径10~100mmの半クサリ状~硬					1															1/15	120	Н	ウン ジフル コーメクト ファン メクト	1,0	110	0.1	泥 水 14	14
	17. 37/ 17. 05/	3.55 4.00	0:0:0	砂礫コアケル砂礫		L					質な花崗斑岩の亜角~亜円礫。基質はよく締まった粗砂。 3.00~3.14m:コア欠如		$\parallel$	H						╟		+									-	120		ルクラウン		90	0.1	14	Ë
- 5	10, 63/	4.28	# + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	(IV) IX	橙						3.55~4.00m: コア欠如 4.29~27.00m: 花崗斑岩 (Gp) 斑晶は径1~4mmの石英、長石。	1	0]	Ħ		100				-									_					4		100		::::	
- 6			I++++	1	灰褐	1				3	4.29~4.80m: 風化・変質で軟化し. コアは土砂状を呈する。 ●4.80~4.90m: 破砕部	[0	[0]	Ħ		(100)																85		ダブルコアチ			0.1	泥 水 13	13
. 7			++++		褐	Eg	VI.	,		4	4.80~4.84m: 粘土状破砕部(Hc-1) 上端60'、下端54' で両端とも波打	1	[0]	╫	Н	(100)															1/16		99 7	チュー	0.5				
			* + * + * <b>2</b> + * + <b>2</b>	花崗斑岩				cg	δ	3	つ。幅20~25mm。明黄褐色~灰白 色。 4.84~4.90m:礫質粘土状破砕部( Hb)	2 [/	2	H		(100)	D'														1716		ケーシング	ノメタリ	0.0	110			
- 8			+++++ +++++ +++++ +++++ +++++ +++++ ++++	岩	橙						下端44*で波打つ。幅35~40mm。 7.00~7.37m:割れ目に沿って幅2 ~3mmの白色粘土を挟む。	2	2	Ħ		(100)																90		ューブ/メタルクラウン			0.1	泥 水 10	a
- 9			#####		122	D				4	●7.37~7.70m:破砕部(K断層) 7.37~7.57m:粘土混じり礫状破砕 館(Hi)	1	8	Ħ		100				╟																			
- 10			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +				Vį	1		3	上端58', 下端10~15' で両境界と も波打つように連続し、シャープ な直線性はない。50~70'の割れ	1 /2	2 2	H																	1/17	80		ダブル コアチブ ニメララ ルクラ ウン	0,5	100	0.1	泥水11	0
						Ľ		dg	-	4	目の一部が残留し、厚さ1mm程度の 白色粘土を挟むことがある。7.54m に55°のせん断割れ目が分布する。	[0	[0]	П		Ĭ																-		ノメタ ルクラ ウン			0.1	îì	ľ
											明褐灰色を呈する。幅約16~17cm。 7.57~7.61m:礫質粘土状破砕部( Hb)																												
											上端10~15°, 下端0°でいずれも 波打つ。径1~3mmの石英粒, 長さ1 0~20mm, 幅5mmの粘土化した花崗																												
											斑岩岩片を少量含む。にぶい黄橙 色を呈する。 7.61~7.62m: 粘土状破砕部(Hc-1																												
											) 上端0°, 下端5°でいずれも波打 つ。にぶい黄橙色を呈する。幅10m																												
											m程度。 7.62~7.66m: 礫質粘土状破砕部( Hb)																												
											上端5°, 下端20°。上端は波打つが、下端は直線的。径1~3mmの石 英粒, 長さ10~20mm, 幅5mmの粘土 化した花崗斑岩岩片を少量含む。 にぶい黄橙色を呈する。幅3~5cm																												
											程度。 7,66~7,70m:粘土湿じり礫状破砕 部(Hj)																												
											上端20°, 下端65°で両者とも直 線的でシャープな境界。岩組織は																												
											ほとんど消滅し、厚さ0.5~1mmの 白色粘土が網状に分布する。橙色 を呈する。幅20~100mm。7.70mに																												
											幅1mm以下の細粒部を挟む。灰黄色を呈する。 9.78~10.68m: 軟化し砂状を呈す																												
											る。割れ目に幅1~2mmの白色粘土 を挟む。 ●10.68~11.02m:破砕部																												
											10.68~10.93m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端堺界は不明瞭。																												
											10.68m: 粘土脈を挟む。 上下端52°でほぼ直線的。幅3~6mm。 。灰~白色。																												
											10.93~11.02m:粘土混じり砂状破砕部 (Hb) 下端30°で直線的。																												

### 第1239回審査会合 机上配布資料1 再掲

B'-3 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	圖	亦	記		コア採取率 岩	孔			(		標準貫	入	)	試験	盾	室	垢	垣	孔	_	給	回	¥	送	排
lak	128		"-	1	_	~	-	n	/14	^	10		<del></del>	内水	_	,	(		N値~	~深度		) 図	原位置試	-		進	径	アチ		転			
l_				種			ア	目					最大コア長 級 →→ cm	位									뷻	内	迫	速	(mm)	ᄀ					
尺	高	度	状	区			形	の					R Q D 🗵	(m)  測		1							験		L	度	孔	ヺ	圧	数(	出	量(	量
							ЛЭ	状					一 [%]	岸	_								内水	部	<u>-</u> ا	cm	壁保	Ľ	kN •	rpm	MPa	닐	닐
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事		分	定月日	値	<b></b>		10	20	2	0	40 5	(孔内水平載荷)	験	E	時	護	ット	MPa		$\cup$	分	分
			# + + + + + + + + • + + +		橙			Cg		3 4	11.02~11.54m: 熱水変質部 所々傾斜5~40°の直線的な割れ目	ļ	1 1000			ŤĬ			20			1					99						٦
- 12			++++		褐	1_		dg		4	が目立つ。 ●11.54~11.70m:破砕部		[0] 4 D'					+					-		1/1	7 80	ケーシ	ダブル コアチ ユーブ ノックラ ウン	0,5	100	0.1	泥 水 11	0-
1.0			<u> </u>			Eg	VIg		δ	3	11.54~11.59m: 粘土質砂状破砕部 (Hb) 上下端20°で上端は波打つ。粘土脈	ŀ	14 [0] (100) A														ンング	ルクラ				11	
13			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗	橙			cg			が網目状に分布。 11.59~11.61m:岩片混じり粘土状	ļ	4 (100)													$\vdash$	╁	ダブ		-	-		⊣
<u> </u>			++++	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	-	r	2	破砕部 (Hc-2) 上端20°でほぼ直線的。下端20°で 波打ちながら連続。	ŀ	g. OL.					+					-					ルコア チ					$\exists$
15			T+T+							_	11.61~11.63m:粘土質砂状破砕部 (Hb)	ľ	[0]												1/2	1 70			0,0	100	0.1	泥 水 10	10_
			+ + + + + +		にぶい 黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3	下端35°でほぼ直線的。粘土脈が網目状に分布。		3 D.															ユーブ/メタルクラウ				10	
— 16	8 21	16.50			灰褐	]			γ		11.63~11.70m: 粘土混じり砂状破 砕部(Hj) 下端40°で直線的。所々ほぼ直線的					1							1					クラウン					1
L 17				コア欠加							な割れ目が目立つ。 11.70~13.69m:熱水変質部	Ì	[0]																				ヿ
	7. 63	17.32	[+[+]	如		Eg	VIg	dg			12.00~12.60m: 径20~70mmの岩片 が目立つ。		2 (6)															ダブル	0.0	100	0.1	泥 水 7	7
— 18			++++		明褐灰					3	12.46~12.55m: 岩片混じり粘土状 を呈する。 ●15.80~17.39m: 破砕部 (6断層	ı	4 100 a										1			75		ルコアチ					_
_ 19			+ + + + +		炭	Dg	Vg	cg			) 15.80~16.00m:粘土混じり礫状破		(d) (do) 10L												1/2	2	86	ューブ			0.1	泥 水 4	4_
			++++								砕部 (Hj) 上端30'、下端45'で、上端は不明	-	[] (100) 4														1		0.5	110	-	$\dashv$	$\dashv$
- 20			++++				IVg	bg			瞭, 下端は直線的。 16.00m: 粘土状破砕部 (Hc=1) 傾斜55°, 幅4mm。ほぼ直線的。明	f	10 CON CM'													60		メタルクラウン			0.1	泥水 6	6 -
_ 21			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩					r		黄褐色。 16.00~16.05m:礫質粘土状破砕部		[io]										-					3	1,0	100	0.1	泥 水 13	13
			++++	斑岩		Cg			ľ	2	(Hb) 上端55°, 下端45°で上端は直線的, 下端は波打つ。幅29~35mm。	ŀ	/6  01   (100)-												H		1	ダブ					┪
22			####		褐灰	ľ					16.05~16.13:粘土混じり礫状破砕 部(Hi)		6 (100)															ルコアチ	1,2		0.1	泥 水 13	13-
_ 23			++++				Vg	cg			径5~10mmの岩片を含む。 16.13~16.16m:礫質粘土状破砕部		Ioi CL'												1/2	3 45				120			╡
			++++								(Hb) 上端30°, 下端67°で湾曲する。幅3 Omm。	ŀ	#B															ユーブ/メタルクラウ	1,5		0.1	泥水8	8
			++++			Dg				3	16.16~16.50m:粘土混じり礫状破 砕部 (Hj)		<u> </u>										1					ルクラウ				8	1
	2. 20	25.00	1+1+1	_	にぶい 程		W.	۰	Щ		下端不明。径5~10mmの粘土化した 岩片主体。		(9)	-	$\downarrow$								-	1	1/2	3 170	1	ン ダブル コアチブ ニーグ ンメクラ	1,0	100	0.1	泥水	6
					杜	1					16.50~17.32m:コア欠如 17.32~17.39m:砂質粘土状破砕部 (Hc-2)																	ノメタ ルクラ ウン					
											(nu-2) 境界面不明。 21.08m以深:岩片状~短柱状コア																						
L											を主体とする。																						





H24-H-6-1

H-6-1 ( 1 / 1 )

#### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.						1
	ı					Ι.

事業・工事名

ボーリング名	H-6-1	調査位置 X:405.817 , Y:	北緯	35° <b>4</b> 5' 20. 72"		
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 3月 8日~ 2013 年 3月11日	東 経	136° 1' 3. 48"
調査業者名		主任技師	現 場 代 理 人	コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	20.39 m 角 上 方 方 270° /	L 0°   地   使   90°   盤   水平 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	15.00 m 度 下 <sub>0°</sub> 45.0° 向 西 180		エンジン	ポンプ		

th0					-		, 0° I		45.0°		180° 十南 233. 0 配 90° 尸	0.	0.0°																														_
標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	変	55	П	٦	ア				岩	7	. [	Ţ	(			標準				) 証		原位	Į.	室	掘	掘			糸	ì [	ı i	<u></u>	送	排
				種			ア	ħ					最	大	<u>~</u> ⊐			級					(		Νſ	直~沒	架度		)	図	位置診験	1	nta	<b>.</b> #	進速		ーナ		車	<u>.</u>	k :	水	水
尺	高	度	状	任里				P					_		-		em	INX	位 (n		٧												נייו	進	度			E	- 数	女   E	Ε		
				区			形	の状	1				R		a L		D %]	区		!											7 7	֓֞֟֓֓֓֓֓֓֓֟֟֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֟֟֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֟֟֓֓֓֓֓	試	月	cm		lμ	ki		m M	,	(L/分	Ę
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	1	化	質	事						101	分	月日	i li	直	0	1	0		20	2	10	40	,	(子グガ平電布)	ž Į	験	日	時	保護	1 00	MF		" "		分	分
												П	Ů	1	50	П				Ť	Ť								4(	,	50 -						T			T	1	1	
- 1													Н	+	H	H	H														-						ダブ						-
_ 2														Ī			I																		100		ルコアチ						_
												-	Н	+	H	H	+																				1 7					泥水	
3													П	Ţ		H	$\parallel$																	3/8		86	ダイヤ	2.	1"	0 0	.	Ϋ́	'-
4														$\dagger$	$\parallel$	H	Ħ														-				100		ユーブ/ダイヤモンドビット						-
<b>–</b> 5													Ш		H	$\mathbb{H}$	$\parallel$														4				100		ピット						-
_ 6														$\dagger$			I																										
													Н	+	$\parallel$	$\mathbb{H}$	$^{+}$																										
7													Ш	1			I																		95		9						-
- 8											9.00mまでノンコア		Н	+	$\parallel$	H	$^{+}$														-						ダブルコアチ						-
_ 9	14. 03	9.00	<u> </u>								9.00~15.00m:花崗斑岩(Gp)	┧┇		Ī		I	I																			1	チュー						_
1,,					褐灰	Eg			ε	4	9.00~9.58m: 土砂状を呈する。粗 い石英粒が目立つ。全体にマンガン及	1	0 [ <b>0</b> ]	+	H	H	100																	3/ 9		86	フノダイ	2.	10	0 0	.1	泥水1	1
10					白						び酸化鉄の付着が著しい。 ●9.58~14.36m:破砕部(K断層) 9.58~9.59m:砂混じり粘土状破砕		0 [0]	1	$\prod$	H	(100)																				ヤモン						Ī
- 11				#.	明極灰組	1					部(Hc=1) 傾斜75°。含水多く軟質。粘土化	1 1	0																						80		ユーブ/ダイヤモンドビット						-
12				花崗斑岩	褐灰	Dg	VIg	dg	δ	3	がすすみ塑性的変形をする。明費 褐色を呈する。幅5~10mm。 9.59~10.50m: 礫質粘土状破砕部		[ <b>0</b> ]	+		$\mathbb{H}$	H	D'													-						'						-
13				岩							(Hb) 上端75°,下端20°でいずれも直 線的、灰白色を呈する、10.14~10		[0]	İ			100																										
l					明褐灰	_	-		ε		21m間にほぼ85°の角度で幅5~10 mmの砂混じり粘土状破砕部が挟在 する。Ho-1に相当し明黄褐色を呈	이 [	0 [ <b>0</b> ]	+	H	H	100																				ダブ	ルチブ				泥	
<u> </u>	1		<u> </u>		"	Eg Dg	Vg	-	δ	3	する。せん断面はない。10.21mに 傾斜85°のせん断面。		0	Ī		I																		3/11	95	86	コユノヤド	ź 2.	10	0 0	.1	泥水1	1 -
	9. 78	15.00	<u> </u>			De		H			10.50~13.59m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) 上端20°, 下端不明瞭。径20~30	П	193		Ш	Ш	Ш			$^{+}$											+	+	-			+	$\vdash$			$\dagger$	+	+	$\dashv$
											mmの岩片主体の砂礫状を呈する。1 0.50mの割れ目を境に多少粘土化が 弱くなるが大差はない。しかし、	1																															
											これ以深粘土化は弱くなり、マサ 状の岩盤に漸移する。明褐灰~褐																																
											灰色を呈する。 13.59~13.77m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																																
											上端不明瞭. 下端不明瞭。明褐灰 色を呈する。13.59~13.67m間は石 英粒が多いが軟質な粘土で充填さ																																
											れている。 13.72mに幅3mm程度の 軟質粘土(45°, 明黄褐色)挟み																																
											その上下も強く粘土化している。 13.77~14.36m:粘土混じり礫状破 砕部(Hj)	<i>i</i>																															
											上端不明瞭、下端20°。明褐灰色 を呈する。																																



# 0~9mノンコア



H-3 (1/1)

# ボーリング柱状図

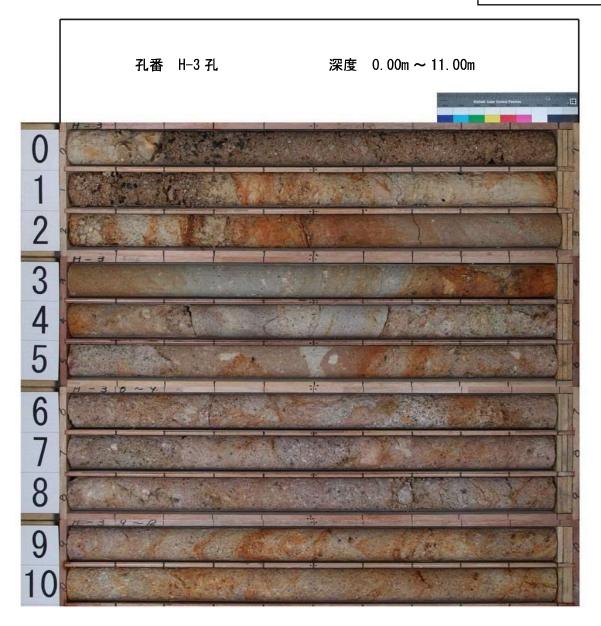
調査名

ボーリングNo.						1

事業 • 工事名

ボーリング名	H–3	調査位置 X:400.670 , Y:	1106. 919		北緯	35° 45′ 20.61″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間 2013 年 2月	21日~ 2013 年 2月23日	東 経	136° 1′ 3.33″
調査業者名	Ė	主任技師	現場代理人	コア盤定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	22.97 m 角 上 方 北 270°		試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	11.00 m 度 下 <sub>0</sub> 向 西 180°	気   鉛   元   機   種	エンジン	ポンプ		

標尺	標高能	深度®	柱状図	岩種区分		硬軟	ア形	割れ目の状態			記事	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	位置試験(孔内水平	内	進月	進速度	孔径 ㎜/孔壁保護	アチューブ/ビ	王 kN MPa	転 数 rom		水 量(L)分	量(L/分
	21. 70			埋土	淡にぶい黄橙				-		0.00~1.27m:埋土 0.00~0.20m:砂 0.20~1.27m:砂碟 碟は径5~20mm。基質は中~粗砂。	0 10 20 30 40 50	间	-				ダブル	)				-
— 2 — 3	20. 49	2.48	6000000 6170000	礫混じり砂シル-	淡黄 明褐い						1.27~2.48m: 磯混じり砂(3)層) 砂は細~粗砂で不均質。花崗斑岩 のクサリ蝶が混じる。 1.77~1.98m:シルト~細砂が優勢 2.48~7.95m:シルト賞砂及び玉石混 じり砂礫(②層)。	-100			2/20	95	86	コアチューブ	2,0	100	0.1	泥水	1.
— 4	19. 27		0.00	ト質砂	に 黄白 灰明 福 明福 明福 明福 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖						2.48~3.70m:シルト質砂 基質は砂を主体とし、シルト分が混 しる。径2~4mmの知解於が混じる。 2.48~2.75m:粘土分を多く含む。 3.24~3.70m:径5~20mmの岩片と石 英が混じる。	100-				95		/ダイヤモンドビッ				1	-
— 5 — 6				玉石混じり砂	にぶい 黄檀 にぶい 福						3.70~7.95m: エ石湿じり砂礫 礫は径2~5mmの石英を主とする細 礫 径10~40mmの花崗茂岩で亜角礫 が多い。最大径150m程度の玉石が 混じる。礫は半クサリ~クサリ礫。 ●5.39m: せん断面 (K断層)	400						トダブル				_	<u> </u> -
— 7 — 8	15. 02	7.95		礫	灰褐						傾斜50°。酸化帯を切る。 7.95~11.00m: 花崗斑岩(Gp)	- 100			2/21	100	86	パコアチューブ/ダイヤ	2,0	100	0.1	泥水	-
			<u> </u>		灰褐	Eg Dg	VI g V g	dg cg	r		風化・変質による岩盤劣化部で一部 硬質部や礫状の岩片を残す。灰白	OC.						ダイヤモ				1	
— 9 — 10			++++ ++++ ++++ ++++ ++++ ++++	花崗斑岩	明黄褐	Eg	VIg	dg	δ	3	色の変質粘土脈や一部の割れ目沿 いに淡褐色の粘土を不規則に伴う。 9.12m以深:酸化汚染を強く受け、 編状の酸化帯がみられる。	D'						モンドビット					L
	11, 97	11.00	<del>+</del>		褐	Dg	Vg	cg							2/23	115	86	ダフル コア・ブ イダイ ヤモン	3.0	100	0.1	泥水 5	1



H-4 (1/1)

# ボーリング柱状図

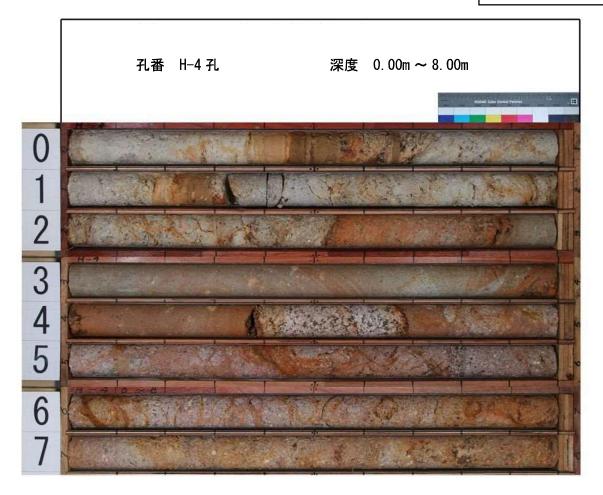
調査名

ボーリングNo.						1	

事業 • 工事名

ボーリング名	H–4	調査位置 X:401.835 , Y:	1106. 919	北 緯 35°45′20.63″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間 2013 年 2月20日~ 2013 年 2月21日	東 経 136°1′3.37″
調査業者名	:	主任技師	現 場 コ ア	ボーリン グ責任者
孔口標高	23.03 m 角 上 5 北		試 錐 機	
総掘削長	8.00 m 度 下。 向 西 1800	東 気 鉛	エンジン ポンプ	

標	標	深	柱	岩	色	硬	=	割	」原	変	55		コア採取率岩	孔内		(		標準貫入 N値~深度	)	試験)図	原位	室	掘		孔	コア	給	回	送	送排
尺	高	度	状	種区			ア形	$\sigma$					最大コア長 → cm R Q D 区	水位。	N			NE MX	-	/ <b>E</b>	原位置試験(汎内	内試	進月	進速度(町	(mm) / 7L	ノI	圧	数	圧	-
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	± ₩	状態		質			フ [%] 分 0 50 100	測定月日	値	i o	10	20	30	40 50	水平載片	験	B	一時)	壁保護	-	MPa r	rpm I	- 1	ト 分 分 )
— 1 — 2	21. 7	1 1.29		シルト質砂シルト質	灰リブラウンス						0.00~2.53m:シルト質砂及びシルト 質砂器(③層)。 0.00~1.29m:シルト質砂 径5mm程度の石英を含む。 1.29~2.53m:シルト質砂礫 細礫主体で中礫が点在する。		(100)-													ダブルコアチ				
— 3	20, 5	2.53		-質砂礫ル砂 標準にりシ	白						2.53~4.81m:シルト質砂礫及び礫混 じりシルト質砂(②層)。 2.53~2.90m:シルト質砂礫 細礫主体で全体に褐色化する。 2.90~4.81m:礫混じりシルト質砂		(100)-4										2/20	80	86	ューブ/ダイヤ	2,0	100	0.1	泥水 1
— 4 — 5	18. 2	4.81	**************************************	ルト質砂	橙 浅黄檀 橙						細〜中砂主体。石英やクサリ礫が 点在する。 ●3.87m: せん断面 (K断層) 傾斜60°。 4.38~4.69m: ペグマタイトの巨礫。		0 (100)													モンドビット				
— 6 — 7			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩	明赤灰 明黄褐	Eg	VI.	de	ε	2	4.81~8.00m: 花崗斑岩(Gp) 全体に風化者しく軟質である。部 分的に岩組織を残す。割れ目沿い に粘土化が認められる。 5.42m:幅10mm程度で粘土化する。 褐色を呈する。		0 (100)-4 D'										2/21	80	86	ダファーゲーンツ プアーダモビト	2.0	100	0.1	泥水 1
	15, 0	8,00	<u>;</u> †;†;		褐							Н	[4]															+	+	+



H=5 ( 1 / 1 )

## ボーリング柱状図

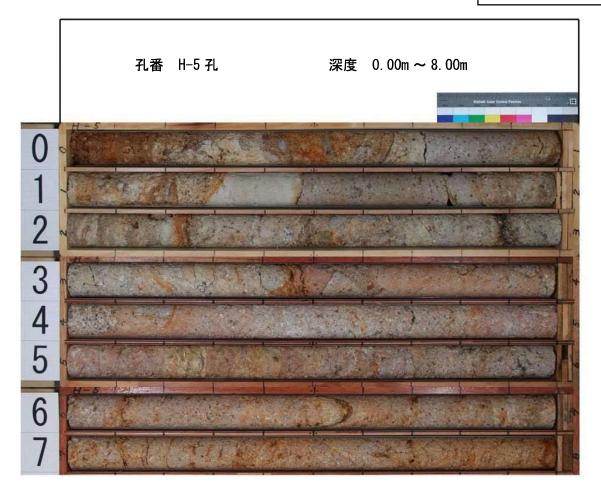
調査名

|--|

事業・工事名

ボーリング名	H-5	調査位置 X:403.817 , Y:	1106. 919		北緯	35° 45' 20. 67"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 2月19日~ 2013 年 2月20日	東 経	136° 1' 3. 43"
調査業者名		主任技師	現 場代理人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	22.34 m 角 180° 方 3	\ 90°   盛   " 小十 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	8.00 m 度 下。 向 西 180°	東  「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬	٦		風	変	話	7 採取率 岩 孔 ( 標準貫入 ) 試験 原 室 掘 掘	孔径	コアチ				送
尺	高	度	状	種			ア	れ目の				大コア長   級     水   位   正試   内   進速   度   で   で   で   で   で   で   で   で   で	(mm) / / 7L	ューブ	圧	転数が	圧	
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	形状	状態	化	質	事	Q D 区   測定月   (1.1 計 月 日 )   (1.1 計 ]   (1.1 计 ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1.1 t ]   (1	壁屋	-	kN	pm M	<b>M</b> Pa	[L/分] ?
- 1 - 2				砂礫	漫						0.00~3.46m: 砂糖(3層) 花崗斑岩のサリ 稚主体で最大径3 00m以上。基質は細磁混じリシル ト質砂。径30m以上の石英片が点 在。24m: せん断面(K断層)。 0.65m:マンガン脈。模斜20°。幅2 mm。 1.34~1.48m: 軟弱なシルト質砂を 挟在。砂は細砂±体、	2/19 95	86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドピット	3.0	100 0	0.1	泥水 5
— 4 — 5 — 6	18. 88	3.46	0.0000000000000000000000000000000000000	砂礫 花崗斑岩	明黄褐	Eg	VIg	dg	ε	2	へ2.00~2.25m: 不明瞭であるが水平 に近い堆積構造を示す。下端にマ ンガン脈を伴う。 2.50m: 幅3mm程度でマンガンが濃 集する。 3.46~4.28m: 砂礫(2)層) 花崗斑岩のサリ線主体で基質は シルト質砂。 4.28~8.00m: 在簡別指(8) 4.28~8.00m: 在簡別若(8) 4.78m: 土砂状を呈するが、 わずかに岩組織を残す。所々、灰 白色の粘土を挟む。 6.57m: (4865°で、幅2~3mmの養褐	75	86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	100 0	0.1	泥水5



H-6 (1/1)

# ボーリング柱状図

ボーリングNo.						1
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,						П

事業		工事名
<b>*</b> *	-	<b></b>

					事	業 •	I	事名																					
ボー	ーリン	グ名		H-6						調査位記	₫ X	:405.81	7 , Y:	1106. 919								北	緯	t	35°	45' 2	20. 71'	,	
発	注模	. 関	日本	本原子	力角	電	朱式	会社	:					調査期間	201	3 年 2	2月2	28日~ 2	013 年	3月7	B	東	経		136°	1' 3.	49"		
調	査 業	者 名								主任技能	ф			現 場 代 理 人				コ ア 鑑定者				ボーグョ	ーリン責任者						
孔	口植	高	20	).34 m	角	180° 上	5	90°	270° /	# 0° 90°	地盤	水平 0°		試 錐 機						ハンマー 落下用	具								
総	掘削	<b>人</b>	13	7.00 m	度	下。	X,	5.0°	西寸	東 東 233.0	勾配		機種0°	エンジン						ポンこ	プ								
_							_																				_		_
標	標	深	柱	岩色	鱼颅	<b></b> □	割	風変	ξ	記			コア採	石	孔内	(		標準貫入 N値~深	)	試験 )図	原原	室		孔	ᄀ	給恒転	送	送	非
				種		7	れ						最大コ		水位	$\hat{}$		N ie ···································	泛	/ IAI	原位置試験	内		[ 径 (mm)	チー	車z	水	水 :	水
尺	高	度	状				目						→ R Q	cm	(m)	И							度	E /	I.	圧数		量	量
				区		形	の状						\ \ \ \	쯔	測定	_					(孔内水	試	月 cm	孔壁保	ビ	kN rpi	m MPa		ᆡ

標	標	深	柱	岩	色	石田	<u> </u>	1 ₫	引 属	1 2	記	П	⊐	ア技	采取	率	岩	孔		(			標準	集貫 万	(		) 討	験	原	幸	掘	搄	孔	_	給	回	浂	详	排
1255	1क		11	12	"	"	-	'  <del>"</del> ∤		" "	n n			-	- (	%)	7	内			(		Ν	值~	深度		)	図	位	-	1/44		径	アー	ᄱᄓ				
				種			7		- 1				最	大 =	コア	長	級	水											置試	内	進	速	(mm)	チュ		虹	水	水	水
尺	高	度	状					- 1					_	_		cm		(m)		ı									験			度	4	J	圧	数	圧	量	量
				区			形	0   1	- 1				R		_ [	D % 1	区	測											孔内		月	cm	孔 壁	/	kN	$\cap$	$\widehat{}$	Ĺ	î
l.,		l , ,	ाज्य 		=⊕				^  誤 化	, FF	事			_	- '	~ ,	$\mathcal{A}$	定月	値	i									(水平載荷)	験	日	時	保		MPa	rpm	MPa	分	分
(m)	(m)	(m)	図	分	-	#/	1	12	E 10	_		Ш	0		50	100	分	H	Ľ	0		10		20		30	40	5	0 荷	駅	_	$\overline{}$	護	7 TH	$\overline{}$	$\sim$	$\overline{}$	$\overline{}$	$\sim$
	19. 85	0.69	000000	機混り形							0.00~2.27m: 礫混じり砂及び礫質砂( ③層)	Ή.	+	Ш	Н	(100)															2/28	50	86	コアチューダイヤチン	2.0	100	0.1	北水	1
- 1	19. 51	1.18		砂	明黄色	86					0.00~0.69m: 礫混じり砂 細~粗砂で不均質。細礫が混じる。 0.69~1.18m:均質な細砂	.    -	+	₩		Н				-		+		+			$\dashv$		-					ヤモンドピッ					-
				礫質砂	淡黄						1.18~2.27m: 礫質砂 不均質な砂。礫は径10~30mm,最大	.	$^{\dagger}$	$^{++}$	Н	(100)	٠															115		2					
2	18, 73	2.27									480mmの花崗斑岩岩片。礫率30~40	Ì		Ш								T												ダブルコア					-
_ 3	18, 09	3, 18	00000	機混 りむ	にぶい褐						2.27~3.18m: 礫混じり砂(②層) 細~中砂。礫は径2~20mmの石英,	1 [	$\perp$	Ш	Ш							_									3/ 1		86	チューブ	2,0	100	0,1	泥水	1_
ľ	10,00	3,10	‡+‡+	‡ +	にぶ			Ť	T		花崗斑岩主体で、最大径100mm程度 の亜角礫が点在。礫率5%程度。		0	Ш		(100)																						1	
<b>-</b> 4			‡‡‡‡	÷	しい		, ,,,,,	ا		3	3.18~7.18m: 花崗斑岩(Gp) 3.18~5.33m: 風化・変質により赤	1	[0]	₩	Н	₩	D'			-		+		+			-		-			90		イヤモン					-
			++++	÷l	赤褐		g VI	* a	5	3	色を帯びる。軟質な岩片状~土砂 状を呈する。割れ目は消滅し、一部	1 6	[0]	₩	$\mathbb{H}$	(100)-	."															"		ダイヤモンドビット					
<b>—</b> 5			++++	+++	にぶい橙	L	1	$\perp$	_   8		に灰赤色粘土脈を伴う。 5.33~5.82m:多くの割れ目に幅数	1 1	5	$\dagger\dagger$	$\parallel \parallel$	$\parallel$				1		+		$\dagger$			$\dashv$		1					ŀ		_			_
<b>–</b> 6			####	岩岩	橙	D <sub>E</sub>		g C		3	mmの灰赤色粘土を挟在する。 5.82~6.16m:径10~30mmの軟質岩	[	<b>(</b> 0)	Ш	Ш	(100)	CL'																						_
°			<u> </u>	<u></u>	橙		$\neg$		_	2	片と細粒化した粗砂の土砂状。 6.16~6.67m:ほぼ全ての割れ目が		J	Щ	Ш	(100)	. D'																	ダブ					
L 7	15, 26	7, 18	++++	+	╧	E	y VI	g d	g	3	開口し、黄橙色粘土を挟在する。 6.67~7.18m:岩芯まで劣化し、細		[0]		Ш	Ш				1		+		+			-		-			95		ルコアチ					-
	15, 03	7,51	+;+;	의 砂碗 士	赤褐	F	F	F	F	F	片〜細粒化する。割れ目は全て消滅し、やや軟質な岩片が残る。	<u> </u>	[0]	₩	$\mathbb{H}$	(00)-	$\dashv$																	구					
- 8			####	+	150						7.18~7.51m:砂礫 径5~30mmの亜角礫と中~粗砂から		4	Ш	Н	Н						+							1		3/ 2		86	ラ	2.0	100	0.1	泥水	1-
			‡‡‡‡	† † #		+			δ	. 3	なる。 7.51~17.00m: 花崗斑岩(Gp)	4	[0]	$^{\dagger\dagger}$	П	(100)	٠																	ューブ/ダイヤモンドビ				1	
F 9			‡‡‡‡	+ 崗斑	黄橙		y VI	g d	g		7.51~8.57m:多くの割れ目が開口 し、細粒分が挟在する。緑灰色に変		2	Ш			D'																	ŧ ン					-
10			+ + +  ≥  + +	† #		4					質した岩片が不規則にみられる。 8.57~9.36m:原岩組織は不明瞭。		[0]	Ш								4		1					1			100		ピット					-
			###		明赤灰				ε	-	一様に酸化汚染を受ける。一部に 緑灰色化した岩片がみられる。	1 1	0 101	Н	Н	100																		١					
- 11	12. 46	11.15		<u> </u>	灰黄	185		$\perp$	δ	3	9.36~9.38m: 軟弱な粘土混じり砂 状。傾斜80 <sup>*</sup> 程度,幅10~15mm。黄色。		19	Ш	H	111				-		+		+			$\dashv$		-					_	_	_	_		-
	11. 57		×	コア欠如							●9.92~14.69m:破砕部(K断層) 9.92~10.04m:粘土混じり礫状破	Ιf	igi	#	Н	Ш																		ダブ					
— 12	11. 57	12.40	<b>X</b>	<u> </u>							砕部 (Hj)     上端76°, 下端69°。上端, 下端		0	$\sqcap$	IJ,	$\prod$																105		ルコアチ					-
_ 13			<b>X</b> ###		浅黄	橙					とも比較的明瞭。上端は直線状を なし、下端側は湾曲する。明赤灰		[0]	Ш	N	Ш																		チ ユ ー					
"			<b>X</b> +++		灰				8		色を呈する。幅4~5cm程度。 10.04~10.50m:粘土・礫混じり砂	b   [	0	Ш	Щ																3/4		86	7/	2,0	100	0.1	泥水	1
<b>—</b> 14			<b>X</b> ###	X	首						状破砕部 (Hb) 上端69°, 下端86°灰赤色の細脈	11		Н	Н	Ш				-		+		+			_		-					ダイヤ				1	-
			<b>X</b> ;‡‡	花崗		L E	g VI.	g d	g L	3	がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさ	t	[0]	₩	$\mathbb{H}$	(100).	D'															70		<b>フ/ダイヤモンドビ</b>					ĺ
— 15			X+++ +++ ++++ X++++ X++++ X++++ +++++ +++++	+ 斑岩	100	16			°  r		り礫)がみられる。明赤灰色を呈 する。幅10cm程度。	<b>∣</b> k	4	H	H	$\parallel$				1		+		+			$\dashv$		1			"		ドピッ					-
16			####	‡	英権				L	4	10.50~10.50m: (細)砂混じり粘 土状破砕部 (Hc-2) 傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。	1 1	[0]			(100)-	`																	ツ ト #オ#					
'°			####	‡	褐灰浅	1			δ		傾斜80 。ほぼ直線状に連続する。 にぶい黄色を呈する。幅6~7mm程 度		0	Щ	Ш		.														3/5	95	86	コアデブインヤドビッ	2,0	100	0.1	泥水	1
	8, 32	17.00	<del> </del>	‡	黄	+	+	+	+	+	月。 10.50~10.66m: 碟質粘土状破砕部 (Hb)	В	[0]	Ш	Ш	Щ		+	$\vdash$	Ш									$\perp$					FE'y		_	_	1	<u> </u>
											上端86°,下端72°(不明瞭)。 灰赤色の細粒分からなる細脈を伴																												
											う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度	₹																											
1											。 10.66~14.69m:粘土混じり礫状破 砕部 (Hj)	#																											
											上端72°(不規則),下端69°( ほぼ直線をなす)。不規則に灰白																												
											色の粘土脈を伴い、原岩の組織が 一部不明瞭となる。数条のせん断																												
											面を伴う。灰黄褐色、浅黄橙~灰 白色を呈する。幅1.30~1.40m程度																												
											(推定)。 11.15~12.40m:コア流出																												
											13.93~14.00m: せん断面(粘土 礫混じり砂状破砕部(Hb)相当)																												
											上端55°, 下端54°。せん断面と 調和的に灰白色粘土脈が連続する。																												ĺ
											幅40mm程度。 14.12m:せん断面																												
											傾斜41°で、シャープであるが湾 曲する。上端側に灰白色粘土に富																												
											む部分がみられる。 14.67m: せん断面																												
											傾斜69°。せん断面に幅2~3mmの 灰赤色粘土がみられる。上下端に																												
											は灰白色粘土が不規則にみられる。 14.69~17.00m: 原岩組織は残留す	-																											
$ldsymbol{le}}}}}}}}}$				$\perp$		$\perp$	$\perp$	$\perp$			るが、一部粘土化し不明瞭となる。																												<u></u>



H27-F-5

F-5 (1/2)

# ボーリング柱状図

ボーリングNo.						1
	l					' '

事業	工事名

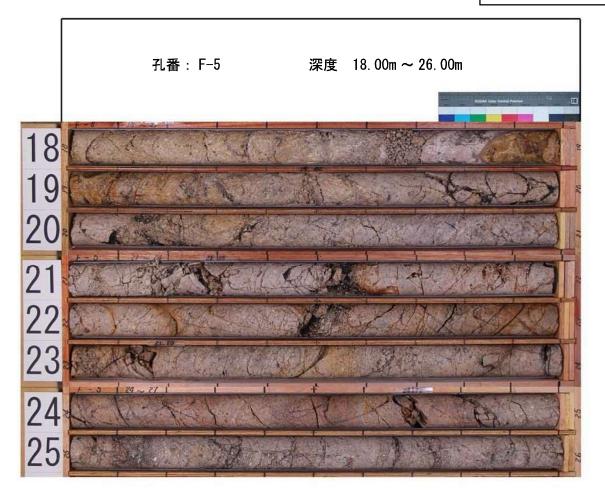
ボーリング名	F-5 調査	查位置 X:390.450, Y:110	1. 190	北 緯 35°45′20.34″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	調査	期間 2015 年 5月20日~ 2015 年 5月30日	東 経 136°1′3.07″
調査業者名	主任	五技師 現代 理	場 コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者
孔口標高	19.84 m 角 上 5	\ <sub>90°</sub> │盤 │ 水平 <sub>0°</sub> │用 │試 釺	機	
総掘削長	26.00 m 度 下 <sub>0°</sub> 向 西 180° 南		プン ポンプ	
		コマ極重を	(煙准質入) 計能会	

標	標	深	柱	岩	色		F <sub>0</sub> ,	Ι	40.0°	Т	記	0.0		ア採取率	#	孔		(		標準貫入	)	試験	」原	室	掘	掘	71.	_	給		送	送	扫
尺	高	度	状	種区			ア形	れ目の状			"		最 R	★ (%) 大コア長 → cm Q D 【%]	級	内水位ⓒ/測定月	<ul><li>( N )值</li></ul>	(		N値~深度		) 図		内	進月	進速度(四/吐	径∭/孔壁保	アチューブ/ビ		L 転数(rpm	水圧	水	水量
(m)	(m)	(m)	<b>図</b>	分	調に	軟	状		化	質	0.00~2.30m:埋土である。	+	Ϋ́	50 100	分	日		0	10	20 3	0	40 5	50	・一颗・	日	- C	H.SC	_	)	~	~	) +e#	
- 1				埋土	にぶい黄褐						0.00~1.60mは、粗粒砂、礫混じり 砂からなり、1.60~2.30mは、砕石 、礫混じり砂、砂礫からなる。			(100)-4												0	0/試掘	<b>試掘/試掘</b>	0,0	0	0.0	10 (不明含む) ロ	0
<b>–</b> 2	18, 08	2,30	0000	機深に	にぶい 黄檀						2,30~7,64m:上部は砂質土,下部は	-		100-4											5/2	257							
	17, 42 17, 27 17, 10 16, 96	3.58	<del></del>	弾湿じ りか シルト シルト	にぶい 権 にぶい 黄祖 にぶい 黄檀 灰白						砂礫主体の第四系である。 2.30~3.16m: 礫混じり砂である。 3.00~3.16mは埋土の崩落土砂である。 3.16~3.36m: シルトである。	,    -		(100)-												257	10/ケーシング						
- 4 - 5	16. 71	4.08	0.000	和少	(灰白) (炭塩) 黄檀						下端境界の傾斜は40°で、よく締まる。 3.36~3.58m: 礫混じり砂である。 径2~5mmの石英粒と長石粒を礫率2	1 +		(100)-4												239	1						
<b>–</b> 6	15. 09	6.20	0.000 0.000 0.000	礫	48						0%で含む粗粒砂からなる。 3.58~3.76m:シルトである。		$\frac{1}{1}$	(100)-4											5/2		F	4					
- 7	14, 58 14, 58 14, 39	6.48 6.87 7.12		が見り	明オリーブ灰	4					中粒砂からなる。 4.08~6.20m:砂礫である。 径5~140mmの硬質~半クサリ礫化 した花崗斑岩の亜角礫からなり、			(100)-4												240		ダブルコアチ					
- 8	10. 55	7.04	9 : 9 : 9 +		明養福にぶい黄橙	Eg Dg	VIg IV g	CE		3	<ul><li></li></ul>	Ì	2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	100-4												180		ューブ/ダイヤモンドビ	10.0	200	0.2	泥水2	1
<b>—</b> 9			+		灰白	Cg	1	bg	r		径2~3mmの石英粒を10~20%含む。 下端境界の傾斜は40°である。 6.87~7.12m:砂質シルトである。 下端境界の傾斜は40°である。		5	(100)	Ľ												86	ヤモンドビ					
— 10 — 11			 	#	にぶい	Dg	Vg	cg	δ	2	崗斑岩の亜角~角礫が主体となる。 礫率は30~60%で下位ほど礫率は大		3 [0]	(100)-4											5/2	172	記水	ット					
— 12				花崗斑岩	い黄橙明黄褐		IV g	dg cg	1		きくなる。基質は粗粒砂からなる。 7.64~26.00m: 花崗斑岩である。 10.87~20.57mは風化、変質、破砕で軟化が著しい。これ以外は岩片	1 1	2 [0]	(100)-4											3/2	160							
— 13			++++ ++++ +++++ +++++		褐灰黄褐	Eg			ε	3	破砕部 (Hj)		(0) 1	(100)-4	) <sup>,</sup>																		
— 14			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		明		IVg	dg			上端30°で直線的で、下端55°で 直線的に連続。径5~10mmの花崗斑 岩軟化岩片と岩片間の粘土~粘土 脈からなる。にぶい褐色を呈する。 幅1~4cm。	# [	[ <b>0</b> ]	(100)-4												218							
			<u> </u>		黄褐灰黄	┝			δ		11.05~11.07m: 粘土状破砕部 (Hc -1) 上下端とも55°直線的に連続。径2 ~5mmの花崗斑岩半クサリ礫を約10	2	[0]												5/2	5 98							
											~5mmの化圏班岩キグザリ線を約10 %含む。灰褐色を呈する。幅5~10 mm。 11.07~11.10m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																						
											上端55*, 下端47*で直線的である が不連続。径5~10mmの花崗斑岩岩 片を約30%含む。 灰白~にぶい黄橙色を呈する。幅2																						
											5~3cm。 11.10~11.63m:粘土混じり岩片状 破砕部(Hj) 上端47,下端25で直線的に連続。	ŧ																					
											径3~5mmの花崗斑岩岩片主体で、 岩片間を細かい白色粘土脈が網状 に分布する。にぶい黄橙色を呈す る。																						

F-5 (2/2)

標	標	深	柱	岩	色	硬	п	割れ	風	変	Si			-	-	<b>文率</b> (%)	'	Ħ	孔内	_	_	(	(		標準質 N値	度	)	試験)区	]	原位	室	掘	掘進		コアチ	給				排
尺	高	度	状	種区			ア 形	目の状					最: R	-	⊷ Q	P長 cm D [%]	7 [2	汲 区	水位 E/測定		N )								- 1	験	内試	進月	速度(55/	(mm)		ŔŊ	数(			
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	0			50	10	3	分	定月日	1	直	0		10	20	30		40	50	戦荷	験	日	時)	護	1	MPa	_	J	分   ``	
- 16 - 17 - 18 - 19 - 20 - 21 - 22 - 23 - 24 - 25	<b>-</b> 0. 08			花崗斑岩	灰 灰 炭 浅黄 灰黄褐浅黄 明褐灰 にぶい橙 明褐灰	Eg Dg Eg Cg Dg Dg Dg Dg Dg	Vg Vg Vg Vg	cg dg cg	δ	3 4 3 4 3 3	●16.82~16.96m: 破砕部 破砕幅は13.4cmである。16.82~16.95m: 練質粘土状破砕部 (旧・6.92~16.95m: 練質粘土状破砕部 (光黄色の飲質な埋地熱からなる。上端境界の傾斜は45°である。16.95~16.95m・18土状破砕部 (ル・1) 黄褐色を呈する。軟質な粘土状部からなり。 帽は3~15mmである。上端境界の傾斜は33°である。618.71~18.95m: 練房 (D-1破砕帯) 破砕幅は19.2cmである。18.84~18.85m: 練混じり粘土状破砕部 (旧・5ぶい橙色のやや軟質な硬質粘土状を与る。上端境界の傾斜は45°である。18.84~18.45m: 練混じり粘土状を与する。上端境界の傾斜は45°である。18.84~18.45m: #推混じり粘土状态ある。18.85~18.95m: #推混じり掛土状态ある。18.85~18.95m: ************************************	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	>)			(166 (166 (166 (166 (166 (166 (166 (166	))	), ,														5/28	98 100 95 132 1111 44 105 78	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	10.0	200	0.2	泥水2	
											アが主体となる。傾斜10〜30°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂を 挟む。 25.12〜25.38m:割れ目沿いに砂状 を呈する。																													





H-13 ( 1 / 1 )

## ボーリング柱状図

調査名

ポーリングNo. 1

車業		丁重夕
- 果 - 果	-	<b>上</b> 章 右

ボーリング名	H–13	調査位置 X:391.397 , Y:	1103.630		北緯	35° 45' 20. 34"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 5月23日~ 2013 年 5月29日	東 経	136° 1′ 3.11″
調査業者名	±	主任技師	現 場代理人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	19.87 m 角 上 5 北	90°   盤   水平 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	20.00 m 度 下 <sub>0°</sub> 向 西 180°	東 勾 鉛	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱		岩	色	硬	١,	宝	I E	迹	記		⊐	ア扌	采取	平	岩		孔			(		棏	準	入		)	試	<del></del>	原	室	拼	1 据	孔		給	回	送	送	排
175	177	^*	111		^-		灰	-	「れ		7				-	- (	(%)			内		T	(			N値	~深	度		)	図	一位	*	14	迫			.   ^1		l' -		
					種			ア						最	大:	コア		級		水   位												位置試	内	ď			기고	.	単云	水	水	水
尺	高	度	状											_	-0	_	cm			(m	N	ı										験			度	孔	ال	圧	数	圧	量	量
					区			形	。   仮   状					R		_ [	D	区		測完												(孔内水平)	試	, <b> </b> F	i cr	ì壁	1/	( kN	^	^	l C	Ĺ/
l , ,	١, ,	١, .	. जि		$_{\perp} $	<b>=</b> ⊞	軟	44			. 66	   				_ '		分		定月	値	i										平載	E-全	E		保護	リツ	MD.	rpm	MPa	分	分分
(m)	(m)	-	-		分	調産オリ	耿	1/	、思	10	, ,		Ш	0		50		00		H		q		10	0	20	)	30		40	5	載荷	一颗	<u> </u> -	1	$\perp$	_		\ <u></u>	_	$\sim$	$\sim$
	19. 5			O 18	選じ	浅黄						0.00~0.40m:埋土(砕石) 0.40~6.00m:礫・シルト質砂及び砂	┨ .	+	$^{+}$	$^{+}$	(10																			140/ ケーシ ング						
- 1	18. 7	1.3	1	/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ルト じり 砂	にぶい 黄橙						礫(2層) 0.40~0.59m:礫混じり粗砂	lŀ	H	H	H		Н						+		-				-		1					ルコアチ					-
١ .	18. 14	4 2.0	00000	. 1	混じ り砂	灰黄						径2~4mmの石英主体の細礫が混じる。		Ħ	Ħ	$\dagger \dagger$	100	1																	20	0						
	17. 7			/ 1清	ルト じめ	にぶい 黄檀						0.59~1.31m:シルト混じり中砂 層状~レンズ状を呈し、一部互層。		П																				5/	23	101	12	0.1	180	0.2	泥水3	3
_ 3			10	- 24	シート質	黄 灰						1.31~2.00m: 礫混じり中砂 全体に石英主体の細礫が混じる。		Ш	Щ	Щ	II.	Ï		<del>∇ 2.1</del> 5/3	Q.			_						_						ケーシ	ダイヤ				3	-
	16. 8	4 3.5		ر م ا م	-							2.00~2.40m:シルト混じり粗砂 上部は締まりが良いが、下部ほどル 一ズになる。	1	+	$^{+}$	$^{+}$	40	1																		٦ آ	キン					
- 4			969	; o	砂礫	明黄褐						2.40~3.50m: 碟 シルト質砂 砂は中~粗砂からなり、シルトと		+	$\dagger$	$^{\dagger}$	$^{\dagger}$	Н						+		+				+		1			19	0	ダイヤモンドビット					-
	15. 6	4.9	9.0	٥٧	P.A.	灰黄						細礫を含む。 3,50~4,93m:砂礫		$\dagger \dagger$	$\dagger$	$\dagger\dagger$	10	Ħ																L	$\downarrow$	L.	╬					L
Γΰ			۰,۰۰		湿じり砂							礫は石英粒,径20~100mmの花崗斑岩主体。礫率40~50%。基質は粗砂。		$\parallel$			(10																							0.2	泥水3	3
L 6	14.8 14.6	4 5.8 7 6.0	00.0	<u>\$</u>	沙碟	黄油			$\perp$	-	-	4.93~5.81m: 礫混じり砂 中~粗砂で全体に細礫が混じる。		4	$\parallel$	$\parallel$	$\coprod$	$\vdash$	1					4		_						-								J*. 2	3	
			+++	‡‡		浅黄	Eg	VIε	dg			5.81~6.00m:砂礫 径100mm以下の石英と花崗斑岩礫か		[0]	$^{+}$	$^{+}$	0	D'																	17	)	3					Г
<b>├</b> 7			+++	++		明褐	Dg Eg		G Cg			<u>らなる。</u> 6.00~20.00m: 花崗斑岩(Gp)	1	2	Ħ	H	H	Har.		<u>V 7.</u>	5			+								1					ダブルコアチ					-
L 8			+++	++		炭			cg Cg			6.00~8.89m:風化し,部分的に割 れ目が不明瞭となる。	П	[0]	Ħ	Ħ	100	Ju.																		4						
Γ°			‡‡‡	++	Ī	匹			dg			●8.89~9.80m:破砕部(K断層) 8.89~8.92m:礫混じり粘土状破	H	1	П	П			1															5/	.	86	l i	0.1	180			7
L 9			<b>X</b> ++	#	-		Dg	V	Cg	8	3	砕部 (Hc-2) 上端55°, 下端55°で、上端はや や波打って、下端はほぼ直線的に	H	[0]	#	#	H	Н						_		_				_		-		5/			31		100		泥	-
			<b>X</b> ++			にぶい 黄橙						シャープに連続。径1~5mm石英粒, Φ5~10mm亜角礫~長さ10~20mm,	Iŀ	0 [ <b>0</b> ]	₩	₩	0	D.																	16	)	/ダイヤモンドビット			0.4	泥水3	3
— 10			1+1	+ †		にぶ	Eg	VIε	dg			幅2~3mmの偏平礫を含む。礫は粘 土化することが多い。また、上端	╽╽	1	Ħ	$^{\dagger\dagger}$	Ħ	Ηľ						$\dashv$		$\dashv$		+		+		1					14					-
L 11			+++	‡‡		い帯						に幅0.5~1mmのやや締ったにぶい 権色の粘土脈が分布する。にぶい	П	[0]	Ħ	Ħ	100																			4	1					
Γ"			+++	‡‡	-		Dg Eg	VIE	CE	Ŧ		赤褐色を呈する。幅20~25mm。 8.92~9.80m:粘土混じり岩片状		3		П	4.		_																17							7
_ 12			+++	++		にぶい 黄橙	Dg	V.	cg	-	2	→ 破砕部 (Hj) 上端55°, 下端60°で, 上端はほ		[0]	4	$\coprod$	1	CL,						4		_						-			''	Ί						-
			‡‡‡	++	遊		Eg	VII.	de			ぼ直線的でシャープに、下端はや や不明瞭に連続。径5~80mmの粘土		[0]	$^{+}$	$^{+}$	-00																	H		$\top$	T					T
— 13			+++	‡‡	花崗斑	_			'			化~砂状化した花崗斑岩岩片間を 縫うように幅1~3mmの白色の軟弱	П	2	H	$^{\dagger\dagger}$	$^{+}$	H,						+		$\dashv$		+				1			17	o						-
_ 14			+++	++	岩	灰黄褐	Dg			1		粘土脈が網状に分布する。にぶい 黄橙色を呈する。	П	[0]	Ħ	Ħ	100	1																		4	١.,					
Γ ' <sup>4</sup>			‡++	++		槆	Eg	L	_	4		9.80~11.41m: 軟化著しく、概ね 径5~20mmに岩片化し、岩片間を砂	П	1	П	П																					ダブル			0.4	泥水3	3
<b>—</b> 15			+++	‡			Dg		cg dg			状化~粘土化した基質が充填する。 11.41~12.24m: 互いに交差する傾	╽╽	[0]	$\parallel$	$^{+}$	+	Н.						$\dashv$		-		_		_		-					ダブルコアチ				3	-
			+++	+	İ	灰褐	Dg					斜50~70°の割れ目主体。割れ目沿 いに砂状化がみられる。 12,24~14,52m:径5~20mmの岩片		[0]	$^{+}$	$^{+}$	0	CL.																	12	اد						
— 16			+++	+ +	}				-	<b>∤</b> δ	3	と粗砂状の基質からなる。一部で 角礫状を呈する。	П	2	Ħ	Ħ	Ħ.	⊩	1					$\dashv$		$\exists$						1		5/	25	86	1 1 1 1	0.1	180			-
L 17			₽ ‡	¥		にぶい	Eg	1	dg	4		15.06~15.34m: 割れ目が密集し角 碟状~土砂状を呈する。マンガン	П	[0]				D.																		4	イヤモ					<u> </u>
"			T+T.	∔⊺I		黄褐	Eg	ļ				汚染を受ける。 15.34~16.60m:部分的に土砂状を			Щ	Щ	100	$\perp$	1																		ユーブ/ダイヤモンドビット			0.4	泥水4	3
<b>—</b> 18			+ <u> </u> +  +  +  +  +  +  +  +  +  +  +  +  +	† † † †	İ	灰						呈する。 ●16.60~16.86m:破砕部(D-1破砕		(Y)	$^{+}$	$^{+}$	+	Н						+		$\dashv$		+		+		-			13		1 7			'	4	-
			+ + +	‡‡		褐	Dg	Vε	cg			帯) 16.60~16.73m:粘土混じり礫状破	1 1	01	$^{+}$	$^{+}$	100	CL.		V 18 = 5/3	o 5														13	Ί					::	
— 19			+++	‡‡	ļ	褐灰灰黄褐	L	-				砕部 (Hj) 上端36°で波打つ, 下端60°で直線的	H	6	Ħ	$\dagger \dagger$	1	H						$\dashv$						$\dagger$		1								0.3	泥水4	3-
	2. 5	5 20.0	00 ###	+ ‡		黄褐	Cg		$\perp$			。 16.73~16.84m:礫質粘土状破砕部	Ц	[0]			100																	5/	26 120	0 86	97) 27:	ル チ 0.1	180	0.3	泥水	_
												(Hb) 下端不明瞭。幅50mm。径10mm以下																									ユダモビ	7			1	
												の石英や粘土化した岩片を含む。 16.84~16.86m: 砂混じり粘土状破																									ĿĒ	1				
												砕部(Hc−2) 下端70°で直線的。幅15~17mm。径																														
												1mm以下の石英を含む。 17.73~17.85m:緑灰色に変質し、 微細な金属鉱物が晶出する。																														
												(収細な並属監例が曲出する。 17.85~18.72m:割れ目が密集し、 一部角礫状を呈する。																														
		1						L				即用味仏で至りる。	1																										1	1		1





H27-G-1

G-1 (1/1)

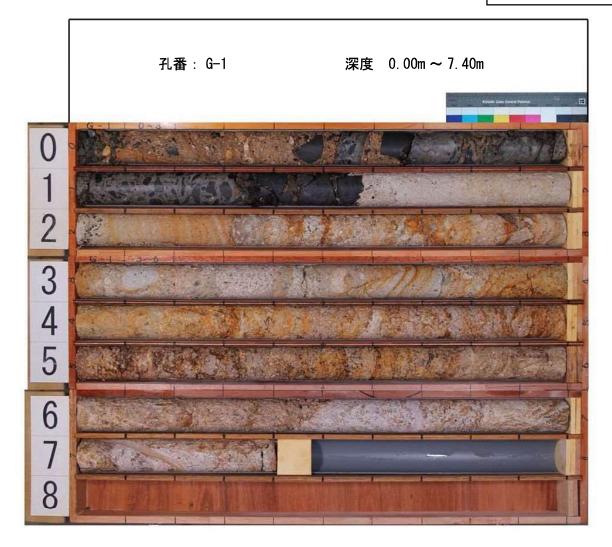
## ボーリング柱状図

|--|

事業	工事名

					_	手未		L÷	事名																									
ボー	-リン	グ名		G-	-1						調査位	置	X393. 7	71,	Y :	1102	. 728									٦t		緯		35°	45'	20. 36	3"	
発	注 機	. 関	日本	▼原-	子力	発	電棋	たオ	会社	±						調音	<b>を期間</b>		2015	年 :	7月1	14日~ 2	.015 £	∓ 7月:	30 日	東		経	1	136°	1' 3.	21"		
調 1	* 業 :	者名									主任技	師				現代	場 理 人					コ ア 鑑 定 者				ボク	責任	リン日者						
孔	口標	高	19	9.61 m	角	1	180°	\	90°	方	270° 11 0° 90°	地盤	水3	F 0°	使用		錐機							ハンマ落下月	7 <b>一</b> 月具									
総	掘削	<b>月</b>		7.40 n	n 度	Ŧ	- 。 ፟	ナ	0. 0°	向	西 180 南 0.0	勾配	直 200	<u>ァ</u> 。	機	I.	ノジン							ポン	プ									
								_		_				_					_								_					_	_	_
標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割	風	変	āč				コア技	采取率	岩	子内	. L	(		標準貫入		)試験		室	掘	掘	孔	_   f	給回	」送	送	排
尺	高	度	状	種			ア	れ 目							最大□	( 10	級	内 化 (n)		(		N値~深	度	) 図	—— 原位置診験	[2] 計 計 大 大 大		進速度	径 (mm) /	アーチーユー		水	水	水
			- 1	区			形	の状							R C		쯔	月月元							7 0	計	月	cm	TLI		Ñ /		L	Ĺ
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	1 1		化		#				0 5	50	, 分	<b>測定月</b>	値	0	10	20	30	40	(子グガ平電布)	頻験	В	時	壁保護	F Im	Pa rp	¶ MPa	分	分
				1	におい	_		П		0.	00~1.58m: 埋土	きある		ΙТ	$\Pi$	ПΠ													400					1

1示	1示	休	仕	🗖	=	"	-	١.	1	2	āC			-	- (	%)	石	'	内	راا	$\Box$	(		Ν	値~	深度		)	図	位		17/2	進	径	アチ	140			ᅜ		
				種			ア	h	1				最	大	コア	'長	級	į	水											置試	内	進	1		チュ		転	水	水	小	
尺	高	度	状					目	1				_	-	_	cm			(m	1 (	N									験			度		亅	圧	数	圧	量	<b>=</b>	t
				区			形	の  状	1				R		J G	D %]	区		測定											八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八	試	月	Cili		ビ	kN	^	^	Ĺ	Ĺ	
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	壮	1	化	晳	事			٠	_ `		分		測定月日	fi	直									水平載荷)	麻	B	時	保護	ーツ	MPa	rpm	MPa	分	分	
(11)	(11)	(11)		<u> </u> "		<u>  ~~</u>	Ľ	<u> </u>	1,0	_	7 0.00~1.58m:埋土である。	Н	<u>,                                    </u>		50 	10	0	-	╀	+	+	0	10	)	20	3	0	40	5	0 苞	3^	F	$\vdash$	+	Ļ.	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	<u>                                     </u>	1	4
			//	埋	黄褐	1					砕石、礫混じり粗粒砂、コンクリ ートからなる。	╽┟	Н	+	$^{+}$	(100	+																	100							
1	18. 03	1 50		±	褐灰							╽┟	Ħ		Ħ								1										120	ケーシング	J.						1
L 2		1,00		嫌混じ	灰白						1.58~3.78m:シルト混じり砂礫主体 の第四系である。	1 [			П	100	1																	グ	ダブル						1
	17. 30	2.31		卜質核	明黄褐	1					1.58~2.31m: 礫混じりシルト質砂である。		$\mathbb{H}$	Н	$^{+}$	400	+																150		コアチ						
— 3			0,000	砂碟							径2~20mmの半クサリ礫化した花崗 斑岩の角礫を10%含む細~中粒砂か	╽┟	Н	+	$^{+}$	$^{++}$	1						+					+				7/2			큣				泥		┨
L	15, 83	3,78	9000								らなる。 2.05~2.31m:幅10mmの風化縞状部		0	$\parallel$	$\dagger \dagger$	100	1	4																1	3	10.0	200	0.0	泥水ー	1	
F 4			<u></u>		浅黄				ε		である。 2.31~3.78m:シルト混じり砂礫であ		[Ø] 1		П	400																	138	1/	ヤモ						1
_ 5			#####	花	橙		VIg			2	る。 径2~180mmの半クサリ礫化した花 歯斑岩、アプライトからなり、礫		[0]		Н		D'								+					-				泥水	ンドビ						4
			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	崗斑		Eg		dg			■ 本は40%である。下端側ほど礫は大型化する。基質は細~粗粒砂で全		2 [0]	$^{+}$	$^{+}$	(100	-																138		ット						
- 6			+1+1+	- 7					δ		体に不均質である。 2.96~3.02m:シルト混じり砂から		1	$^{\dagger}$	Ħ	Ш	H	1					1					+													1
L,					巫		IVg	1		3	<u>なる。</u> 3.78~7.40m: 花崗斑岩である。		[ <b>0</b> ]	П	Ħ	100	1															7/2	180								
<u> </u>	12. 21	7.40	₽į÷įĘ		白	$\vdash$	75 115 275 715	1	+	┝	風化で著しく軟化する。割れ目は 不明瞭なものが多い。	H	Ш		Ш	(100	+	-	-	+										+		╀	$\vdash$	+	-	$\vdash$		-	+	+	┨
											5.80m以深は幅1~2mmの軟質な灰白 色の粘土脈が分布する。																														
											●6.48~7.24m:破砕部 6.48~7.06m:粘土混じり礫状破																														
											砕部 (Hj)   上端52°で波打って、下端58°   で直線的に連続する。径5~10mm																														
											の粘土化した岩片と岩片間の脈 状粘土化部からなる。色調は上																														
											端側が明褐灰色。6.70m以深が風 化でにぶい黄橙色を呈する。																														
											7.06~7.14m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																														
											上端58', 下端72'でいずれも直 線的に連続する。上端は幅1~2m																														
											mで明赤灰〜褐色の軟質なほぼ直 線的な粘土脈。全体に粘土化著																														
											しく径10mm前後の外形不明瞭な 岩片を20~30%含む。灰白色を																														
											呈し、径5~20mmのまだら模様状 に明赤灰色を含む。幅20~50mm。																														
											7.14~7.17m:粘土状破砕部(Hc -1) 上下端と72°で概ね直線的に連続																														
											エト端と/2 で概ね直線的に連続 。径0.5~1mmの石英粒を10%程 度含む。にぶい黄橙色を呈し、																														
											上端の幅3~6mmは風化で淡褐色 化したにぶい黄橙色を呈する。																														
											幅10~15mm。 7.17~7.24m: 粘土混じり礫状破																														
											砕部 (Hj) 上端72°で、下端70°でいずれも																														
											直線的に連続。下端はやや不明 瞭。径3~5mm程度に細かく破砕																														
											された岩片と岩片間に薄く付着 した粘土からなる。粘土との境																														
											界には2次せん断面と思われる細 かい割れ目が多い。灰白色を呈																														
						L				_	する。幅15~20mm。	Ш					1_		1												_		1_		_		1	_	_		┛



H27-G-2

G-2 (1/1)

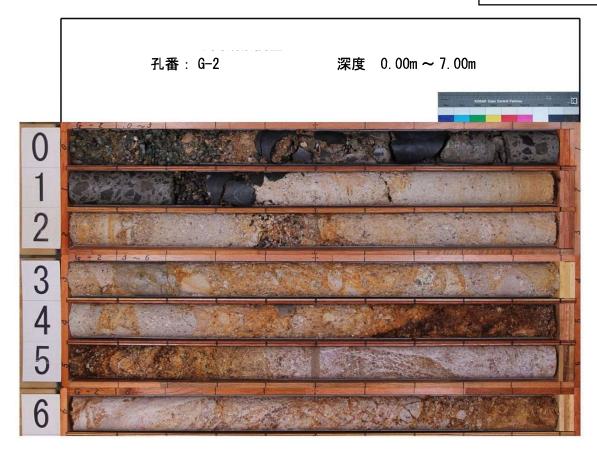
# ボーリング柱状図

ボーリングNo.						1	

車業		丁重夕
<b>**</b>	•	工事有

ボーリング名	G-2 調査位置 X:393.771, Y	': 1102 <b>.</b> 22	8	北 緯 35°45′20.35″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2015 年 7月25日~ 2015 年 7月27日	東 経 136°1′3.22″
調査業者名	主任技師	現 場代理人	コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者
孔口標高	19.40 m 角 180° 方 北 0° 地		ハンマー 落下用具	
総掘削長	7.00 m 度 下。	エンジン	ポンプ	
標 標 深		采取率 岩	孔     ( 標準貫入 ) 試験       内     へ ( N値~深度 ) 図       水     位置	室掘掘和ココ給回送送排

標	桿		深	柱	岩	#	聶	Г	宝	風	亦	記		П	ア打	采取	率	岩	孔		(			標準買	入		)試験		原	安	坦	#	7L	П	給	П	送	÷	±#
175	12	T .	沐	111	🗖	-	"	-	1.		2	- BL			-	- (	%)	7	内		$\Box$	(		N値	~深度		) 図		位	*	7/44	進		1ア		121	^_	^_	191
					種			7	h	1				最	大 =	コア	長	級	水位										置試	内	維	1		ーナ		転	水	水	水
一尺	層	<u>.</u>	度	状	11			ľ	目						-0-	-	cm	111/2	(m)	N									験	PS		度		J		数	圧	量	量
^`	'-	"	/_		区			形	(D)	4				R		3	D	区	測										Â.	試	月	cm	孔	1 /	-	_	_	_	_
									状	:					٦	_ [	%]		測定月	_	4								内水			1/	一定	Ľ		rpm	MPa	レノ分	닐
(m)	(n	n)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事						分	日日	値	i								(孔内水平載荷)	験	日	時	護	ット	MPa	Ü		分	分
	+	+					$\vdash$	-	+	$\vdash$		0.00~1.38m:埋土である。	H	n	ш	50 	100	-		$\vdash$	10		10	20		30	40	50	<u>P</u>		_	$\vdash$	100	$\vdash$	F	F			
					埋土	褐						砕石、礫混じり粗粒砂、コンクリ 一トからなる。	lŀ	Н	++	Н	(100)														7/25	180	1/2						
T	18.	. 02	1.38		_	灰								Н	H	Н	Ш																シング						-
				///see .	機混じ	灰白						1.38~4.78m:シルト混じり砂礫主体 の第四系である。	lt	Н	H	Ш	(100)	٠														80	ŕ	ダブ					
		. 02	2.38		機混じ り質砂	明章 灰白						1.38~2.38m: 礫混じりシルト質砂である。		П		П	Ш																4	ルコアチ					
				0.66.9	レン	浅黄橙						径2~20mmの硬質な花崗斑岩、アプライトの角礫と径2~4mmの石英粒		П			100	١																チュ					
Γ	'			9,000	追	にぶ	1					を礫率10%含む細~中粒砂からなる				П																136	1	ューブ	10.0	200	0.2	泥水	
	,			00000	ľ	l L						。一部風化し明黄褐色化している。 2.38~4.78m:シルト混じり砂礫であ		Ш	Ш	Ш	Ш									1					7/27	L	86	3 1		200	"."	î	
		62	4 70	% ,		黄橙						る。 径2~120mmの半クサリ礫化した花		Ш		Ш	(100)	.														109	泥水	ダイヤモンドビ					
ء ط				† <b>+</b> †+†		浅黄橙	T		t	ε	2	- 崗斑岩、アプライトの亜角〜角礫 が主体となり、礫率は40%である。	ľ	9	Ш	Ш	Ш						+			-		_					<b>↓</b> ‴	F					-
				81.+18	蓝	校	┨				3	基質は細~粗粒砂からなる。全体 に不均質、淘汰不良である。締ま	╽┟	1 6	Н	Н	(100)																	ット					
- e	3			++++++ +++++++++++++++++++++++++++++++	花崗斑岩	灰白	Eg	VIg	dg	δ	4	る。 3.30~3.70m: 褐色化が顕著である	╽╏	2	Н		Н	D'					+			-						150							-
	,,		7.00	#1+## +1+##	石	褐灰					2			(0)	++	Н	(100)	٠																					
	12.	. 40	7.00	17171		-	$\vdash$		t	ε		軟質で割れ目は不明瞭なものが多 い。	H	ш	ш	Ш	ш											+				╁	+	$\vdash$					
												●5.40~6.40m:破砕部 5.40~6.07m:粘土 砂混じり礫																											
												状破砕部 (Hj)																											
												上端25°で大きく波打って連続。 上端に幅2mmの灰赤色のやや硬質																											
												の粘土を伴なう。下端は風化褐 色化した65割れ目でやや波打っ																											
												て連続。径10mm前後の粘土化~ 砂状化した岩片からなり岩片の																											
												外形は不明瞭なものが多い。明 褐灰色を呈し、灰白色~灰赤色																											
												粘土部を斑点状~脈状に伴う。 5.49~5.51m:ほぼ水平のにぶい																											
												褐色の細粒部 (スライム) 6.07~6.15m: 礫質粘土状破砕部																											
1												(Hb)																											
1												上端65°で波打って,下端70°で直線的に連続。径5~10㎜の粘土化																											
												した岩片を20~30%含む。礫の 外形は不明瞭。6.07~6.10mまで																											
												灰白色, 6.10~6.15mまで灰赤色 を呈する。幅5cm。																											
												6.15~6.17m:粘土状破砕部(Hc -1)																											
1												上下端とも70°で直線的に連続。 径1mm以下の石英粒を10%以下で																											
1												含む。灰白色を呈し、ややオリ																											
1												ーブ色を帯びる。上端の一部に 幅1~3mmの赤灰色部を伴う。幅6																											
1												~10mm。 6.17~6.40m:砂混じり岩片状破																											
1												砕部 (Hj) 上端70°で直線的に、下端58°で																											
1												直線的に連続。径5mmの砂状化岩 片からなり一部少量ながら粘土																											
1												化を伴う。灰黄色を呈する。幅7 cm。6.17~6.18mに灰赤色の粘土																											
												を挟む。 6.71~7.00m:風化で土砂化する。																											
Щ_								_	_	1	L	1. vom . mail: (																							1	_	_	_	ш



H24-H-7-1

H-7-1 ( 1 / 1 )

# ボーリング柱状図

車業		丁重夕
<b>**</b>	•	工事有

ボーリング名	H-7-1	調査位置 X:400.670 , Y:	1102.320		北緯	35° 45' 20. 49"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013 年 3月10日~ 2013 年 3月12日	東 経	136° 1′ 3. 44″
調査業者名		主任技師	現 場代理人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	22.97 m 角 上 方 方 : 270° /	\ 000   福   小十00   田	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	5.00 m 度 下。 向 西寸	気 覧 別 機 種	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬				al 3	記	コア採取率 岩 孔 ( 標準貫入 ) 試験 原 室 掘 掘 孔 八 ( N値~深度 ) 図 位 単 堀 搖 孔 進 径	コア	給		送	送胡
尺	高	度	状	種			ア	E	1			最大コア長   級   位   位	<u></u>	圧	数	圧	
(m)	(m)	(m)	図	区分	調	軟	形状	<b>*</b>  \*	ŧ	t j	<b>事</b>	R Q D 区	/ビット	kN MPa	rpm	MPa	(L/分)
— 1 — 2		7 2.00		シルト							2mまでノンコア 2.00~3.06m:シルト質砂礫 環は径2~6mmの石英主体。所々に 酸化鉄が付着する。	2/10 100 86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドピット	3,0	100	0.1	泥水 5
— 3 — 4	18, 33 17, 91			砂質シルトシ質	灰白						3.00~4.64m: 砂質シルト 径15mmまでのクサリ酸が点在する。 ●3.73m: せん断面(K断層) 平均練材14"。 歯は1~3mmの粘土を 挟み、10cm余りの波長でアンジュ柱 レートする。一部マンガンが1mm程 度の幅で対立がをできる。主にカンが2mm程 との性で対して3c。中のでは対した。 数ケ所あり(幅1~2cm)。 明黄褐 色を里する。 4.64~5.00m: シルト質砂 径3~4mm0石英粒を含む。	2/11 85 86	ダブア・データ グア・データ マーダモビト	3.0	100	0.1	淝水5

孔番 H-7-1 孔 深度 2.00m ~ 5.00m



H27-G-3

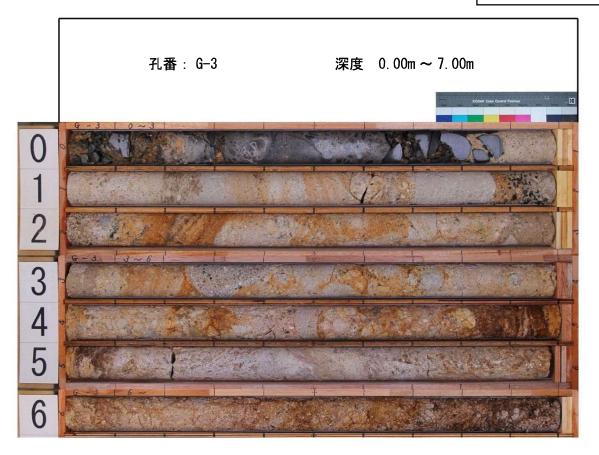
G-3 (1/1)

## ボーリング柱状図

ボーリングNo.						1
	ı					Ι.

事業	工事名

ボ・	— IJ	ン・	グ名		G	_3						調査位置 X:393	3. 7	71, Y	: 110	1.72	8									北		緯		35°	45'	20.3	34"		
発	注	機	関	日	本原	子力	J発	電	朱云	さ	社				調査	朝間	20	015	年 7月	24 E	3 ~	2015	年	7月25	В	東		経		136°	1'	3. 23	"		
調	查》	業者	名									主任技師			現代理	場人				コ鑑	定者	7				ボグ	責任	リン £ 者							
孔	П	標	高	1:	9.14	m £	1	180° E	<u></u>	90°	方	北 0° 地 270° 盤 水平	平 <sub>.0°</sub>	使用	試銷	機							/ 克	トンマ	_ 具										
総	掘	削	長		7.00	m 度	ξ.	下 <sub>0°</sub> ,	Z	0.0°	向	西東 知 記 別 記 別 記 別 記 別 の い の い の い の い の い の い の い の い の い の	プ。	機 種	ェン	ジン							7	<b>ポン</b> :	プ										
[ <u></u>	Τ,,		,,,,,,	15		Τ_	T.,			L	_	=-	П	コア採	取率			Π	(	標	準貫入		) 言	 式験	Τ		T.,_	T.,	_,		<b>//</b>		<u>, T</u>	,,,	1.4
標 	桿	景	深	柱	岩	<del>1</del> 2	(使		割れ	風	変	記			(%)	岩	1 内水		. (		N値~	深度		図	原位置	室	班	進	径	コアチ		回対転力	.	.	排水
尺	肩		度	状	種			ア	目					最大コ	ア長 cm	級	位 (m)	N							試験	内	進	速度		그		***   /. 数   E			小量
^	"	"		1/	区			形						R Q	D [%]	区	測定								(孔内水平	試	月	cm	孔壁	/	€N		٦١,	$\neg$	
(m)	(n	n)	(m)	図	分	調	軟	     状	状態	化	質	事				分	肾日	値							載	験	B	時	保護		MPa	pm MF		レ/分)	上/分)
					埋土	褐灰	t				Н	0.00~0.87m:埋土である。 砕石、礫混じり粗粒砂、コンクリ	Н	0 50	100				0 1	10	20	30	) 4	0 5	0 10				100/				+		$\exists$
$\vdash$	1 18.	. 27	0.87		機混じ	灰	1					<u>トからなる。</u> 0.87∼4.86m:シルト混じり砂礫主体 の第四系である。	1															94	29						
<b> </b>	2 17.	. 27	1, 87	0 6 6	・質的	明	+					0.87~1.87m: 礫混じりシルト質砂で ある。 径2~30mmの半クサリ礫化した花崗			1100												7/2	┢		ダブルコ					
L	3				ルル	黄褐灰黄	E.					斑岩, アブライトの角礫を礫率10% 含む細〜中粒砂からなる。 1.87~4.86m:シルト混じり砂礫であ	1 1		(100)													207		コアチューブ					
L				600	יו וי	浅黄橙						る。 径2~170mmの半クサリ礫化した花 崗斑岩、アプライトの亜角~角礫			(100)														86		10.0	200 0.	.1	泥 水 1	1
Γ		. 28	4.86	9.9.5 9.9.5	砂礫	橙						が主体となり、礫率は40%である。 基質は細~粗粒砂からなる。全体 に不均質、淘汰不良である。締ま		0	100													128	泥水	/ ダイヤモンドビット					_ ]
	5					灰白		VIg	dg	δ	3	る。 2,88~3,05m: 礫混じりシルト質砂 を呈する。		(Ø)	(100)	П											7/2	-		トピット					1
-	6			X+++ 2+++ ++++	花崗斑岩	にぶい黄橋	Eg		cg	δ	2	4.86~7.00m: 花崗斑岩である。 全体に極めて軟質である。 ●5.11~5.75m: 破砕部		2	400	D'												134							-
	12.	. 14	7.00	+		黄橙		-	***	ľ	-	5.11~5.50m: 粘土・砂混じり礫 状破砕部 (Hj)	Ц	[0]														-					-		_
												上端50°、下端45°でいずれも波 打って連続。粘土化と砂状化が 進んだ径5~10mm岩片からなるが																							
												,岩片の外形は不明瞭のものが 多い。岩片間に幅1~3mmで短い 粘土細脈を伴なう部分もある。																							
												明褐灰色を呈し、下端付近の5.4 4~5.50mは灰赤色を呈する。 5.50~5.57m:礫質粘土状破砕部																							
												(Hb) 上下端とも45°で波打って連続す る。径2~3mmの石英粒、粘土化																							
												した径5~10mm岩片を30%程度含む。灰黄色を呈し、上端の幅は1 0~20mmは風化で淡褐色化する。																							
												幅5~6cm。 5.57~5.59m:粘土状破砕部(Hc -1)																							
												上下端とも45°でやや波打って連 続する。径1mm以下の石英粒を5																							
												%程度とわずかに含む。灰白色 を呈し、上端側の一部で灰赤色 を呈する。幅8~20mm。																							
												5.59~5.64m:礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端50°, 下端52°でいずれも波																							
												打って連続。下端は幅1mmの軟質 な灰赤色粘土で下端面に条線様 の筋がある。全体に径1~2mm石																							
												英粒、粘土化した径5mm岩片を30 %程度含む。灰黄色を呈する。 幅3,5~4.5cm。																							
												************************************																							
												ト端30 で直線的に連続。を10 mm前後の岩片と岩片間の粘土からなる。灰白色を呈する。																							



H27-G-4

G-4 (1/1)

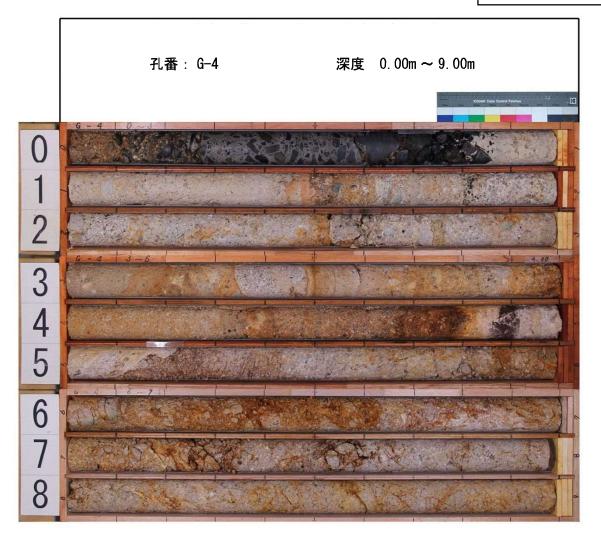
# ボーリング柱状図

|--|

事業▫	工事名
-----	-----

ボーリング名	G-4	調査位置 X:393.771, Y:	1101.22	8	北緯	35° 45' 20.32"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2015 年 7月22日~ 2015 年 7月24日	東 経	136° 1′ 3. 25″
調査業者名		主任技師	現 場代理人	コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	18.92 m 角 上 方 北 270° /	\ 90°   雖   小丁 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	9.00 m 度 下 0° 向 西 180°	T 厂 ★   勾  型 厂 厂   機	エンジン	ポンプ		
				( ) = 1,50		

標	標	深	柱	岩	色	硬		害	」風	し変	記	⊐	ア拐		(率	岩	4	孔内		(				<b>集買</b>	:入 ~深度		)	試験)図		原位	室	掘			7	給	<u> </u>	] ]	<u></u>	送	排
尺	高	度	状	種区			ア形	, σ.				最 R	 G	コ ア - Q	長 cm D	級区		水位E/測	N		,		, ,	. IIE.	- /**/34	•		<i>)</i> [2]		原位置試験(孔内		進月	度	(mm	7.17	圧	数	5 J	Ē:		
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	划態		: 質	事	0		_ [ 50	% ]	分	}	定月日	値	0		10		20		30		40	50	7水平載荷)	験	日		一位	ピット	IMD.	Irp	m MF	a :	71	ン 分 )
- 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8	18, 08 17, 41 15, 02 14, 26	3,90	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	ト混じり砂礫湿砂	変 灰 浅黄桧 灰白 灰にぶい黄橙 灰 ご黄 明黄褐灰黄褐 明褐灰	Eg	VI.			3	3.90-4.66m: 報源にりめである。 細~中難砂からなる。 4.60-9.00m: 7im 政策である。 風化により全体に検覚である。 風化により全体に検覚である。 4.92~5.14m: 練買粘土状破砕飾 (物) 上端14で幅3mmの模質の粘土が 直線的に連続、下端50~60で大	 (0) (0) (0) (0) (0)			-(100 -(100 -(100 -(100 -(100 -(100	D'																7/2:	11.	2 86/泥水	ダブルコアチューブ/ダ	10_0	20	0.	2	泥水1	1
											星し、一部灰白を全星する。 5,14~5,51m; 粘土状酸幹部(hc -1) 上端50~60 で大きく波打って、下端52 で直接的に連続。径~2 皿の石英板10%以下できた。上端面に対し、20 前後で斜文する 材和目と反対側に振りで斜文する機械制制和目が介有する。灰白 全星上、上端側ので(一一節に 赤灰色を呈する。幅3~0mm お土が続大・順目状に分布する。、7,34~9,00m; 軟質な短柱状~岩片 状コアが主体となる。																														



H24-H-9-1

H-9-1 (1/1)

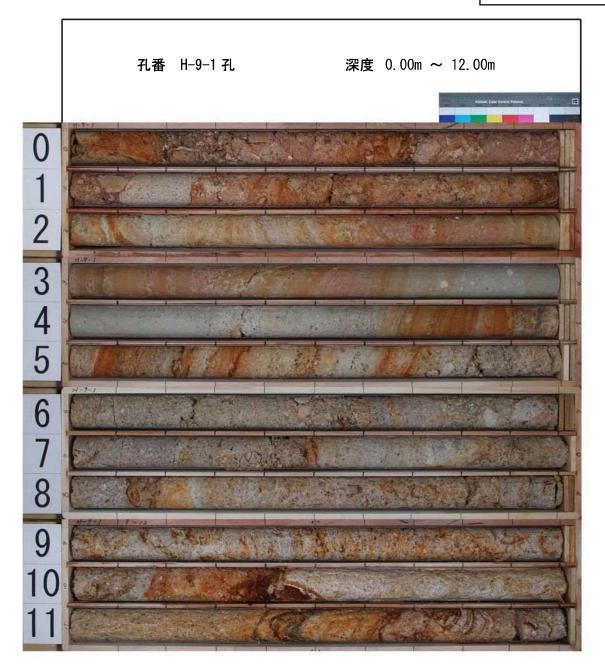
# ボーリング柱状図

ボーリングNo.						1
						1

事業	工事名

ボーリング名	H–9–1	調査位置 X:403.070 , Y:	1101. 400		北緯	35° 45' 20. 51"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間 2013 年 3月	8日~ 2013 年 3月12日	東 経	136° 1' 3. 54"
調査業者名	:	主任技師	現 場代 理人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	21.83 m 角 上 方 北 200	\ 90°   雖   小丁 0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	12.00 m 度 下 <sub>0</sub>	東 勾 鉛 0.0° 機	エンジン	ポンプ		

総	掘削	り 長	1:	2.00	m 度	T	°.	* 3	0.0°	向		エンジン   ポンプ								—	—		
標	標	深	柱	岩	色	硬	_	割れ	風	変	記	取率   岩   八	東立	室	掘			コアチ	給				
尺	高	度	状	種区			ア形	月の状					験(孔内	内試		速度(買)	/ 孔壁保	<sub>ナユ</sub> ーブ/ビ	€N	数(	水圧(	量	
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	[%]	水平載荷)	験	日	時	保		MPa	rpm _	MPa	分	分
- 1 - 2 - 3	20, 18 19, 56 19, 35 18, 97	2.86	= 3.79=	砂礫砂ル料	黄の田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田						0.00~2.62m:珍線及び砂(②層) 0.0~1.91m:砂線 機は径5~130mの元能製践与の五角 ・亜円線、縦率50%。基質は粗砂 1.91~2.62m:破 ・中砂~粗砂が主体、下部ほど細粒で シルトが混しる。傾斜5のラミナを もつ。下部に径2~3mmの石英を多 く含む。 2.62~8.25m:シルト質粘土及び砂線 (②層) 2.62~2.36m:シルト質粘土及び砂線 (②層) 2.62~3.36m:シルト質粘土及び砂線 (3.86~3.30m:細砂 傾斜55。砂質シルトとの互際で、				3/8	80	ケーシング 86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	1,0	90	0.1	泥水1	1 -
<ul><li>5</li><li>6</li><li>7</li><li>8</li></ul>	17, 76 17, 59 17, 36 17, 02	4.90 5.16 5.55 6.44	0.000	様・シ 様・上 に は が に は れ に は れ に り れ に り れ り に り れ り に り れ り れ り れ り	白養明黄橙にぶい黄檀灰白莢						全体に細砂が優勢。 3.0~4、27m、裸混じり砂質シルト 石英、花崗斑岩の細~中礫を含む。 4.27~4.70m、粗砂 4.70~4.90m:砂質シルト 4.90~5.16m:シルト混じり粗砂 5.16~5.55m: 組映混じり中砂 径3~5mmの石英、花崗斑岩の伊彦含む。 5.55~6.44m: 粗砂 5.55~6.44m: 鬼か				3/9	100	- 86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビ	1.0	90	0.1	泥水1	- 1
_ 9 _ 10			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑	にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	δ		6.44~7.61m: 砂罐 礫は石英と径10~340mmの花崗斑岩 ・緑率30%。粗砂の基質からなる。 下部は粗砂主体で若干のシルトが 混じる。 7.61~8.25m: 綿礫・シルト混じり中 8.25~12.00m: 花崗斑岩 (Gp)					110		モンドビット					-
- 11		12.00		3	灰白にぶい黄檀				δ ε δ	3	8.25~10.43m:幅1~2mmの粘土脈 が網目状に分布する。10.09m以深 では土砂状を呈する。 ●10.43~11.00m:破砕部(K断層) 10.43~10.44m:粘土状破砕部(Hc	100			3/10	75	86	ダファーダモビト フュ/ヤド	1,0	90	0.1	泥水1	1
											1)上端・下端とも55°で扱わ道線的でシャープに連続する。径1〜2mの石灰粒を形面。10.44〜10.50m: 破資粘土状破砕部(Hb)と端65°、下端不明瞭(新移的)で、上端55°、下端不明瞭(新移的)で、上端55°、下端不明瞭(新移的)で、上端50°、下端70°が、100mの粘土化上方。幅8cm (65°)。10.60〜11.00〜11.64m: 破砕部(65°)。11.38〜11.44m: 破砕部(65°)。11.38〜11.44m: 破砕部(65°)。11.38〜11.44m: 破砕部(65°)。11.38〜11.44m: 破砕部(65°)。11.38〜11.44m: 破砕部(65°)。11.38〜11.44m: 破砕部(65°)。11.43〜11.44m: 破砕部(65°)。11.43〜11.44m: 破砕部(55°)。11.38〜11.44m: 破砕部(55°)。11.38〜11.44m: 破砕部(55°)。11.43〜11.44m: 破砕部(55°)。11.43〜11.44m: 破砕部(55°)。11.43〜11.44m: 破砕部(55°)。11.441〜11.44m: 破砕部(55°)。11.441〜11.44m: 破砕部(55°)。11.441〜11.44m: 1441〜11.44m: 1												



G-5 (1/1)

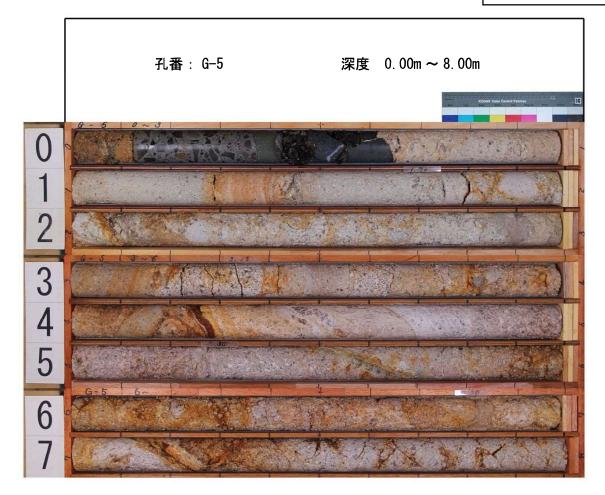
# ボーリング柱状図

ボーリングNo.						1
						1

事業	工事名

ボーリング	グ名	G-5	調査位置 X:393	3.771, Y	: 1100.728	3		北 緯	35° 45' 20.31"
発 注 機	関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015 年 7月21日~ 2015 年	7月22日	東 経	136° 1′ 3. 26″
調査業者	1 名		主任技師		現 場代理人	コア鑑定者		ボーリン グ責任者	
孔口標	高	18.70 m 角 上 方	北 0° 地 盤 水玉	使 F <sub>0°</sub> 用	試 錐 機	, 克	ハンマー 客下用具		
総掘削	長	8.00 m 度 下。 向 西	東 勾 鉛 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回	ア 0.0° 横	エンジン	л	ポンプ		
標 標	深	柱岩色硬コ割風変	記	コア採	取率岩	孔 (標準貫入 ) 言	試験 原位	室掘掘	孔コ給回送送排

																									_	_		_	_				_		_
標	標	深	柱	岩	色	硬	٦	割れ	1	変	5			ア採取率	岩	孔 内 小	3 I.	_	(		標準貫入 N値~深度		) 試験		⊹∣	室		屈 石	孔 :	コアチ		回対	-1		
尺	高	度	状	種区			ア 形	目の					設 R	大コア長 → cm Q D へ [%]	級区	7位で/測定月	ž 9)   1	N						1	検	为 試	ر  آ	度 / 用	m) . / 孔壁	ューブ/ビ	Œ	数」	Ξ :	量(上	量(上
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	0		50 10	分	F	1	直	)	10	20	30	40	50	平成時	験	B	诗   Î		ッ ト 「	¶Pa .	- - -		ラ 分 	分
- 1	18, 06 16, 95			埋土 深り貫 シ	大変を表						0.00~0.64m: 埋土である。 機混じり砂. コンクリートからな る。 0.64~4.26m: シルト混じり砂礫主体 の第四系である。 0.64~1.75m: 礫混じりシルト質砂で ある。			(100)													1	44	10/5						
— 2 — 3			0.000 0.000 0.000 0.000 0.000	ルト混じい	灰黄 医明褐灰						径2~30mmの半クサリ線化した花崗 斑岩等の角礫を裸率10%含む細~中 粒砂からなる。下位境界は不明瞭 である。 1.08~1.70m: 細粒分が多い。 1.75~4.26m:シルト混じり砂礫であ			(100)													7/21 1	16		ダブルコアチューブ				泥	-
— 4 — 5	14. 44	4.26	20 0 0 0 0 0 0 1 + + + + + + + + + + + + + + + + + + +		灰明褐灰	Eg Dg	VIg	dg	r	4	る。 ・ 議は径2~100mmの一部半クサリ礫 化した花崗斑岩、アプライトの亜角 ・ 角礫である。基質は中粒~粗粒 砂からなる。締まる。 2.88~3.16m: 灰色の礫混じりシル ト質砂を呈する。傾斜10 のラミナ	1 [0]	]	(100)													1	17 3	36 記水	フ/ダイヤモンドビ	10.0 2	200 0	0.2	泥水1	1-
— 6 — 7			++++ ++++ ++++ ++++ ++++ ++++	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	V g VI g	cg dg	ľ	3 4 3	が分布する。 4.26~8.00m: 花崗斑岩である。 7.36m以浅は風化と破砕で軟化して いる。	2 [0:	1	(100)	D'												7/22	29 57		ット					-
	10, 70	8,00			灰白	Dg	Ng	cg	r	2	時部 (H)) 上端50 で波対フ,下端66 で直 網的に連結。 総5~(0mm 外形不明瞭な岩片が 多い、灰赤色を呈する。 4,38~4.67m : 練質粘土状破砕的 (他)。下端55 で直線的に連 続。径10mmの外形不明瞭で破平 不詳。灰赤色を無し、一部にを する。幅14.6cm。 人67~4.8cm : 私土状破砕部 (Ho -1) 上下端25 で直線的に連続する。 下端面上20~30 で斜交する機 を呈する。幅14.6cm。 人67~4.7cm : 練質粘土状破砕部 (Hb) 上端55:下端42で直線的に連 を当する。 (大日本を生する。 (大日本を生する。 (大日本を生する。 (大日本を生する。 (大日本・「第42 で直線的に連 続する。 (表2 ~4.80m: 粘土混じり線状破砕部 人72~4.80m: 粘土混じり線状破砕部 人72~4.80m: 粘土混じり線状破砕部 人72~4.80m: 粘土混じり線状破砕部 (大日本・「第42 で直線的に連 続する。 (表32~7.36m: 白色 で粘土化が進む。 。 。32~7.36m: 白色 で粘土化が進む。 。	10	0		-ca.																				



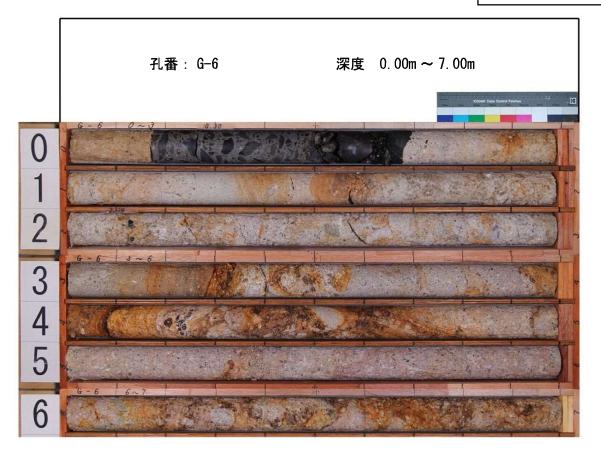
G-6 (1/1)

# ボーリング柱状図

事業▫	工事名
-----	-----

ボーリング名	G-6 調	周査位置 X:393.771, Y:	1100. 228	3	北緯	35° 45′ 20. 30″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2015 年 7月20日~ 2015 年 7月21日	東 経	136° 1′ 3. 27″
調査業者名	±	上任 技 師	現 場代理人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	18.76 m 角 上 方 北	90°   盤   水平0°   用	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	7.00 m 度 下 0 向 西 180		エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬	٦		風	変	55		⊐ '			文率	岩	1	孔内		T	(			準貫  V値	【入 ~深』	度	)	試)		原位置記	<u> </u>	2		掘進	孔径	1ア	給		-		掛
尺	高 (m)	度 (m)	状図	種区分	調	扩	ア形状		11-	暫	<b>*</b>		最 R	-6	⊶ Q	P長 cm D [%]	級区分	<u> </u>	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Z )値	_										置記覧(孔内水平載荷)		đ	進	速度(㎝/時	一∭/孔壁保護	チューブ/ビット	圧 (kN MPa	数 个 rpm		量(L/分	
(m)				埋土	にぶい	$\perp$	100	765		_	プ 0.00~0.68m:埋土である。 細粒~粗粒砂、コンクリートから	-	, TT	П	50				-	$\perp$	+	0	10	0	20		30		40	Ę	50 苞	, 4	<u>*</u>	-	90	100/			_	_	-	/ ~
— 1 — 2	18, 08 16, 91			工 機混じル ト質砂	褐灰 浅黄橙						福和で、福和で、コンケリードからなる。  0.68~4.09m:シルト混じり砂礫主体の第四系である。 0.68~1.85m:礫混じりシルト質砂である。					(100																			103	ング	ダブル					
— 3			0.000	ルト混じり	灰黄灰灰						礫径2~40mmの半クサリ礫化した花 崗斑岩、アプライトを5~10%含む 細~中粒砂からなる。 1.85~4.09m:シルト混じり砂礫である。	╽┟				(100																		7/20	78	86	コアチューブ	10.0	200	0.2	泥水	1
- 4 - 5	14. 51 14. 15	4.09 4.25 4.61	9699 6099 1 + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	砂礫魔岩ルじ機	灰白明黄褐明	Eg	VIE	de	ā	3	機は径2~150mmの半クサリ磔化した花崗斑岩、アプライトが主体で、 基質は細粒〜粗粒砂で全体に淘汰 不良である。 3 10~3 29m: 傾斜20°で灰色の礫 混じりシルト質中粒〜粗粒砂を呈	4 10	0]			(100																			150	泥水	/ ダイヤモンドビ				1	
— 6		7 00	+++++	花崗斑岩	7褐灰 明黄褐	Eg	VIg	dg	δ	2	する。 4 00 - 4 25m - 井岸野岩できる	2 [1	2 0] 2 0]			(100	D'																		163		ニット					
		7,00			Tal						での砂状化と変質粘土化が速む。(砂状化と粘土化)。等への10mmの岩 片からなるが、砂状化と粘土化の をした、25mmに対したのが多し、明黄褐色を呈する、幅9cm、 4.18~4.23mm・確質粘土状破砕部 (Hb) 上編42 で 直線的に連続する。優 ケー(10mmのマンガン鉱泉で灰黄褐色 化した岩片と白色軟質比からなる。機量30%前後、上紅冬岩片は 足2~3mmに相較化しているものが 多し、また径2~4mmの万英粒も分 布する。明黄褐色を呈する。編3。9cm、3~4.25mm・粘土状破砕部(Ho-1)上端は35~45で大きく波打って連続、径 1~2mm石英粒を5%以下でかずのに った。明黄褐色を呈し、7mmの幅1 mmはにぶい黄褐を重する。編5~15 4.25mmの下五数を5%以下でかずの一 の素四系である。半クサリ線化した亜角線が主体で 未期は55~55。										-																					



H24-H-14

H-14 ( 1 / 1 )

## ボーリング柱状図

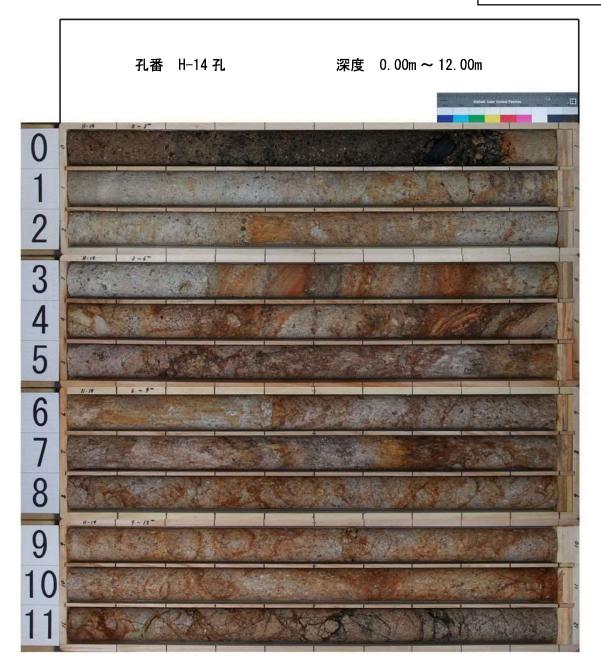
調査名

ポーリングNo. 1

車	坐	T3	氢夕	

ボーリング名	H–14	調査位置 X:392.490 , Y:	1100. 294		北緯	35° 45' 20. 27"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	,	調査期間	2013 年 5月30日~ 2013 年 6月 4日	東 経	136° 1′ 3. 23″
調査業者名	Ē	主任技師	現 場代理人	コア鑑定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	18.78 m 角 上 5 北	, 0° 地 使	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	12.00 m 度 下。 向 西 180°	東	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬	٦	١.	風	変	記		コア採取	石	孔内		(	1	票準貫入 N値~深度	) E	試験)図	原位	室	掘	掘進		コア	給	回	送 ;	送掛
尺	高	度	状	種			ア	れ目の					最大コア	· E 級	水位m	N	`				, [	原位置試験(		_	l I		チュ			1	水 / オ 量 / 量
(m)	(m)	(m)	図	区分	調	軟	形状	状	化	質	事		R G.	分	測定月日	値	0	10	20	30	40 5	(孔内水平載荷)	試験		(5人時)		É	kN MPa	rpm	MPa :	
	17. 88	0.90		埋土	にぶい 黄褐 灰黄褐						0.00~0.90m:埋土 礫混じり粗砂からなる。径5~10mm の砕石を含む。	ľ	0 50	(100)				10	20	30	40 5					101/ケーシング	シングルコア	0,2	80	0.0	無 水 0
_ 2			0000	礫混じり	灰白 にぶい 黄檀						0.90~3.85m: 礫混じり粗砂及び粗砂( ②層) 0.90~3.28m: 礫混じり粗砂 610~60mmの亜円~亜角礫を含む。 3.28~3.85m: 礫・粘土混じり粗砂			(100)										5/31	305	86	チューダ インヤドト ット	0,1	180	0.1	泥水 3
_ 3	15, 50	3, 28		り砂・混砂・混砂	<sup>明黄褐</sup> 灰白	4					径3~10mmの石英や碟を含む。基質は粘土の混じる不均質な粗砂。 3.28~3.41m:傾斜10~20 の弱い ラミナあり。			(100)																	泥
- 4 - 5	14. 93	4.73	0.000	砂礫	大き	Dg	Vg	cg		2	3.85~4.73m: 砂礫(①層) 礫は径2~100mmの石英, 花崗斑岩の 亜円~亜角礫。基質は締まった粗 砂。	1		(100)-											175		ダブ			0.2	泥水 3
- 6					い褐明					3 4 4	4.73~4.93m: 都和目沿いに褐色化 が著しい。 ●4.93~7.81m: 破砕部(K断層) 4.93~7.81m: 破砕部(K断層)	1	0) 4 0) 3	(100)-4													ルコアチューブ		ŀ	0.1	泥 水 3
- 7				-	褐灰					3 4 3 4 3	) 上端55°、下端55°で、両者とも 直線的でシャープに連続。径1~2 mmの石英粒を少量含む。色調は浅 部側から、にぶい橙色~明黄褐色	0 0	3 (0)	(100) - D.										6/1	90	86	<b>ブ/ダイヤモンドビ</b>	0.1	180		
F 8			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩	ı=	Eg	VIg	dg	δ		〜にぶい橙色〜明黄褐色とほぼ平 行な綿状で厚さ5〜10mmで繰り返し 出現する。幅3.5cm。 4.97〜7.81m: 粘土混じり岩片状破 砕部(Hj)	3	3	100.													ドピット			0.2	泥水 3
— 10			+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		ぶい黄橙					2	上端55°, 下端50°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で連続する。径5〜40mmの一部 粘土化、一部硬さEないしDの花崗	[) [)	2 [0] 2	400											150						
- 11	6. 78	12.00	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +		灰褐	Dg	Vg	cg	r		斑岩岩片と岩片が粘土化ないし砂 状化した基質からなる。5.74~5.8 4m.6.17~6.42m.7.10~7.34m.7 50~7.69mはいずれも粘土化が著 しい軟弱な粘土であるが、各粘土		(0) (0)	(100) + CL										6/ 2	160	86	ダブル ファーブ イン・ ヤビッ	0.1	180	0.2	泥水 3
											境界は補移的でせん所面はもたな い。全体の空間は風化の強弱に対 応して、灰白色・明章視色~檜色 ・褐色など多様に変化っちる。 7.81~11.00m: 軟化した岩片と砂 状化した岩質りらなる。一の8.基質 中に幅1mm前後の明章褐色粘土脈が 分布する。11.00~12.00m: 横斜10~30 <sup>3</sup> とし れらに斜矢する40~80 <sup>7</sup> の割とし が分布する。割れ目沿いの砂状化が 認められる。					•			·												



G-7 (1/1)

# ボーリング柱状図

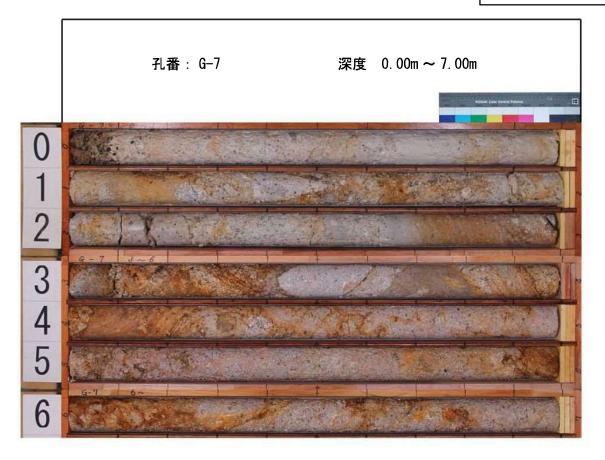
調査名

ポーリングNo.             1
------------------------

事業 • 工事名

ボーリング名	G-7 期 3	查位置 X:393.771, Y:	1099. 728		北緯	35° 45′ 20. 28″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	1	調査期間 2015 年 7月1	5日~ 2015 年 7月18日	東 経	136° 1' 3. 28"
調査業者名	主任	任技師	現 場代 理 人	コア盤定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	18.15 m 角 上 90° 方 北 0	<b>\ 。。。 │ 盤 │  水平 。。 │ 角 │</b> ₺	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	7.00 m 度 下。 向 西 180 市	東 勾 鉛	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬	_			. 変	記		コア採取率	岩	孔内		(	標準貫入 N値~深度	Ę	)試験	原位	室	掘	掘進	孔 :	コ糸	合回	送	ij	<b>差</b> 排
尺	高	度	状	種			ア	れ 目					最大コア長 → cm	級	水位(m)	1	N				置試験	内	進	速度	(mm) =	ξ   1 7   Ε	車 数		、 / E	k 水 計量
			,	区			形	の状					R Q D	区	測定月日		_				(孔内水平載荷)	試	月	cm /	TL	/ k	<ul> <li>Irp</li> </ul>	m MPa	L	) (L
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	11	質	事	Щ	0 50 100	分	1	fi	直 0 10	20	30	40 5	載荷	験	日	時	護	⊢ liaπ	Pa 	/ _	1/3	
_ 1 _ 2 _ 3 _ 4 _ 5	18. 06 16. 93	1.22		シルト混じり砂礫	浅黄橙 灰灰 に黄 変い舞 淡		W.s.				0.00-0.09m: 埋土である。 煙湿じり類和砂からなる。 0.09-4.41m:シルト湿じり砂礫主体 の第四系である。 径2~40mmの半クサリ碟化した花崗 勇機を10-20%合む網~中粒砂から なる。 0.66-0.78m: 機を値かに含む均質 なシルトである。 1.22-4.41m:シルト湿じり砂礫であ 着2-240mmの硬質な花崗短巻・ブライトの砂燥であ 25-240mの硬質な花崗短巻・ブライトの砂燥である。 後2、240mの硬質な花崗短巻・女る。基質は細粒・相粒砂からな なる。全様に対象木段である。		(100)										7/17	135 120 113	1	ダブレコアチューブ/ダイヤモンドニ	».• 20	0 0.1	31 1 7 1	<b>配</b> く 1
— 6	11. 15	7.00	+++++ +++++ +++++ +++++ +++++ +++++ ++++	花崗斑岩	橙褐灰	Eg	Vs VIs Vs	+	ε	2	2.65-2.88m: 涙をのシルト質細粒 砂で機約5'の弱いラミナがある。 砂 3.30m: セグ財面 (松財商) (税所配) 付款50'、 褐色化したせん断剤的 機約50'、 褐色化したせん断剤の 3.65-3.80m: 沢青色のシルト質細 丸砂である。 全体に軟質である。一部で割れ目 沿いに砂状化している。	1	3 (100) 5 (100)	, CT.										123		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		<u> </u>		



G-8 (1/1)

# ボーリング柱状図

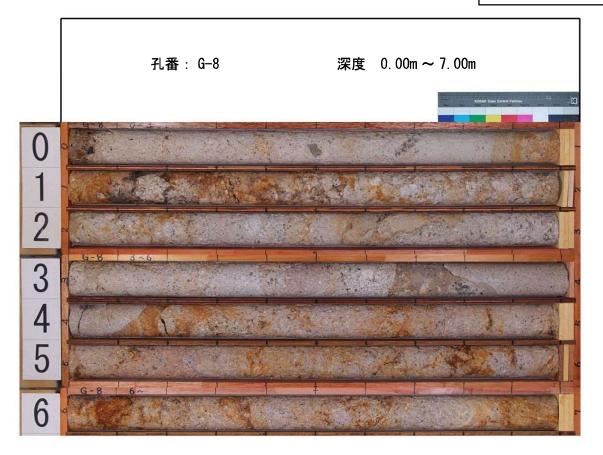
調査名

ボーリングNo.						1

事業 • 工事名

ボーリング名	G-8 調査位置 X:393.771,	Y: 1099.22	8	北緯	35° 45′ 20. 27″
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2015 年 7月28日~ 2015 年 7月30日	東 経	136° 1′ 3. 29″
調査業者名	主任技師	現 場 代 理 人	コア戦にを対して	ボーリン グ責任者	
孔口標高	18.02 m 角 180° 方 北 0° 地 水平 0°	使 試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	7.00 m 度 下。 向 西東 東 知 節	機 エンジン	ポンプ		

標	村	票	深	柱	岩	色	硬	_	割れ	風	変	記		コア採取率	岩	孔内		(		標準貫入 N値~深度	) 試験	原位	室	掘		孔 = アチ	1 給	1	-		
尺	Ē		度	状	種区			ア形	目					→ cm	級区	水位 兜/測定	^	1				原位置試験(汎内水	内試	進月	速 度	(mm)   =	E	i ^	圧	量 (L)	水量(L)
(m)	(r	n)	(m)	図	分	調	軟	状	1	化	質	事	Ш		分	定月日	佢	直	10	20 30	40 5	(水平載荷)	験	日	時	保 ッ	MP:	a   P	MPa	分	分
1 2 3 4 5 6	16.	. 54	1.14 4.48	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	シルト混じり砂礫	明黄灰白 養皮質 にぶい			dg	δ	2	0.00~4.05m: 埋土である。  強速レジンルトからなる。 0.05~4.46m: シルト速しり砂礫主体 0.96の実際である。 1.05~1.46m: 保湿しりシルト質砂で ある。 径2~50mmの半クサリ弾化した花崗 斑光・アプライトの角膜を10%含む 4個・中発からなる。 2.20mmの半クサリ弾化したた 高 高速光・アプライトル速じり砂礫である。 2.20mmの半クサリ弾化したた 高 関連・アプライトの重角・2.20mである。 2.20mの半クサリ弾化した 亜円 環が生体となる。 急質は細粒 本租 せんが 強い 大きな に 本質の 褐色化が 強い 2.50~2.70m: 上質砂が分布する。 ●2.60m: せん断面(K断層) 傾斜50°。 概ね直線的な割れ目が 大部で (せん断割れ目が 大部で (せん断割れ目が 大部で 3.36~3.10m: 定位の確認しりシルト質砂が分布する。 2.60m: での時況に ジシルト質砂が分布する。 3.65~3.65~3.65~3.65~3.65~3.65~3.65~3.65~			D'									7/23	150	100/2/ タフルニアテューランタイヤモントヒット	10,4	200	0.1	泥水	1 -



G-9 (1/1)

# ボーリング柱状図

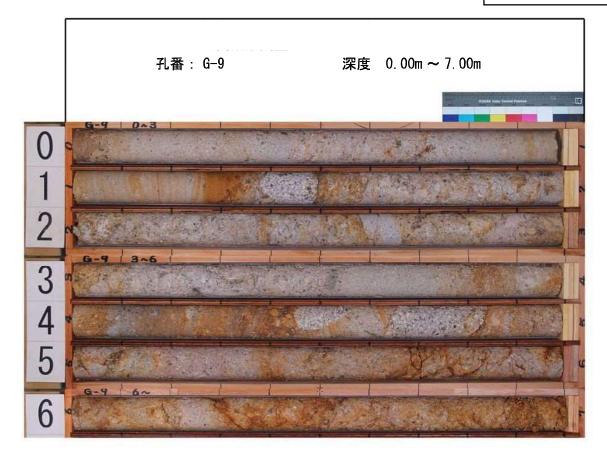
調査名

ボーリングNo.						1
						1

事業 • 工事名

ボーリング名	G-9 調査位	立置 X:393.771, Y:	1098. 728		北緯	35° 45' 20. 26"
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	1	調査期間 2015 年 7月27	日~ 2015 年 7月28日	東 経	136° 1′ 3.30″
調査業者名	主任技	支師!	現 場 代 理 人	コ ア 監定者	ボーリン グ責任者	
孔口標高	17.97 m 角 180° 方 北 0° 上 90° 方 270°		試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘削長	7.00 m 度 下 0 向 西東	東 勾 鉛 人 機 種	エンジン	ポンプ		

標	標	深	柱	岩	色	硬			風	変	記		コア採取率	岩	孔内		(		準貫入 N値~深度	E	) 試験	原位	室		掘進	孔 = 7 月	1 給		l 送	送	€ 排
尺	高	度	状	種			ア	れ 目				:	最大コア長 → cm	級	水 位 m	N	,				, –	原位置試験	内		速度	// ]	╘				<
				区			形	の状					R Q D	区	/測定月日	_						(孔内水平	試	月	cm	孔壁保護	κί ki	ì ror	1	ĺ	ĵ
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事		0 60 100	分	召	値	0 1	0	20	30	40 5	水平載荷)	験	日	時	護	I IAIL.	a		5	
- 1 - 2 - 3 - 4 - 5	16, 83		////00	ルト混じり砂礫	灰白 関 灰白 オブラス 浅黄橙	Eg	VIg	dg	ε		0.00~4.97m:シルト混じり砂礫主体 の第四系である。 00~1.32m: 裸混じりシルト質砂である。 縁径2~30mmの半クサリ弾化した花 歯斑岩、アプライトの角礫を10%含 51細~中数かからなる。下端は風 化で褐色を呈する。 62~200mmの半クサリ弾化した花 歯斑岩、アプライトの重角~角礫 が主体となる。基質は緩粒~明粒 が主体となる。基質は緩粒~明粒 砂で全体に淘汰不及である。 02.00m:せん財面(K財際) コアではコア端部となるため不 詳。 4.58m: 傾斜25°の弱いラミナがある。		(100)	D'										7/21	160	V     タフルニアチューン / タイヤモントヒット	10.	◎ 200	0.1	泥水 1	3 1
— 6	11.91	7.00	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩	明黄褐			cg	-	2	4.97~7.00m: 花崗斑岩である。 全体に軟質で割れ目は不明瞭である。	2	4 (100)	CL.											140						



G-10 (1/1)

# ボーリング柱状図

ポーリングNo.                 1
----------------------------

車業		丁重夕
<b>**</b>	•	<b>上</b> 爭也

ボーリング名	G-10 調査位置 X:393.771, Y	調査位置 X:393.771, Y:1098.228									
発 注 機 関	日本原子力発電株式会社	調査期間 2015 年 7月 5日~ 2015 年 7月 5	日 東 経 136°1′3.32″								
調査業者名	主任技師	現 場 コ ア	ボーリン グ責任者								
孔口標高	18.04 m 角 180° 方 北 0° 地 快	— 具									
総掘削長	8.00 m 度 下。 向 西東 勾 館 機種	エンジン ポン	プ								

標	標	深	柱	岩	色	硬		割れ	風	変	后	:	コア採取率	岩	孔内		(	1	標準貫入 N値~深度	) 試験	原位置	室	掘	掘進	孔 = 2	1 経				
尺	高	度	状	種			ア	目の					最大コア長 → cm R Q D	級	水位®	١	1				試験		進_	速度	生 (mm)   ラコ / 孔   1	, 厅	数	水圧		
(m)	(m)	(m)	図	区分	調	軟		状	化	質	事		_ [%]	区分	測定月日	位		10	20 30	40 5	(孔内水平載荷)	試験	月日	(m /時)	発保護	/ MD	rpm a	MPa	(L/分)	
- 1				礫混じりシルト	灰白						0.00~5.25m:上部は碟混じりシルト 質砂、下部はシルト混じり砂礫主体 の第四系である。 0.00~2.04m: 碟混じりシルト質砂で ある。		(100)-4						20 30	40 3				160	100/ 					
<ul><li>2</li><li>3</li></ul>	16. 00	2.04	0.65.0 0.9.0 9.00	シルー	にが 黄檀 灰白						径2~60mmの半クサリ磔化した花崗 斑岩、アプライトの角礫を10~15% 含む網~中粒砂からなる。 ●1,20m: せん断面(K断層) 傾斜65、30 の淡褐色縞状風化 部をシャープに切る (変位センス		(100)-											144	タンルニアチ	í				
- 4			0.000	じり砂礫	D 灰浅黄橙						不明)。 2.04〜5.25m:シルト湿じり砂礫である。 を2〜320mmの半ケサリ礫化した花崗斑岩、アプライトの亜角〜角礫が主体となり、礫率は40%である。		(100)-										7/25	130	86 / 泥水	10.	200	0.1	泥水1	
- 5 - 6	12, 79	5, 25	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +		橙明褐灰		VIg Vg	dg	r		基質は細粒〜粗粒砂で全体に淘汰 不良である。締まる。 2.04〜2.27m: 礫径10〜30mmが多く 、全体に風化で褐色化している。 3.94〜4.25m: 灰色の礫混じりシル	1 [0 3	(1 (100)-4 (0) (100)-4											156	北水・イヤモントヒット					
- 7	10, 04	8,00	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	花崗斑岩	明黄褐	Eg		dg	δ	2	ト質砂を呈する。 5.25~8.00m・花崗斑岩である。 風化で軟化が著しく、締まった砂 状で割れ目はほぼ消滅するが、一 部で径10~20mの岩片が残留する。 6.85m以次では、全体に砂礫状コア	1 [6	(0) (100)- 1 (100)- (0) (100)-	. D'										128 287						
											となる。 7.90~7.95m: 傾斜37 の割れ目沿 いに珪化変質し軟質な岩片が残留 する。																			

